

第299図 奈良・平安時代遺構位置図

## 第5節 奈良・平安時代

### (1) 住居跡

#### 10号住居跡 (遺構：第300図、P L 180 遺物：第316図、P L 188、観察表 P 93)

位置：R 25グリッド。主軸方位：N - 89° - E。平面形態：縦長長方形。規模：3.90m × 2.35m。床面積：8.7㎡。残存深度：23cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸がある。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁南寄りに位置。粘性の強い土で構築されている。天井部は既に崩落しており、掛け口等の状態は不明。45cmほど壁外に出る状態にある。6層に灰・炭が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：広範かつ不定形に10cm前後掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・白色軽石粒を含む暗褐色土を基調とする。中央部に焼土・灰・炭化材の堆積がみられる。

遺物出土状態：カマド内から土師器甕と須恵器坏が、カマド向かって右脇から須恵器皿が出土している。また、中央南西寄りから須恵器坏が出土している。

遺物：土師器甕1・坏2以上、須恵器坏4以上・皿1・皿2以上を確認している。掲載遺物4点。

#### 11号住居跡 (遺構：第301図、P L 180 遺物：第316図、P L 188、観察表 P 93)

位置：R 25グリッド。重複：12号住居跡を切る。風傾木痕より本住居跡が新しい。主軸方位：N - 90° - E。平面形態：縦長不整長方形。規模：3.15m × 2.40m。床面積：6.8㎡。残存深度：15cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がる。床面：2層上面が床面と考えられ、多少の凹凸がみられる。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央南寄りに位置。既に崩落しており、楕円形の掘り方を確認し得たのみで構築状態は不明。東寄りに支脚に使用されたと思われる河原石がある。25cmほど壁外に出る状態にある。3層に灰が、4層に焼土が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：広範かつ不定形に10cm前後掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・白色軽石粒を含む暗褐色土。遺物出土状態：カマド手前から須恵器坏が、東壁際北寄りに土師器坏・須恵器皿が出土している。遺物：土師器甕破片・坏2以上、須恵器甕破片・坏1・皿1を確認している。掲載遺物3点。

#### 12号住居跡 (遺構：第302図、P L 181・182 遺物：第316図、P L 188、観察表 P 93)

位置：R 25グリッド。重複：11号住居跡・47号土坑に切られる。主軸方位：N - 93° - E。平面形態：横長長方形。規模：4.50m × 3.15m。床面積：不明。残存深度：8cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸がある。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央付近に位置。両袖部・住居跡東壁の位置に角柱状粘土を配し、粘質土で構築している。天井部は既に崩落し、掛け口等の状態は不明。55cmほど壁外に出る状態にある。7層と12層に灰が大量に堆積している。掘り方の平面形態は楕円形。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：北側から西側中央部までをL字状に10cm程度掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土。

遺物出土状態：埋没土中から少量の遺物が出土している程度であった。

遺物：土師器坏1・台付甕脚台部片、須恵器坏片を確認している。掲載遺物1点。

#### 13号住居跡 (遺構：第303図、P L 181・182 遺物：第316図、P L 188、観察表 P 93)

位置：Q 26グリッド。重複：28号古墳及び30号溝を切っている。主軸方位：N - 86° - E。平面形態：横

長方形。規模：2.85m×2.55m。床面積：6.7㎡。残存深度：34cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の起伏がみられる。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央南寄りに位置。両袖に円礫を配し、粘質土で構築したと思われるが既に崩落している。40cmほど壁外に出る状態にある。中央部に河原石があり、支脚と考えられる。4層に灰が、5層に炭化材が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・小礫等を含む暗褐色土を基調とする。備考：南壁際中央付近に長さ35cmほどの礫があり、入口施設に関連する可能性もある。

遺物出土状態：礫に近接して土師器環（墨書土器）が、中央付近から須恵器皿・坏が出土している。

遺物：土師器丸破片・坏8、須恵器皿1・坏2以上を確認している。土師器坏(2)には、内底部に墨書文字がみられる。須恵器皿(4)には胎土に結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物5点。

#### 14号住居跡（遺構：第303図、P L 182 遺物：第316図、P L 188、観察表P94）

位置：R26グリッド。主軸方位：N-88°-E。平面形態：横長方形。規模：2.40m×1.70m。床面積：3.8㎡。残存深度：16cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：2層上面が床面と考えられ、やや凹凸がみられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：北西部にピット2基を確認したのみである。カマド：新(1号)旧(2号)2基を確認している。東壁南寄りのものが新しい。1号カマドは、手前に炭・灰が広範囲に分布するが、既に崩壊しており構築状態等は不明である。3層に炭化材の堆積がみられる。また、中央部はピット状に掘り込まれている。2号カマドは東壁中央付近に構築されており、平面楕円形の掘り方が確認されている。貯蔵穴：南東隅に平面形態楕円形、規模35cm×31cm・深さ10cm弱の坑があるが、貯蔵穴とは断定できない。掘り方：北東部には楕円形に、南西部には不整形に20cm程度掘り込んでいる。その後、ローム粒・ロームブロック・焼土を含む土を充填し床面としている。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック等を含む暗褐色土。

遺物出土状態：1号カマド手前周辺を中心に少量の遺物が出土している。

遺物：土師器丸1、須恵器坏2以上を確認している。掲載遺物2点。

#### 15号住居跡（遺構：第304図、P L 182 遺物：第317図、P L 188、観察表P94）

位置：R27グリッド。主軸方位：N-109°-E。平面形態：横長方形。規模：3.85m×2.55m。床面積：9.3㎡。残存深度：25cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：5層上面が床面と考えられる。全体的にほぼ平坦である。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央南寄りに位置。左袖部・住居跡東壁の位置に粘土を配し、粘質土で構築したと思われる。40cmほど壁外に出る状態にある。天井部は既に崩落しており、掛け口等の状態は不明。7層・8層に灰が堆積している。また、平面楕円形の掘り方が確認されている。貯蔵穴：カマド向かって右脇に位置。平面形態は楕円形で、規模80cm×55cm・深さ15cm程度。掘り方：中央部を遺構とほぼ相似形の長方形に10cm程度掘り込み、ローム粒・ロームブロック等を含む暗褐色土を充填し、貼り床を造っている。あるいは拡張していた可能性もある。埋没土の特徴：ローム粒・焼土粒等を含む暗褐色土を基調とする。備考：拡張の可能性あり。

遺物出土状態：カマド内から瓦が出土しているほか、少量の遺物が散在するような状態であった。

遺物：土師器丸2以上、坏2以上、須恵器丸破片・皿1・坏破片、磁石2。掲載遺物2点。

19号住居跡（遺構：第301図、P L182）

位置：S25グリッド。主軸方位：N-102°-E。平面形態：縦長長方形。規模：2.60m×1.80m。床面積：4.1㎡。残存深度：13cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がりはじめる。床面：多少の凹凸がみられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：遺構内にピット2基がある。カマド：東壁中央付近に位置。既に崩壊しており、平面楕円形の掘り方を確認し得たのみである。35cmほど壁外に出る状態にあり、袖部は地山を掘り残している。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：埋没土中から土師器片がわずかに出土している程度である。

遺物：土師器瓦破片を確認している。掲載遺物0。

26号住居跡（遺構：第305図、P L183 遺物：第317図、P L188、観察表P94）

位置：T25グリッド。主軸方位：N-93°-E。平面形態：縦長長方形。規模：2.80m×1.85m。床面積：5.0㎡。残存深度：30cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸・起伏がある。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央付近に位置。既に崩壊しており、平面楕円形の掘り方を確認し得たのみである。30cmほど壁外に出る状態にある。3層に灰が堆積する。貯蔵穴：南東隅部に位置。平面形態は楕円形で、規模80cm×65cm・深さ20cm。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック・白色軽石粒等を含む暗褐色土。

遺物出土状態：貯蔵穴内から土師器杯、須恵器坑・杯がややまとまって出土しているほか、床面に少量の土師器・須恵器が散在していた。

遺物：土師器壺1・杯2以上、須恵器瓦破片・坑1・杯5以上・皿1。掲載遺物5点。

27号住居跡（遺構：第306図、P L182 遺物：第317図、P L188、観察表P94）

位置：M28グリッド。西側は調査区外。重複：18号土坑に切られる。主軸方位：N-93°-E。平面形態：縦長長方形と推定される。規模：3.70m×。床面積：不明。残存深度：31cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：3層上面が床面と考えられる。多少の凹凸がみられ、灰・炭が散在するような状態で分布している。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央付近に位置。左袖部に安山岩を配し、粘質土で構築されていたものと思われる。55cmほど壁外に出る状態にある。大半が既に崩壊した状態で、掛け口状態等の詳細は不明である。6層・12層に灰が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：全体を広範かつ不定形に15cm前後掘り込んでいる。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック等を含む暗褐色土。備考：火災に遭っている可能性がある。

遺物出土状態：カマド右脇から土師器杯・須恵器杯が、中央北東よりから刀子2点が出土している。

遺物：土師器壺1・杯2以上、須恵器杯2以上、刀子2。土師器壺は小片のため固化したかったが、「コ」の字状口縁のものである。土師器杯（1）には胎土に結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物4点。

48号住居跡（遺構：第307図、P L183）

位置：R27グリッド。備考：遺存状態が悪くカマド掘り方部分を検出し得たのみである。カマド：東壁に位置。ほとんど削平されており詳細については不明である。50cmほど壁外に出る状態にある。両袖部・住居跡東壁の位置に角柱状凝灰岩を配し、粘質土で構築したものと推測される。掘り方平面形態は楕円形で

ある。1層に灰・炭化材が堆積する。支脚に使用されたと思われる隙がみられる。

遺物：カマド内から土師器破片。掲載遺物0。

#### 49号住居跡（遺構：第307図、P L 183 遺物：第317図、P L 188、観察表 P 94）

位置：V 2 グリッド。西側は調査区外。主軸方位：不明。平面形態：不明であるが、縦長方形と推測される。規模：-×1.60m。床面積：不明。残存深度：10cm。壁の状態：不明。床面：凹凸がある。壁周溝：確認されなかった。柱穴：ピット1基があるが柱穴とは考えにくい。カマド：東壁に位置していたと想定されるが、攪乱を受けており、不明。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：明瞭に把握できなかった。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック等を含む暗褐色土を基調とする。備考：33号古墳の周溝と重複していた可能性がある。

遺物出土状態：須恵器環2点が出土しているほか、埋没土中に古墳時代の遺物が多くみられた。

遺物：須恵器環2。1の内面は黒色処理が施されている。掲載遺物2点。

#### 71号住居跡（遺構：第307図、P L 184 遺物：第318図、P L 188、観察表 P 95）

位置：h 31 グリッド。西側は調査区外。主軸方位：N-101°-E。平面形態：不明であるが、長方形基調と想定される。規模：3.60m×-。床面積：不明。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸がみられる。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央南寄りに位置。45cmほど壁外に出る状態にある。既に崩壊しており楕円形の掘り方を確認できたのみである。両袖部・住居跡東壁の位置に粘土を配し、粘質土で構築したものと推測される。2層に灰が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・白色軽石粒等を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：カマド向かって右側から須恵器長頸壺が、南壁付近から土師器壺・環・礫石が出土。

遺物：土師器壺1以上・環2以上、須恵器長頸壺1、刀子1、礫石2。掲載遺物6点。

#### 72号住居跡（遺構：第308図、P L 184 遺物：第318図、P L 189、観察表 P 95）

位置：h 31 グリッド。重複：91号住居跡を切る。主軸方位：N-77°-E。平面形態：縦長方形。規模：3.60m×3.10m。床面積：10.6㎡。残存深度：32cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：埋没土の状態からみて2度にわたる床面の造り替え（7層上面→6層上面）があったと考えられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴4本を確認している。北東部の柱穴は浅い。南西部・北西部の柱穴は造り替えが行われているようである。そのほか、南壁際中央付近にピットがあり、入口施設に関連する可能性もある。カマド：東壁中央やや北寄りに位置。70cmほど壁外に出る状態にある。既に崩壊した状態であり詳細は不明。両側には壁外に出る状態で粘土が配されている。また、支脚に使用されたと思われる隙が倒れた状態で検出されている。3層中に灰の堆積が認められる。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：中央部に浅い円形土坑が掘り込まれている。埋没土の特徴：ローム粒等を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：埋没土中に散在するような状態であるが、比較的南東部からの出土が多い。

遺物：土師器壺2以上・環1以上、須恵器壺破片・環4以上・壺1、砥石1。掲載遺物9点。

#### 77号住居跡（遺構：第309図、P L 184）

位置：i 30 グリッド。重複：65号溝に切られる。平面形態：不整形。規模：3.60m×3.50m。床面積：

11.8㎡、残存深度：16cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：凹凸がみられる。壁間溝：確認されなかった。柱穴：ピット3基が西・北・東壁に位置する。カマド：東壁中央付近に位置。60cmほど壁外に出る状態にある。既に崩壊した状態にあり詳細は不明。両側に障が配されている。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・白色軽石粒等を含む暗褐色土。  
遺物出土状態：埋没土中から少量の土器片が出土している程度であった。  
遺物：土師器坏片、須恵器甕片・坏片を確認している。掲載遺物0。

89号住居跡（遺構：第310図、P L 185 遺物：第319図、P L 189、観察表P95）

位置：i 30グリッド。北東一部が調査区外。重複：86号住居跡を切る。84号土坑に切られる。主軸方位：N-70°-E。平面形態：隅丸方形。規模：4.90m×4.80m。床面積：不明。残存深度：39cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：3・5層上面が床面と考えられる。多少の凹凸がみられる。壁間溝：確認されなかった。柱穴：主柱穴4本を確認している。カマド：東壁中央南寄りに位置。北側は調査区外。50cmほど壁外に出る状態にある。天井部は既に崩壊しており、掛け口等の状態は不明。右袖部に粘土が残っており、粘土で構築されていたものと推定される。カマド埋没土2層にも粘土がみられる。右袖の東端部には障を配している。4層・5層に灰が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：縁辺部を「門」の字状に掘り込んでいる。また、掘り方調査の段階で、新たにピット4基が検出された。埋没土の特徴：ローム粒・ロームブロック等を含む暗褐色土を基調としている。  
遺物出土状態：カマド右脇から須恵器蓋が、遺構南西部から石製紡錘車が出土している。  
遺物：土師器甕3以上・坏2以上、須恵器甕1・坏2以上、紡錘車1を確認している。掲載遺物2点。

90号住居跡（遺構：第305図、P L 185 遺物：第319図、P L 189、観察表P95）

位置：h 28グリッド。主軸方位：N-103°-E。平面形態：不整形。規模：3.05m×2.95m。床面積：8.4㎡。残存深度：17cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸がみられる。壁間溝・柱穴：確認されなかった。南東角に浅いピットがある。カマド：東壁中央付近に位置。20cmほど壁外に出る状態にある。既に崩壊しており楕円形の掘り方を確認し得たのみである。カマド埋没土中に少量の灰・焼土粒が観察される。貯蔵穴：カマド南東部に近接して浅い楕円形土坑があるが貯蔵穴とは考えにくい掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒・白色軽石粒等を含む暗褐色土を基調とする。  
遺物出土状態：埋没土中から少量の遺物が出土している程度であった。  
遺物：土師器甕破片、須恵器坏2以上。土師器甕は口縁部の小破片で、固化しなかったが「コ」の字状LJ緑のものである。掲載遺物1点。

91号住居跡（遺構：第309図、P L 185 遺物：第319図、P L 189、観察表P96）

位置：h 31グリッド。重複：72号住居跡に切られる。主軸方位：N-76°-E。平面形態：長方形。規模：3.05m×2.70m。床面積：推定9.4㎡。残存深度：21cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：凹凸がみられる。壁間溝：確認されなかった。柱穴：ピット1基を確認している。カマド：既に崩壊しており不明瞭であったが、南東隅に位置していたと想定される。詳細は不明。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：明瞭に把握できなかった。埋没土の特徴：ローム粒等を含む暗褐色土を基調とする。備考：東側床面付近に焼土が広範囲に分布する。また、地山を円柱状に掘り残している部分が見られた。

遺物出土状態：埋没土中に上器片が散在するような状態であった。

遺物：土師器甕破片・坏2以上、須恵器甕破片・坏破片を確認している。掲載遺物2点。

92号住居跡（造構：第311図、P L 185 遺物：第319図、P L 189、観察表P96）

位置：h30グリッド。主軸方位：N-98°-E。平面形態：不整横長方形。規模：3.00m×2.25m。床面積：6.4㎡。残存深度：15cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸・起伏がある。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁南寄りに位置。65cmほど壁外に出る状態にある。既に天井部は崩落しており、構築状態の詳細は不明。2層に灰が堆積する。埋没土の状態からみてカマドの造り替えが行われたものと思われる。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：ローム粒等を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：カマド内から土師器甕が、南西隅付近から土師器坏が出土しているほか、埋没土中に少量の遺物がみられる。

遺物：土師器甕2以上・坏3以上、須恵器坏片、蓋片を確認している。掲載遺物3点。

93号住居跡（造構：第311図、P L 185）

位置：i29グリッド。重複：77号土坑に過半を切られる。主軸方位：N-79°-E。平面形態：方形。規模：2.90m×推定2.90m。床面積：推定7.8㎡。残存深度：17cm。壁の状態：不明。床面：多少の凹凸がみられる。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央付近に位置。20cmほど壁外に出る状態にある。既に天井部は崩落しており、構築状態の詳細は不明。3層・4層・6層に炭化材が、5層に灰が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：図がしなかったが、ローム粒等を含む暗褐色土を基調としていた。

遺物出土状態：重複の影響もあり、埋没土中から土師器がわずかに出土している程度であった。

遺物：土師器片、須恵器甕片を確認している。掲載遺物0。

108号住居跡（造構：第312図、P L 186 遺物：第319・320図、P L 189、観察表P96）

位置：k30グリッド。主軸方位：N-103°-E。平面形態：横長方形。規模：3.65m×3.00m。床面積：10.0㎡。残存深度：26cm。掘り方底面までは59cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がるが、西壁面は垂直に近い。床面：4層上面が床面で床下土坑の上に貼り床を造っている。多少の凹凸がみられるが、全体的にはほぼ平坦である。4層下には焼上層（5層）がある。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央付近に位置。65cmほど壁外に出る状態にある。天井部は既に崩落しており、掛け口等の状態は不明。北側壁面は焼上化している。7層・9層・10層・14層に灰及び炭化材（粒）が堆積する。焚き口付近に炭化材が残存する。カマドの手前には灰・焼土の分布がみられる。焼土等の埋没状態から再構築された可能性がある。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：中央部に3.15m×2.05mの長方形土坑（深さ30cm前後）を掘り込んでいる。掘り方底面（9層）及び6層に焼土がみられる。また、ピット5基が確認され、そのうち1基の底面付近には焼土がみられた。埋没土の特徴：白色軽石粒等を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：比較的縁辺部及びカマド周辺からの出土が多かった。カマド向かって左脇から鉄製紡錘車が、西壁際から土師器坏・須恵器甕が出土している。

遺物：土師器甕3以上・坏4以上・土付甕脚部片、須恵器甕片・甕2・碗及び坏8、鉄製紡錘車1を確認

している。須恵器域の5・6には胎土に結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物8点。

115号住居跡（遺構：第306図、P L185 遺物：第320図、P L190、観察表P96）

位置：j31グリッド。暗褐色土層中に構築されていた。遺構確認面を誤認し、西側を削平してしまった。重複：123号住居跡を切る。主軸方位：N-79°-E。平面形態：不明であるが長方形基調と想定される。規模：-×3.05m。床面積：不明。残存深度：11cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の起伏はみられるが、ほぼ平坦である。灰・炭化粒の広範な分布がみられる。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁南寄りに位置していたと思われるが、明瞭に把握できなかった。遺構確認時のサブレンチで壊してしまった可能性もある。手前に支脚に使用されていたと思われる礎が検出されている。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：確認されなかった。埋没土の特徴：白色軽石粒等を含む暗褐色土。遺物出土状態：中央東側から須恵器平瓶が、南壁際から須恵器坏が出土しているほか、埋没土中に少量の土器片がみられた。遺物：土師器甕2以上・坏2以上・皿1・台付甕片、須恵器甕片・平瓶1・坏4以上。掲載遺物2点。

116号住居跡（遺構：第313図、P L186・187 遺物：第320図、P L190、観察表P97）

位置：k30グリッド。暗褐色土層中に構築されている。遺構確認のためのサブレンチで北壁壁面を削平してしまった。主軸方位：N-99°-E。平面形態：横長長方形。規模：2.40m以上×2.05m。床面積：不明。残存深度：31cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：3層上面が床面と考えられる。多少の凹凸はあるが全体的にはほぼ平坦である。南側に焼土と灰が分布する。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁やや南寄りに位置。50cmほど壁外に出る状態にある。両袖部は地山を掘り残している。天井部は既に崩落しており、掛け門等の状態は不明。支脚に使用されたと思われる礎（凝灰岩）は北側に偏在して位置する。カマド壁面は全体が焼土化している。5層に灰が堆積し、カマド手前にも灰・炭化粒が掻き出されたような状態で広範に分布している。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：全体を5cmほど掘り込んでいる。埋没土の状態：白色軽石粒等を含む暗褐色土。遺物出土状態：カマド内から土師器坏が出土しているほか、埋没土中に少量の遺物が散在する。遺物：土師器甕2以上・坏1、須恵器甕破片・坏3以上を確認している。掲載遺物1点。

117号住居跡（遺構：第313図、P L185）

位置：h23グリッド。31号古墳周溝部に位置。重複：87号住居跡を切り、47号溝に切られる。備考：遺存状態が悪く、遺構の範囲が推定できる程度であった。遺構範囲内から出土した遺物から奈良・平安時代の遺構として判断していたが、「回」の字状の掘り方や主柱穴配置からみて古墳時代前期の住居跡である可能性が高い。なお、その他詳細については不明である。

118号住居跡（遺構：第314図、P L187 遺物：第320図、P L190、観察表P97）

位置：j30グリッド。暗褐色土層中に構築されている。主軸方位：N-89°-E。平面形態：横長長方形。規模：4.30m×2.90m。床面積：12.1㎡。残存深度：32cm。壁の状態：やや傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸がみられる。中央部から南側にかけて広範に灰が分布している。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁北寄りに位置。60cmほど壁外に出る状態にある。既に崩壊しており詳細は不明。



2層に灰が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：明瞭に把握できなかった。埋没土の特徴：白色軽石粒を含む暗褐色土。

遺物出土状態：カマドに近接して土師器環が出土しているほか、埋没土中から土師器・須恵器・紡錘車等の遺物がみられる。

遺物：土師器甕1以上・台付甕1・坏3以上、須恵器甕片・坏5以上、石製紡錘車、磨石1を確認している。土師器甕(1)・台付甕(2)には胎土に結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物6点。

#### 123号住居跡（遺構：第315図、P L 187 遺物：第321図、P L 190、観察表P97）

位置：j 31グリッド。暗褐色土層中に構築されていた。当初遺構確認面を誤認し、西側一部を削平してしまった。重複：115号住居跡に切られている。主軸方位：N-88°-E。平面形態：横長方形と推定される。規模・床面積：不明。残存深度：14cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸がみられる。北側・カマド手前に灰の分布がみられる。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁中央付近に位置。50cmほど壁外に出る状態にある。既に崩壊しており詳細は不明。東壁面は焼土化し、底面には灰・炭化粒が堆積(4層)している。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：明瞭に把握できなかった。埋没土の特徴：灰・焼土粒・炭化粒等を含む暗褐色土。

遺物出土状態：カマド周辺から土師器甕と須恵器塊・坏が出土している。また、北側から須恵器がややまとまって出土している。そのほか、埋没土中に砥石・台石等の遺物がみられる。

遺物：土師器甕2以上・坏3以上、須恵器甕2以上・坏2・坏5以上・甕1・瓶1、砥石1、台石1を確認している。3・5・6の須恵器には胎土に結晶片岩の含有が認められる。掲載遺物11点。

#### 126号住居跡（遺構：第300図、P L 187 遺物：第321図、P L 190、観察表P98）

位置：k 30グリッド。暗褐色土層中に構築されている。主軸方位：N-90°-E。平面形態：横長方形。規模：2.70m×2.05m。床面積：5.7㎡。残存深度：20cm。壁の状態：傾斜を持って立ち上がる。床面：多少の凹凸がみられる。壁周溝：確認されなかった。柱穴：西壁にビット1基があるのみである。東壁の穴はカマド掘り方と判断した。カマド：前述したように東壁中央南寄りの穴をカマド掘り方と判断したが、周辺に焼土・灰・炭化材等は確認されなかった。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：北西部に床下土坑が掘り込まれている。埋没土の特徴：図示しなかったが、白色軽石粒を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土状態：カマド右隣から須恵器環が出土しているほか、埋没土中に少量の土師器片がみられる。

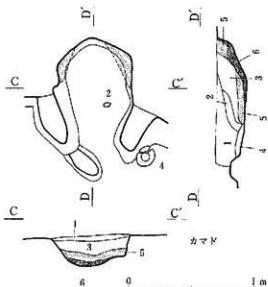
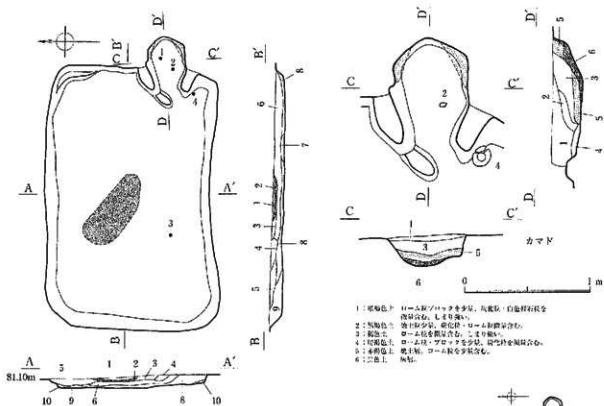
遺物：土師器甕片、須恵器環1を確認している。掲載遺物1点。

#### 127号住居跡（遺構：第315図、P L 187 遺物：第321図、P L 190、観察表P98）

位置：j 29グリッド。西・南側は調査区外。備考：北東隅部分(カマド北側半分)を調査し得たのみで、主軸方位・平面形態・規模・床面積・残存深度・壁の状態は不明である。床面：多少の凹凸がある。壁周溝・柱穴：確認されなかった。カマド：東壁に位置。全容は把握できなかった。45cmほど壁外に出る状態にある。7層中に支脚(河原石)が埋められている。2層・3層に灰が堆積する。貯蔵穴：確認されなかった。掘り方：明瞭に把握できなかった。埋没土の特徴：白色軽石粒等を含む暗褐色土。

遺物出土状態：カマド左隣から須恵器環が出土しているほか、埋没土中に少量の遺物がみられる。

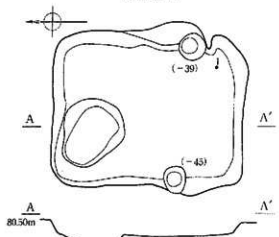
遺物：土師器片、須恵器環3以上、灰釉陶器片を確認している。掲載遺物1点。



- 1: 埋藏土 コーム状フロッタ多量、瓦葺、白磁器片を散見含む。しきり壁あり。  
 2: 埋藏土 埋蔵物少量、炭化穀、コーム状多量を含む。  
 3: 埋藏土 コーム状を散見含む。しきり壁あり。  
 4: 埋藏土 コーム状、フロッタ多量、炭化穀を散見含む。  
 5: 埋藏土 炭化穀、コーム状多量を含む。  
 6: 埋藏土 埋蔵。

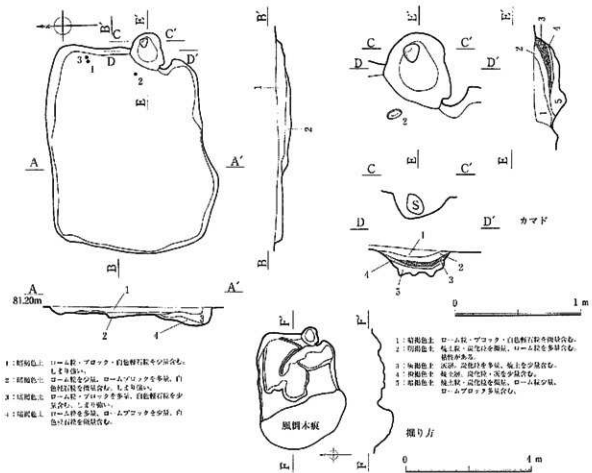


10号住居跡

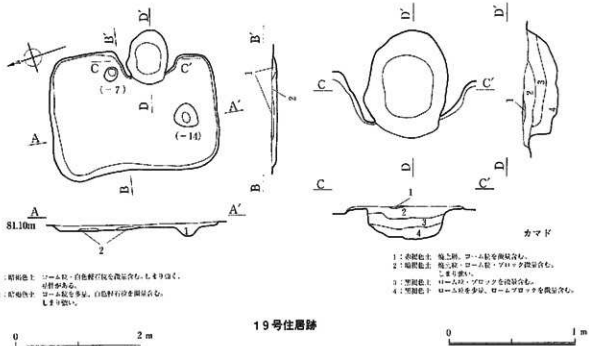


126号住居跡

第300図 10号住居跡・126号住居跡

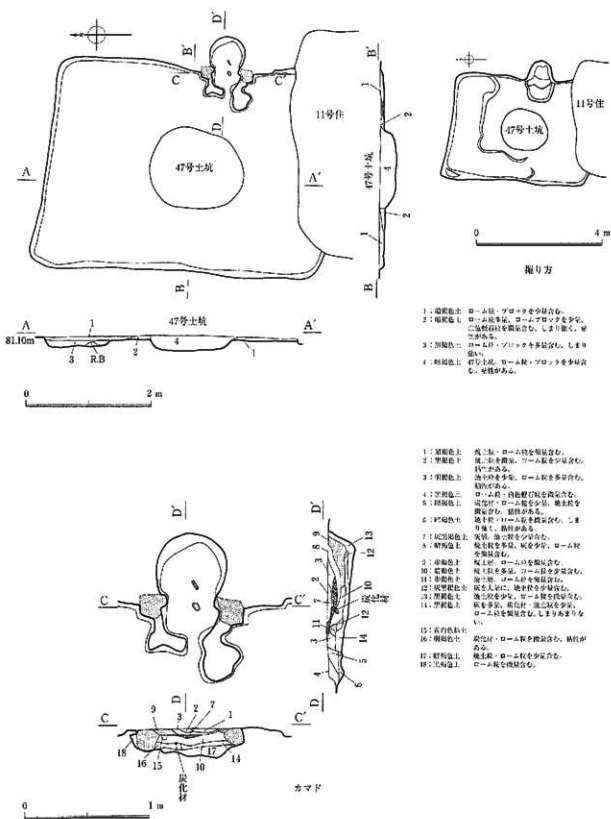


11号住居跡



19号住居跡

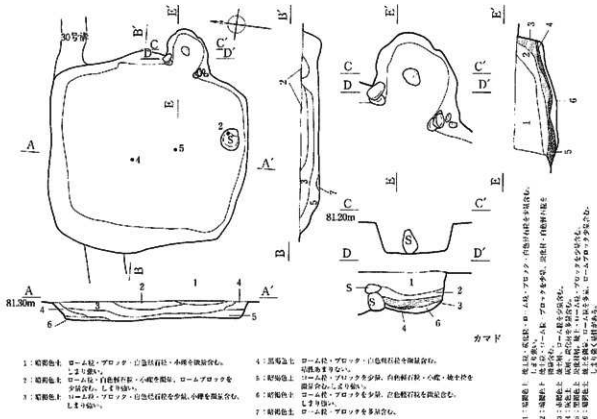
第301図 11号住居跡・19号住居跡



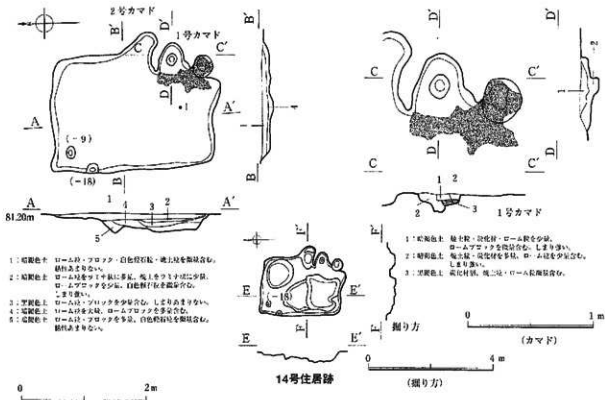
- 1: 築前土 ローム状・ブロックを多量含む。
- 2: 築前土 ローム状多量、ロームを少量含む。土質硬質を認めない。しりぞり、壁面が崩れる。
- 3: 築前土 ローム状・ブロックを多量含む。しりぞり強い。
- 4: 築前土 土質硬質、ローム状・ブロックを多量含む。壁面が崩れる。

- 1: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。
- 2: 築前土 土質硬質、ロームを少量含む。壁面が崩れる。
- 3: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 4: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 5: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 6: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 7: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 8: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 9: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 10: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 11: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 12: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 13: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 14: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 15: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 16: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 17: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。
- 18: 築前土 土質硬質、ロームを多量含む。壁面が崩れる。

第302図 12号住居跡



13号住居跡



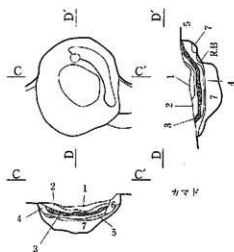
14号住居跡

第303図 13号住居跡・14号住居跡



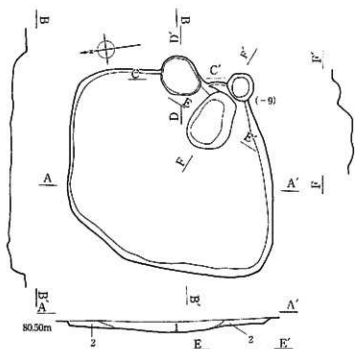


- 1: 貯蔵土 rome 土層状、白色砂石を少量含む。しまり強い。鉄屑あまりない。
- 2: 貯蔵土 rome・粘土を主体、rome アロツク、白色砂石を少量含む。しまり強い。
- 3: 貯蔵土 粘土を主体、rome 土、アロツクを混入含む。しまり強い。
- 4: 貯蔵土 rome 土層状、rome アロツク、粘土を少量含む。白色砂石を少量含む。しまり強い。



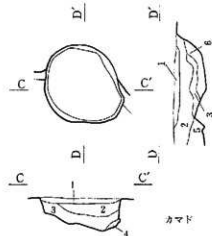
- 1: 貯蔵土 rome 土層状を含む。しまりあまりない。
- 2: 貯蔵土 粘土を主体、rome 土を混入含む。しまり・層状ともにあまりない。
- 3: 貯蔵土 高砂、粘土を主体、rome 土を混入含む。
- 4: 貯蔵土 高砂を主体、粘土を主体、rome 土を少量含む。しまり強い。
- 5: 貯蔵土 高砂を主体、粘土を主体、rome 土を混入含む。しまりあまりない。
- 6: 貯蔵土 rome 土層状を含む。
- 7: 貯蔵土 高砂・rome 土を混入含む。しまりあまりない。

26号住居跡



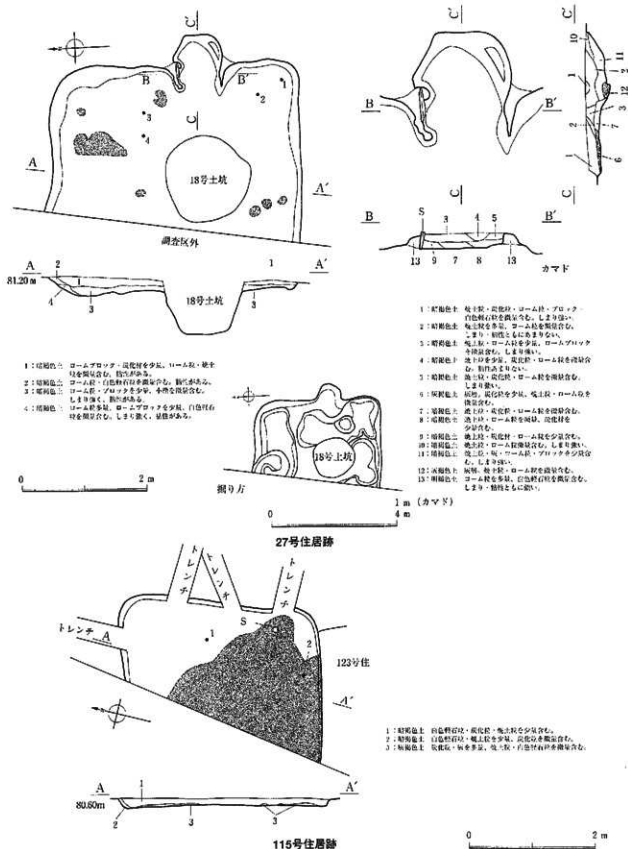
- 1: 貯蔵土 rome 土層状、白色砂石を少量含む。しまり強い。
- 2: 貯蔵土 rome 土層状、白色砂石を少量含む。

90号住居跡



- 1: 貯蔵土 粘土を主体、白色砂石を少量含む。
- 2: 貯蔵土 高砂・白色砂石を少量含む。しまり強い。
- 3: 貯蔵土 高砂を少量含む。
- 4: 貯蔵土 白色砂石を少量含む。
- 5: 貯蔵土 白色砂石を少量含む。
- 6: 貯蔵土 白色砂石を少量含む。

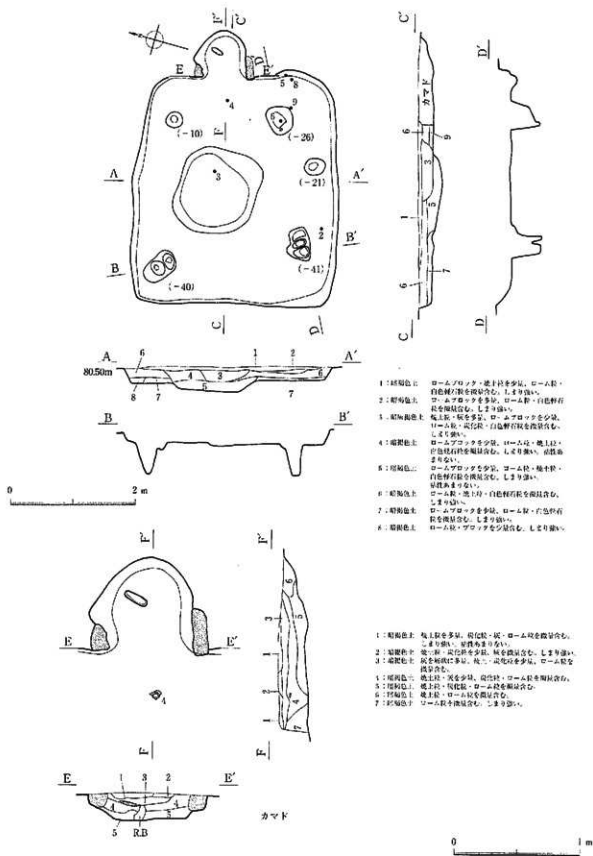
第305図 26号住居跡・90号住居跡



第306図 27号住居跡・115号住居跡



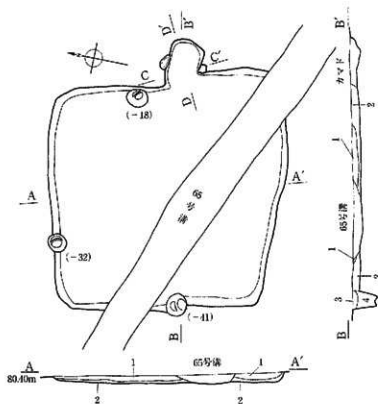




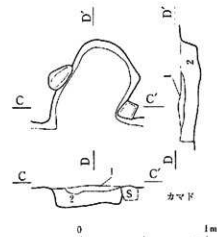
- 1: 埋藏土 romeプロック・地上部を少し、rome柱・白磁片を散見含む。しまり強い。
- 2: 埋藏土 romeプロックを少し、rome柱・白磁片を散見含む。しまり強い。
- 3: 埋藏土 rome柱・白磁片を少し、rome柱・白磁片を散見含む。しまり強い。
- 4: 埋藏土 romeプロックを少し、rome柱・地上部・白磁片を散見含む。しまり強い。遺構はない。
- 5: 埋藏土 romeプロックを少し、rome柱・地上部・白磁片を散見含む。しまり強い。遺構はない。
- 6: 埋藏土 rome柱・地上部・白磁片を散見含む。しまり強い。
- 7: 埋藏土 romeプロックを少し、rome柱・白磁片を散見含む。しまり強い。
- 8: 埋藏土 rome柱・プロックを少し含む。しまり強い。

- 1: 埋藏土 地上部を少し、rome柱を散見含む。しまり強い。遺構はない。
- 2: 埋藏土 地上部を少し、rome柱を散見含む。しまり強い。
- 3: 埋藏土 地上部を少し、rome柱を散見含む。しまり強い。
- 4: 埋藏土 地上部を少し、rome柱を散見含む。しまり強い。
- 5: 埋藏土 rome柱を散見含む。しまり強い。
- 6: 埋藏土 rome柱を散見含む。しまり強い。
- 7: 埋藏土 rome柱を散見含む。しまり強い。

第308図 72号住居跡

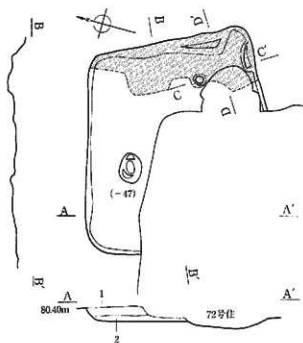


77号住居跡

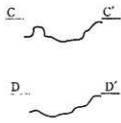


- 1: 堀跡土 北側にクキ土に灰土層を有する。堀土跡、  
ローム状土層を有する。土層が厚い。  
2: 堀跡土 堀土跡、ローム状、土層が厚い。土層が厚い。

- 1: 堀跡土 ローム状、ブロック、堀土跡、白色粘土層を  
有する。土層が厚い。  
2: 堀跡土 ローム状、ブロックを有する。土層が厚い。  
3: 堀跡土 ローム状、白色粘土層を有する。土層が厚い。  
4: 堀跡土 ローム状、白色粘土層を有する。土層が厚い。



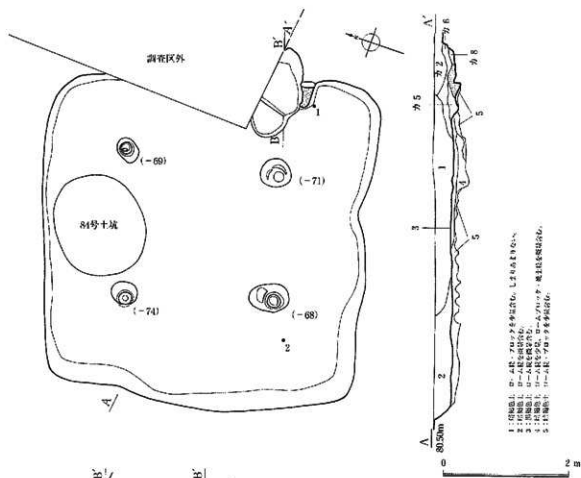
91号住居跡



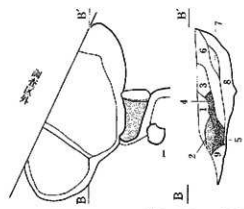
- 1: 堀跡土 ローム状、堀土跡、白色粘土層を有する。  
2: 堀跡土 ローム状、堀土跡、白色粘土層を有する。  
土層が厚い。



第309図 77号住居跡・91号住居跡

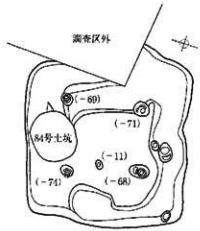


1: 1号土坑、ローム層、フロッツ多量出土、土質硬く、土質赤褐色。  
 2: 2号土坑、ローム層、フロッツ多量出土、土質硬く、土質赤褐色。  
 3: 3号土坑、ローム層、フロッツ多量出土、土質硬く、土質赤褐色。  
 4: 4号土坑、ローム層、フロッツ多量出土、土質硬く、土質赤褐色。  
 5: 5号土坑、ローム層、フロッツ多量出土、土質硬く、土質赤褐色。  
 6: 6号土坑、ローム層、フロッツ多量出土、土質硬く、土質赤褐色。



カマド

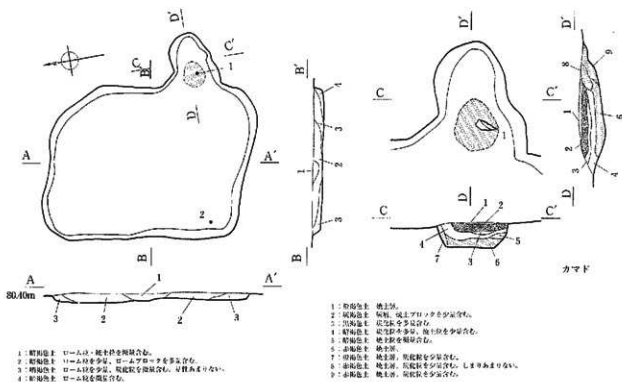
- 1: 1号土坑: ローム層少量、硬質、土質硬、ロームフロッツ多量出土、土質赤褐色。
- 2: 2号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 3: 3号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 4: 4号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 5: 5号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 6: 6号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 7: 7号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 8: 8号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。
- 9: 9号土坑: 硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色、硬質、土質硬、ローム層少量、土質赤褐色。



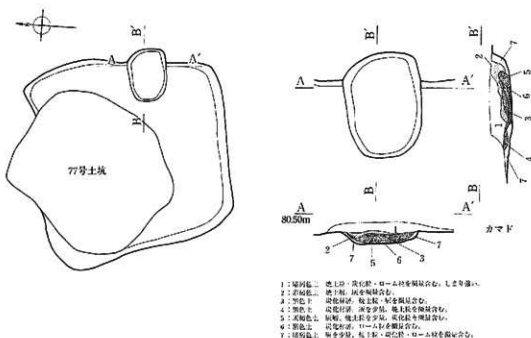
掘り方



第310図 89号住居跡



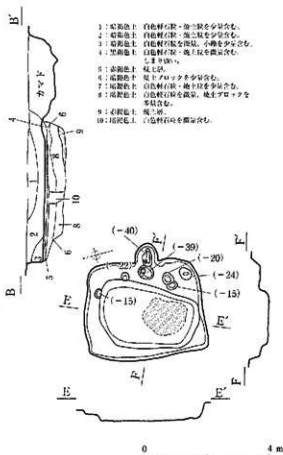
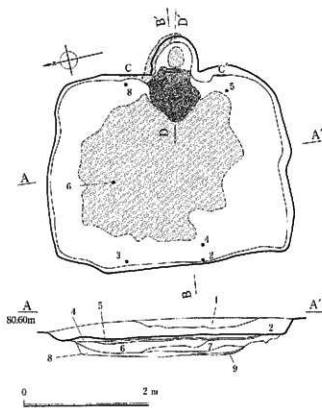
92号住居跡



93号住居跡

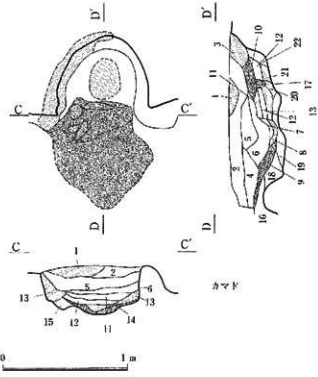


第311図 92号住居跡・93号住居跡



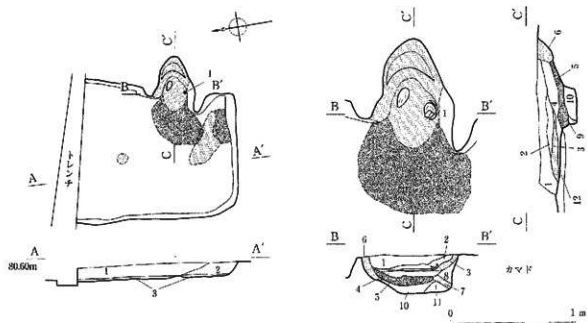
- 1: 築前地上 自然砂の層、築二層を少量含む。
- 2: 築前地上 自然砂の層、築二層を少量含む。
- 3: 築前地上 自然砂の層、築二層を少量含む。
- 4: 築前地上 自然砂の層、築二層を少量含む。
- 5: 築前地上 築土層。
- 6: 築前地上 築土層を少量含む。
- 7: 築前地上 自然砂の層、築土層を少量含む。
- 8: 築前地上 自然砂の層、築土層を少量含む。
- 9: 築前地上 築土層。
- 10: 築前地上 自然砂の層、築土層を少量含む。

掘り方



- 1: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 2: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 3: 築前地上 築土層。
- 4: 築前地上 築土層を少量含む。
- 5: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 6: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 7: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 8: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 9: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 10: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 11: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 12: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 13: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 14: 築前地上 築土層。
- 15: 築前地上 築土層を少量含む。
- 16: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 17: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 18: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 19: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 20: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 21: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。
- 22: 築前地上 築土層、自然砂を少量含む。

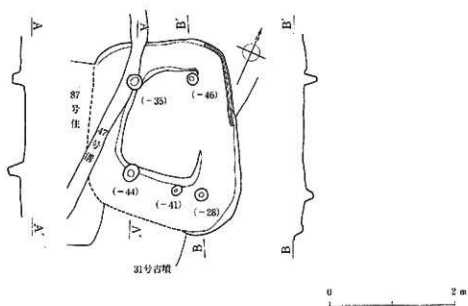
第312図 108号住居跡



- 1: 前期土層 白砂層(石灰)・粘土質赤土層、石灰質赤土層中心。
- 2: 前期土層 粘土層、石灰質赤土層、白砂層(石灰)赤土層中心。
- 3: 前期土層 粘土層、砂・砂質シルト、赤土層、石灰質赤土層中心、土層が薄い。

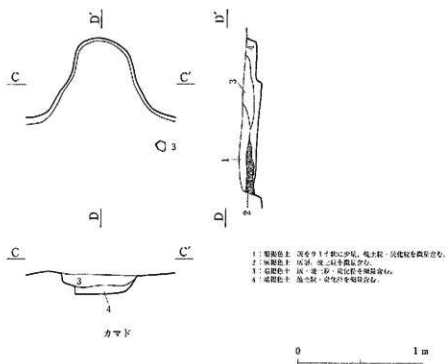
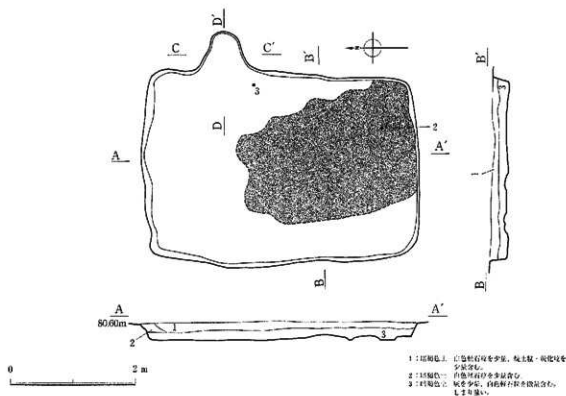
- 1: 前期土層 粘土層、石灰質赤土層、白砂層(石灰)赤土層中心。
- 2: 前期土層 粘土層赤土層、白砂層(石灰)赤土層中心。
- 3: 本層土層 粘土層。
- 4: 前期土層 粘土層赤土層、石灰質赤土層中心、砂質赤土層。
- 5: 前期土層 砂質赤土層、砂・砂質シルト赤土層中心。
- 6: 前期土層 粘土層。
- 7: 本層土層 粘土層、砂・砂質赤土層中心。
- 8: 前期土層 粘土層赤土層、粘土層赤土層中心。
- 9: 本層土層 粘土層、砂・砂質赤土層中心。
- 10: 前期土層 粘土層赤土層中心、石灰質赤土層中心。
- 11: 前期土層 粘土層、砂・砂質赤土層中心、石灰質赤土層中心。
- 12: 前期土層 石灰質赤土層中心。

116号住居跡



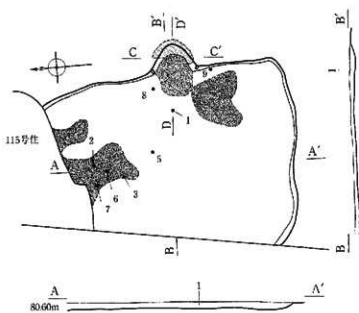
117号住居跡

第313図 116号住居跡・117号住居跡



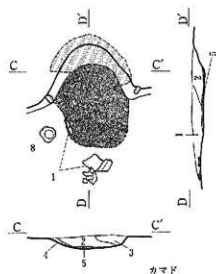
第314図 118号住居跡



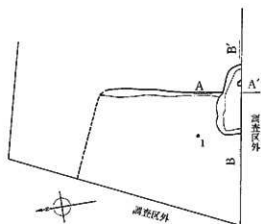


1: 堀形土 中央に柱穴多数、瓦片数少量、堀中貯水跡見出し。

123号住居跡

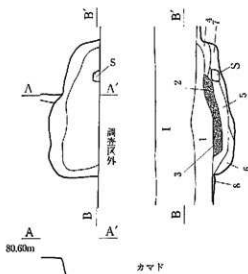


- 1: 堀形土 堀中央部、堀上段全周見出し。
- 2: 堀形土 堀中央部、堀上段全周見出し。
- 3: 堀形土 堀上段中央部、堀中央部。
- 4: 堀形土 堀上段。
- 5: 堀形土 堀上段、堀中央部全周。



- 1: 土
- 2: 堀形土 堀中央部、瓦片数少量、堀中貯水跡見出し。
- 3: 堀形土 堀上段、堀上段全周見出し。
- 4: 堀形土 堀上段、堀中央部、堀上段、堀中央部全周見出し。

127号住居跡



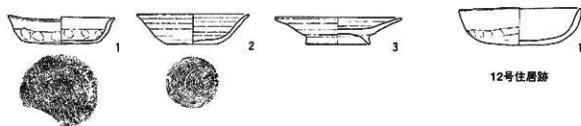
- 5: 堀形土 堀上段中央部、堀中央部見出し。しまり土。
- 6: 堀形土 堀上段中央部、堀中央部見出し。しまり土。
- 7: 堀形土 堀上段中央部、堀中央部見出し。しまり土。
- 8: 堀形土 堀上段中央部、堀中央部見出し。しまり土。



第315図 123号住居跡・127号住居跡

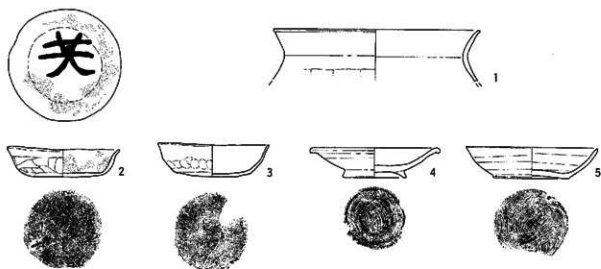


10号住居跡



12号住居跡

11号住居跡



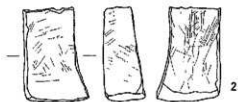
13号住居跡



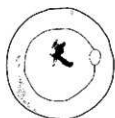
14号住居跡

0 (1:4) 10cm

第316図 10号・11号・12号・13号・14号住居跡出土遺物



15号住居跡



26号住居跡



27号住居跡



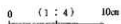
1 (黒色処理)



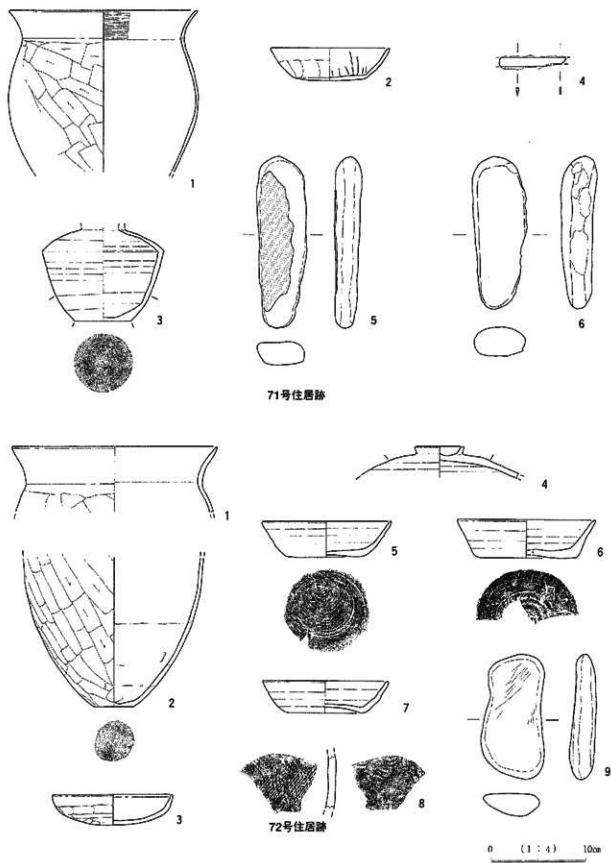
2



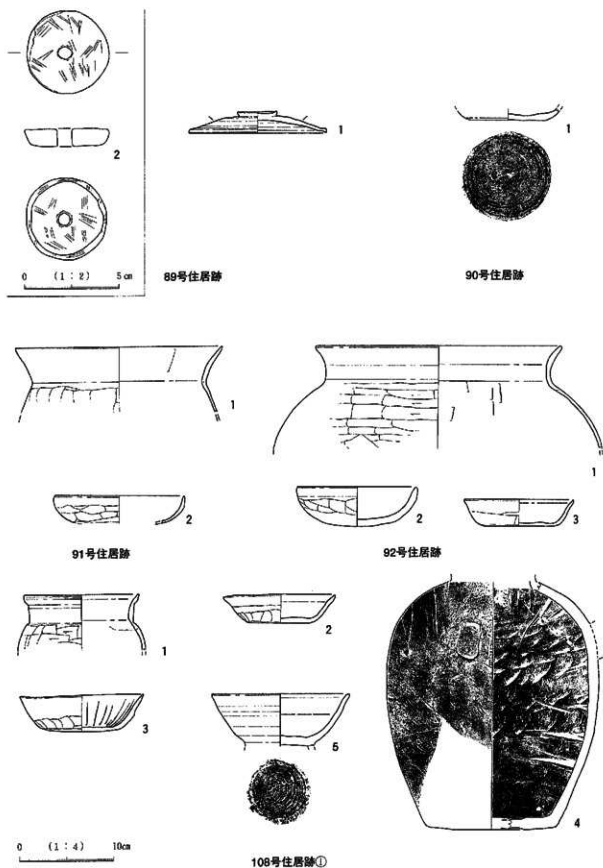
49号住居跡



第317図 15号・26号・27号・49号住居跡出土遺物



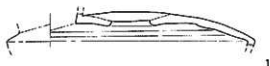
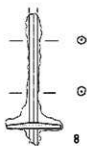
第318図 71号・72号住居跡出土遺物



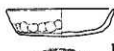
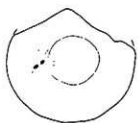
第319図 89号・90号・91号・92号・108号住居跡出土遺物



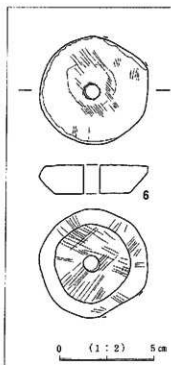
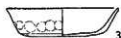
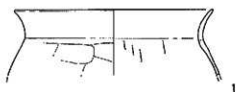
108号住居跡②



115号住居跡



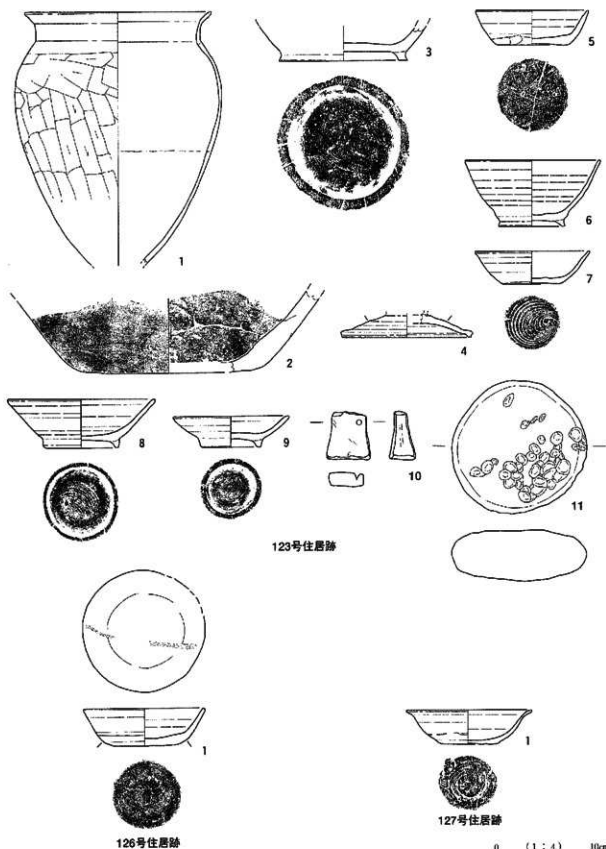
116号住居跡



0 (1:4) 10cm

0 (1:2) 5cm

118号住居跡



第321回 123号・126号・127号住居跡出土遺物

## (2) 道路状遺構 (遺構：第299・322・323図、P L191・192 遺物：第336図、P L202、観察表P98)

北側側溝：52号・96号・108号溝 西側側溝：53号溝・111号溝

位置：10区北側・9区北側・13区。h32グリッド～Z5グリッド。西側は調査区外。東側から西方を望むと両側溝間に浅間山が遠望できる状況にある。また、東方延長約200mの位置に井野川が南東流している。重複：52号溝は、57号溝を切り、47号・64号・69号溝・2号河川跡・56号土坑に切られる。53号溝は、57号溝・65号住居跡を切り、47号溝・69号溝に切られる。また、東側は9区において32号古墳を乗り越えるような状態にある。96号・108号溝は、13区において浅間B軽石下水田跡の下層で検出されている。東側は1号河川跡に切られており、同河川跡の東側においては確認できない状態にある。111号溝も、6区において浅間B軽石下水田跡の下層で検出され、トレンチ調査によって規模と方向を確認した。108号溝と同様に東側は1号河川跡に切れ、同河川跡東側においては確認できない状態にある。検出状態：52号溝及び53号溝は浅間B軽石を少量含む暗灰褐色土層下で確認された。遺構は平行して直線的に走る2条の溝(側溝)として検出し得たのみで、両側溝間に顕著な硬化面・波板状痕跡等は確認されなかった。検出距離は10区において約100m、西端から13区東端までは総延長280m弱にわたる。走行方向：N-100°-E前後。東西軸から時計回り方向に約10°傾く。規模等：側溝間の心々距離は10.0～10.5m。道路幅は9m前後である。北側側溝は、上端幅0.9～1.4m、残存深度25～50cm、底面の標高は52号溝が80.1～80.2m、96号溝及び108号溝が79.1～79.5mである。南側側溝は、上端幅1.0～1.4m、残存深度25～50cm、底面の標高は53号溝が80.3～80.5m、111号溝が79.1m前後である。側溝の状態：断面形態は逆台形状～U字状であり均一ではない。底面は、段差・凹凸・起伏がみられる。埋没土はローム粒・ロームブロック・白色軽石粒等を含む黒褐色土～暗褐色土で、基本的に自然埋没と判断される。

遺物出土状態：53号溝・96号溝・108号溝埋没土中からごくわずかに出土している程度であった。

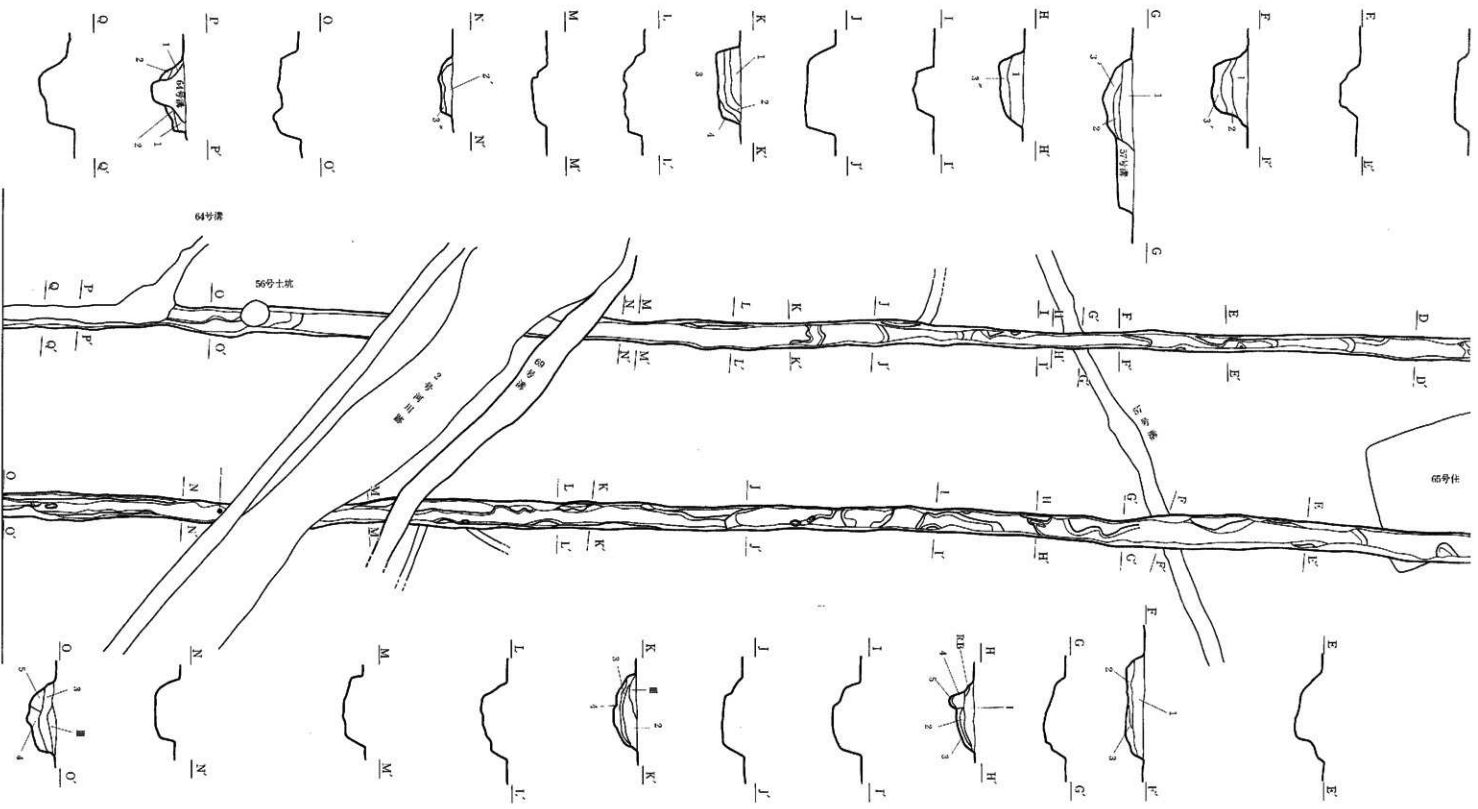
遺物：土師器片、須恵器壺1・坏2以上を確認している。掲載遺物2点。

構築時期の推定：南側側溝の53号溝は9区において32号古墳(第4節1参照)手前で途切れてしまうが、この部分ではやや上り坂気味の状態にある。墳丘下に道路状遺構の痕跡は認められないことから、道路状遺構は古墳墳丘を多少削平しつつも古墳を乗り越える状態で構築されたものと推測される。同古墳は出土遺物から7世紀(前半)代に構築された想定され、本道路状遺構の構築時期の上限は7世紀後半頃に求められよう。

廃絶時期の推定：10区では北側側溝の52号溝が埋没した後に64号溝(本節6参照)が掘られている。64号溝は調査区西端では52号溝と軌を一にし、分岐した後は北東方向へと流れている。同溝からは、須恵器(壺・甕・釜・皿・坏・埴)・土師器坏等8世紀末葉～9世紀初頭に想定される遺物が出土している。64号溝が8世紀末葉に構築・埋没したとすれば、道路の側溝は同時期以前に埋没していたことになる。また、52号溝西側には56号土坑(本節4参照)が溝を切る状態で重複しており、同土坑からも9世紀前後の遺物が出土している。また、6区・13区においては浅間B軽石下水田跡の下層で確認されていることから、同水田経営時には既に道路としての機能は失われていたと考えられる。

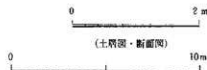
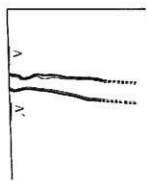
備考：本道路状遺構は、上記のように7世紀後半頃に降に構築され8世紀後半頃までに側溝が埋没し、浅間B軽石下水田経営時には機能を失ったと判断される。道路幅が9mであることや走行方向から、8世紀代の東山道駅路であった可能性が高い(第6章参照)。1号河川跡の東側において道路状遺構の延長部分が確認できなかったのは、旧地形が現況よりも高く後世に削平されたことも理由の一つとして考えられよう。





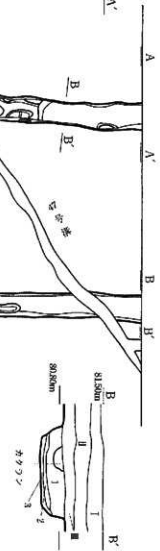
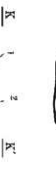
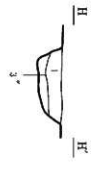
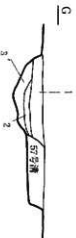
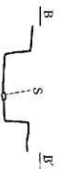
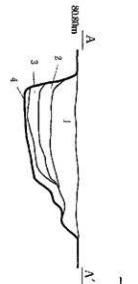
第322図 道路状遺構 (52号・53号溝)

- 1 表土 (灰褐色土)  
 2 腐植土 (暗褐色土)  
 3 腐植土 (暗褐色土)  
 4 腐植土 (暗褐色土)  
 5 腐植土 (暗褐色土)
- 6 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 7 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 8 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 9 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 10 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 11 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 12 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 13 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 14 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)  
 15 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土) 腐植土 (暗褐色土)

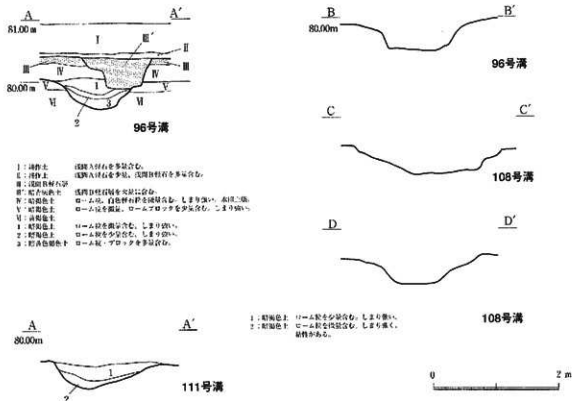


(平面図)

アケナル川断面



第322図 道路状遺構 (52号・53号溝)



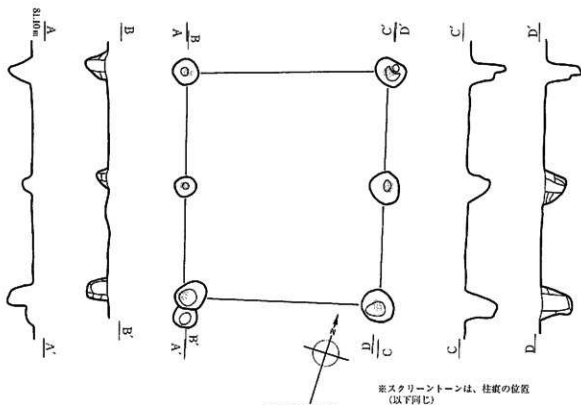
第323図 道路状遺構(96号・108号・111号溝)土層図・断面図

## (3) 掘立柱建物跡

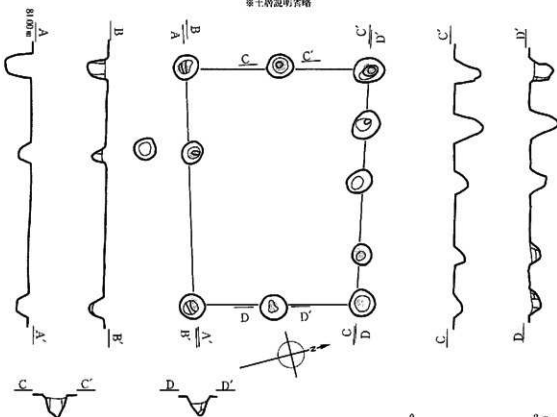
7棟を奈良・平安時代の掘立柱建物跡と判断した。すべて側柱式でS27～T27グリッドに5棟、N28グリッドに2棟位置している。同時期の住居跡が周囲に分布することから本時期と判断したものであるが、あまり確実性の高い理由とはいえない。S27～T27グリッドでは古墳時代前期の掘立柱建物跡が重複して位置するが、本時期と判断したものは総じて掘り方が円形で規模も小さい傾向にある。なお、図示しなかったが9号掘立柱建物跡の柱穴掘り方内から土師器破片が出土している。

表3 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧

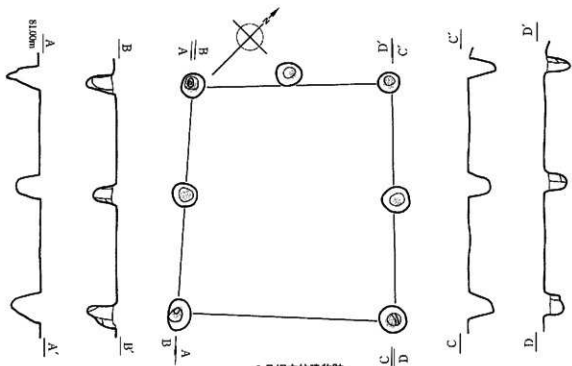
遺構番号	位置	方位	桁×梁間	桁行	梁行	柱間寸法		柱径 (cm)	掘り方 形態	挿図	P.L.
						桁行(m)	梁行(m)				
4号掘立	S27	N-13°-W	2×1間	3.68m	3.15m	1.75~1.87	3.10~3.15	15~19	円形	324図	193
5号掘立	T27	N-81°-W	2×2間	3.73m	2.87m	0.81~2.92	1.25~1.49	14~22	円形	324図	193
6号掘立	T27	N-45°-W	2×1間	3.77m	3.42m	1.72~1.89	3.12~3.42	17~23	円形	325図	194
7号掘立	T27	N-78°-W	2×2間	5.30m	4.46m	2.34~2.66	4.27~4.46	13~24	円形	325図	194
8号掘立	N28	N-23°-E	1×1間	2.69m	2.26m	2.64~2.69	2.24~2.26	16~29	楕円形	326図	193
9号掘立	N28	N-77°-E	1×2間	3.46m	2.55m	3.42~3.46	0.87~1.64	不明	楕円形	326図	2
10号掘立	T27	N-30°-E	2×2間	2.47m	2.42m	1.15~1.30	1.19~1.23	15~24	円形	327図	195



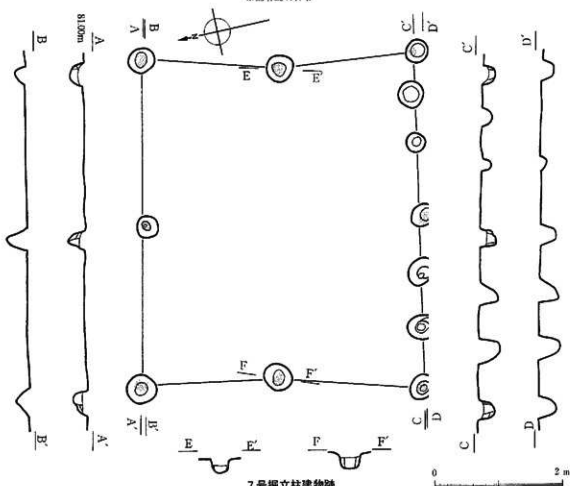
4号掘立柱建物跡  
※土層説明省略



第324図 4号掘立柱建物跡・5号掘立柱建物跡

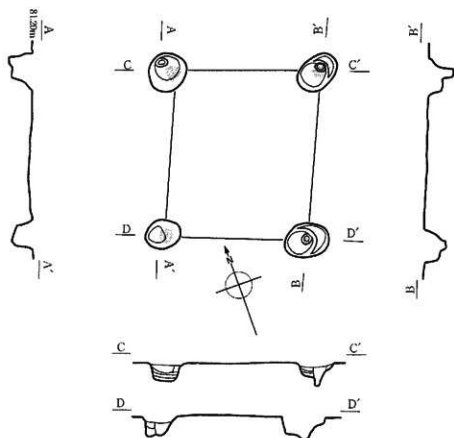


6号獨立柱建物跡  
※土層説明省略



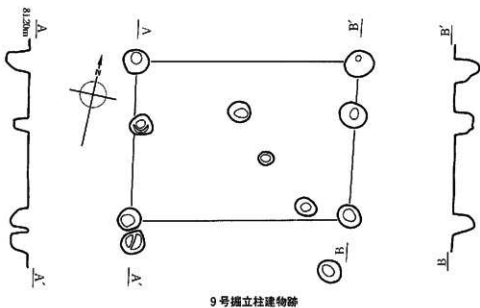
7号獨立柱建物跡  
※土層説明省略

第325圖 6号獨立柱建物跡・7号獨立柱建物跡



8号掘立柱建物跡

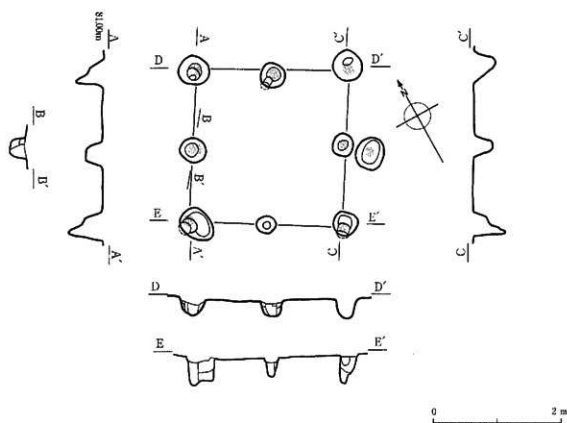
※土層説明省略



9号掘立柱建物跡



第326図 8号掘立柱建物跡・9号掘立柱建物跡



第327図 10号独立柱建物跡

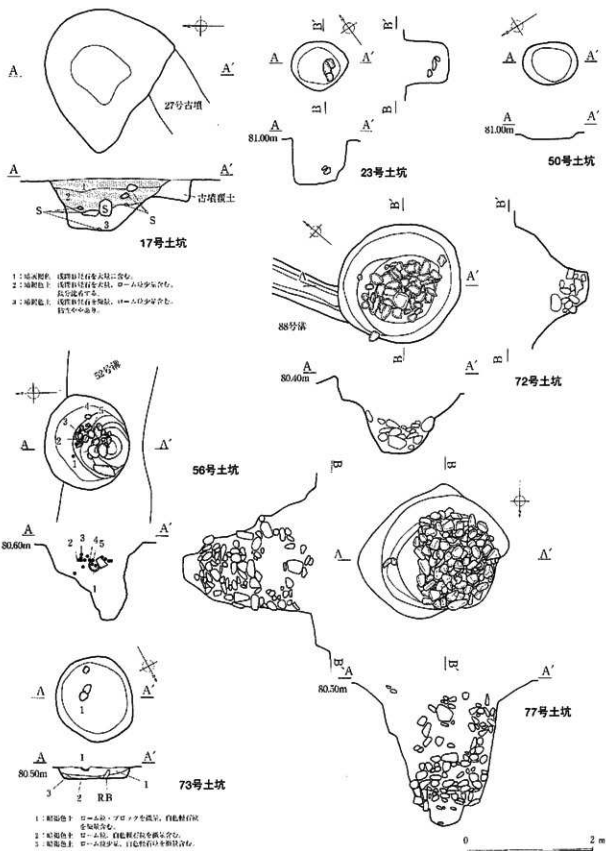
※土層説明省略

## (4) 土坑

7基の土坑を本時期と判断したが、17号・23号土坑には浅間B経石の二次堆積層がみられ中世の遺構である可能性がある。56号土坑は道路状遺構（本節2）の北側側溝・52号溝を切る状態にある。72号土坑は上層に焼土・炭化粒が少量観察された。中層以下には75点の礫があり、そのうち39点に被熱痕が認められている。77号土坑も上層に微量の焼土・炭化粒を含み、全体に大量の礫（約150点・内被熱礫約60点）が埋没している。72号・77号の両土坑は井戸の可能性もある。

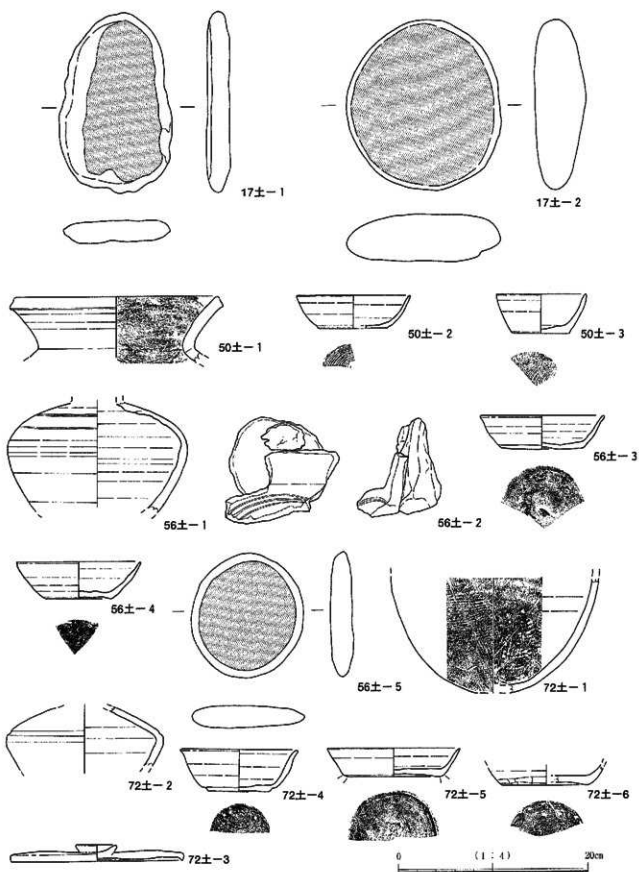
表4 奈良・平安時代土坑一覧

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物／備考	遺 構		遺 物	
						坪 図	P.L.	坪 図	P.L.
17号土坑	K28	不整形	1.92×1.79	80cm	埴輪、須恵器片、礫2/A&B堆積・中世か	328図	196	329図	200
23号土坑	Q25	楕円形	0.90×0.78	74cm	被熱礫3/A&B堆積・中世か	328図	196	-	-
50号土坑	Q24	楕円形	0.88×0.68	9cm	須恵器甕1・坏2、土師器/6号側溝溝を切る	328図	196	329図	200
56号土坑	f30	楕円形	1.55×1.35	126cm	須恵器長頸壺1・甕1・坏3/道路状遺構を切る	328図	196	329図	200
72号土坑	i29	楕円形	2.07×1.88	117cm	須恵器甕1・壺3・坏8・甕1、土師器坏7、産多景	328図	196	329 330図	200
73号土坑	h29	楕円形	1.37×1.23	18cm	須恵器坏1、土師器坏1/遺物は土層から出土	328図	196	330図	200
77号土坑	i29	楕円形	2.43×1.89	236cm	須恵器甕2・壺1・甕1・坏6、土師器、産多景	328図	196	330図	200 201

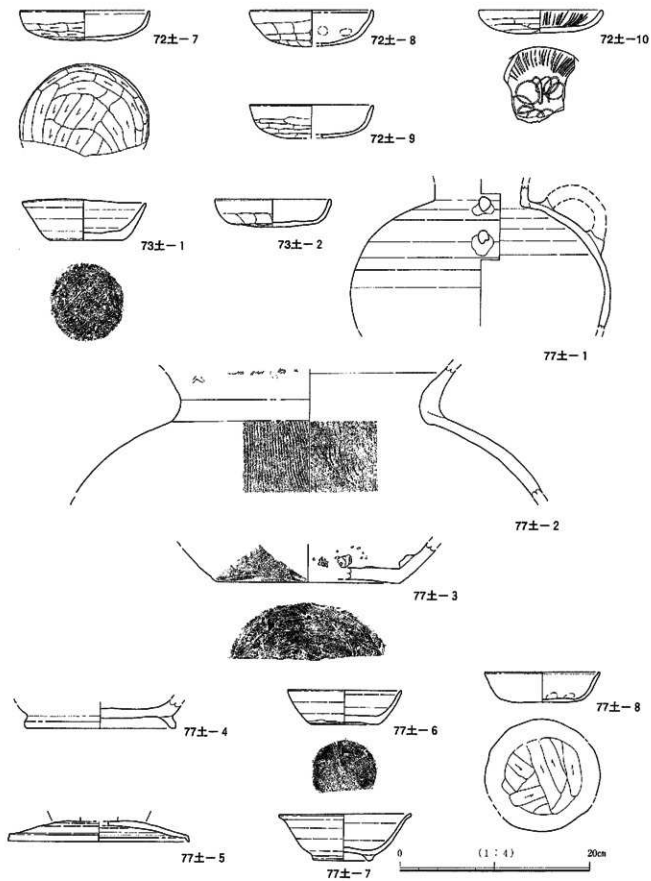


第328图 17号・23号・50号・56号・72号・73号・77号土坑





第329回 17号・50号・56号・72号土坑出土遺物



第330図 72号・73号・77号土坑出土遺物

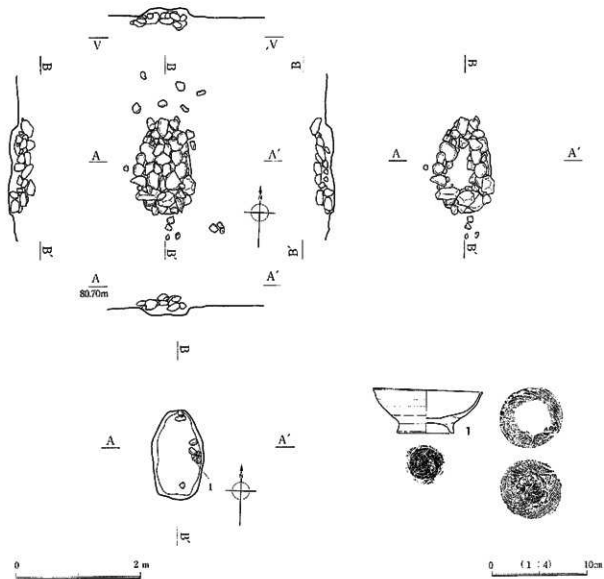
## (5) 配石墓

1号配石墓 (遺構：第331図、P L 195 遺物：第331図、P L 190、観察表P 100)

位置：B 6 グリッド。長軸方位：N - 0°。検出状態：黒褐色土中に構築されており、南北1.50m・東西1.00mほどの範囲に10~30cm程度の礫が集中して検出された。上面の礫を除去したところ環状（楕円形）に礫が配されている状況が明らかとなった。礫の半分近くには被熱痕跡が認められた。これらの礫の下からは平面楕円形の土坑（1.43m×0.81m・深さ10cm）が検出されている。備考：北側の礫下から微量ではあるが、骨片が検出されていることから配石墓と判断した。

遺物出土状態：中央東側から須恵器壺が出土しているほか、礫に混ざるような状態で土師器・須恵器片が出土している。

遺物：須恵器壺2を確認している。1はロクロ円柱技法によるものである。掲載遺物1点。



第331図 1号配石と出土遺物

表5 奈良・平安時代溝一覧

遺構番号	検出位置	走行方向	底面の標高(m)	上端最大 幅(m)	残存深 度(cm)	おもな出土遺物・備考	遺 構		遺 物	
							挿 囲	PL	挿 囲	PL
1号溝	L22~G14	北西~南東	80.39~80.05	1.32	70	土師器壺・埴・土師器	332国	2・5	336国	201
4号溝	M12~K10	北西~南東	80.10~79.98	1.20	79	須恵器片	299国	2	336国	201
5号溝	O3~M3	北西~南東	79.50~79.42	1.30	63	土師器片/粘質土堆積	332国	2	-	-
6号溝	K6~O6	南~北	79.50~79.31	0.80	78	/As-B堆積	332国	2	-	-
7号溝	M5~N5	南~北	79.90~79.48	2.22	108	粘質土堆積	332国	2	-	-
8号溝	F20~G17	北東~南西	80.62~80.60	0.92	12	/As-B堆積	299国	2・5	-	-
9号溝	F20~F18	北東~南西	80.09~80.66	0.67	11	/As-B堆積	299国	2・5	-	-
10号溝	F20~F19	北東~南西	80.71~80.70	0.53	7	/As-B堆積	299国	2・5	-	-
11号溝	H16~L15	南~北東	80.58~80.17	0.85	36	/As-B堆積	332国	2・5	-	-
16号溝	M26~L17	西~東	80.42~80.26	1.70	78	須恵器/粘質土堆積	299国	2・5	336国	201
21号溝	P34~P33	西~東	80.64~80.44	0.88	55	土師器片	299国	198	-	-
22号溝	P32~Q21	南西~北東	80.32~80.08	2.88	69	須恵器/粘質土堆積	333国	2	336国	201
24号溝	O26~M13	西~東	80.38~80.33	1.50	89	須恵器/粘質土堆積	333国	197	336国	201
25号溝	O22~N16	西~東	80.28~79.97	2.72	62	/粘質土堆積	299国	2	-	-
26号溝	M16~M15	北西~南東	80.08~79.99	0.86	48	/粘質土堆積	333国	2	-	-
28号溝	O13~N16	北東~南西	80.31~80.21	0.80	65	須恵器/粘質土堆積	299国	2	-	-
29号溝	K28~N24	北東~南西	80.38~80.37	2.70	74	土師器/粘質土堆積	333国	197	337国	201
30号溝	P27~P24	西~東	80.84~80.78	0.40	18	土師器	333国	2	-	-
31号溝	Q27~P26	北西~南東	80.76~80.74	0.39	24	土師器/粘質土堆積	333国	2	-	-
32号溝	R28~P26	北西~南東	80.84~80.79	0.79	16	灰釉陶器/粘質土堆積	334国	198	337国	201
33号溝	P21~Q25	東~西	80.74~80.64	0.82	49	土師器	334国	2	-	-
34号溝	N25~M24	北西~南東	80.35~80.34	1.43	76	/粘質土堆積	299国	197	-	-
37号溝	d16~	南~北	80.20~79.89	1.30	69	土師器/大平調査区外	334国	198	-	-
40号溝	Y1~d6	南東~北西	78.83~78.50	3.80	108	土師器/粘質土堆積	334国	198	337国	202
41号溝	W2~W1	西~東	79.44~79.25	2.85	10	土師器/粘質土堆積	333国	198	337国	202
42号溝	b16~b17	東~西	80.31~80.28	0.40	28	/47号溝と同一の溝	334国	198	-	-
47号溝	c22~h24	南東~北西	80.28~80.22	0.73	46	須恵器/As-B堆積	334国	3	337国	202
64号溝	g31~g28	西~北東	79.92~79.66	1.06	36	土師器・須恵器	335国	199	337国 338国	202
67号溝	X33~X31	西~東	81.06~80.97	1.40	17	須恵器/粘質土堆積	334国	4	338国	202
71号溝	b32~c20	南西~北東	80.78~79.60	0.78	20	土師器/粘質土堆積	299国	199	-	-
104号溝	b10~c9	南西~北東	80.12~80.05	1.54	13	/As-B下の溝	334国	3	-	-
107号溝	b4~d6	南東~北西	78.66~78.47	1.07	45	須恵器/粘質土堆積	334国	199	338国	202
109号溝	a6~d6	南~北	78.78~78.56	1.41	60	須恵器/粘質土堆積	334国	199	-	-

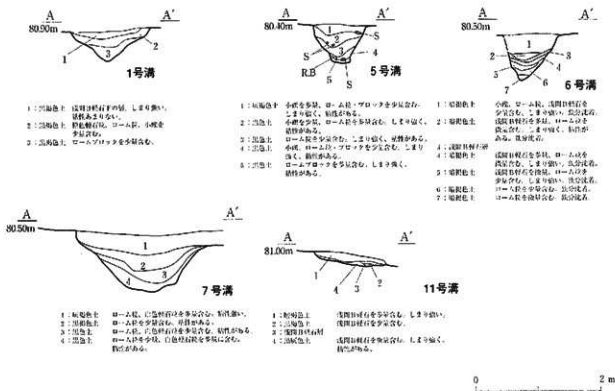
## (6) 溝

33条の溝を本時期と判断した。各溝の概要は表5に示した。水田用水路としての性格が想定されるものが多い。各溝は枝分かれするように構築され、各古墳の側溝は切るものの墳丘部は避ける状態にあり、溝構築時には古墳墳丘は残存していたものと推定される。

1号溝は16号溝から分岐し16号古墳南側へと流れている。4号溝は16号古墳の北東側周溝外側をかすめて南側水田跡方向へと流れている。6号溝は3層に浅間B軽石が堆積する。8号・9号・10号溝は南側水田跡の北西端部に沿って、11号溝は16号古墳西側周溝外側に沿って位置する。16号溝は34号溝から分岐し16号古墳方向へ、24号溝は同じく34号溝から分岐し16号古墳北側へと向かう。22号溝は浅間B軽石が二次堆積する17号溝（中世と判断）と重複し、北側水田跡方向へと流れている。25号溝は16号古墳北西部で24号溝・26号溝に、28号溝は25号溝に合流する。29号・34号溝の底面はほとんど高低差がない。31号・32号溝は22号溝に合流すると思われる。40号溝は南東から北西へと向かう大規模な溝で当該期の土師器・須恵器のほか流れ込みの古墳時代の遺物もみられる。41号溝は溝としたものの遺構自体は堅穴状の凹みであり、性格等は不明である。42号・47号溝は同一の溝で、32号古墳・30号古墳・31号古墳の墳丘部を避けるように北西方向へと流れている。64号溝は道路状遺構（本節2参照）の北側遺構（52号溝）を切る状態で構築され、2号河川跡方向へと向かう。同溝からは土師器・須恵器が出土しており、出土遺物は道路状遺構の時期を判断する根拠の一つになっている。107号溝は40号溝から分岐して北側へと流れている。

各溝からは土師器・須恵器等のほか、32号溝では黒笹14号窯式期の灰釉陶器が出土している。

また、5号・7号・16号・22号・24号・25号・26号・28号・29号・31号・32号・34号・40号・41号・67号・71号・107号・109号溝には暗灰褐色粘質土が埋没しており、これは洪水等に起因する可能性もある。



第332図 1号・5号・6号・7号・11号溝土層図





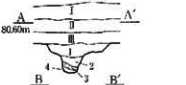
- 1: 1層地土 rome土を多量、浅層に砂石を多量含む。  
 2: 2層地土 rome土を少量、rome土を多量含む。砂石を多量含む。土層が広く、土層が中なり。  
 3: 3層地土 rome土を多量、rome土を少量含む。



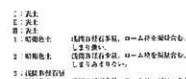
- 1: 1層地土 浅層に砂石を少量、rome土を多量含む。土層が広い。  
 2: 2層地土 浅層に砂石、小礫を多量含む。



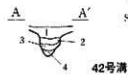
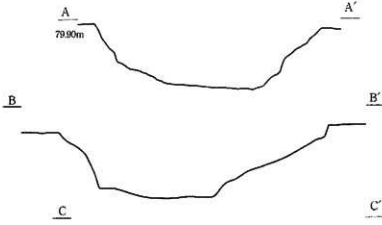
- 1: 1層地土 浅層に砂石、rome土、プロック、礫を多量含む。  
 2: 2層地土 浅層に砂石、rome土、プロック、礫、小礫を多量含む。土層が広い。  
 3: 3層地土 浅層に砂石、rome土、プロック、礫、小礫を多量含む。  
 4: 4層地土 浅層に砂石、rome土、プロックを多量含む。土層が広い。  
 5: 5層地土 rome土、プロックを少量含む。土層が広い。



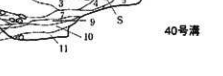
- 1: 1層地土 浅層に砂石を多量、rome土を多量含む。土層が広い。  
 2: 2層地土 浅層に砂石を少量、rome土を多量含む。土層が広い。



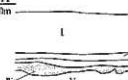
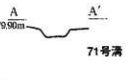
- 1: 1層地土 rome土、砂石を少量含む。  
 2: 2層地土 rome土、プロックを少量、浅層に砂石を多量含む。土層が広い。  
 3: 3層地土 rome土を少量、rome土、白色砂石を多量含む。土層が広い。



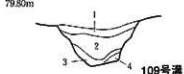
- 1: 1層地土 浅層に砂石を多量、rome土、プロックを少量含む。土層が広い。  
 2: 2層地土 浅層に砂石を多量、rome土を少量含む。土層が広い。  
 3: 3層地土 浅層に砂石を多量含む。土層が広い。



- 1: 1層地土 rome土を多量含む。土層が広い。  
 2: 2層地土 rome土、砂石を少量含む。土層が広い。  
 3: 3層地土 rome土、プロックを少量、砂石を多量含む。土層が広い。  
 4: 4層地土 rome土、砂石を少量含む。土層が広い。  
 5: 5層地土 rome土、プロックを少量、砂石を多量含む。土層が広い。  
 6: 6層地土 rome土、プロックを少量、砂石を多量含む。土層が広い。  
 7: 7層地土 rome土、砂石を少量含む。土層が広い。  
 8: 8層地土 rome土、砂石を少量含む。土層が広い。  
 9: 9層地土 rome土、プロックを少量、砂石を多量含む。土層が広い。  
 10: 10層地土 rome土、プロックを少量、砂石を多量含む。土層が広い。  
 11: 11層地土 rome土、プロックを少量、砂石を多量含む。土層が広い。



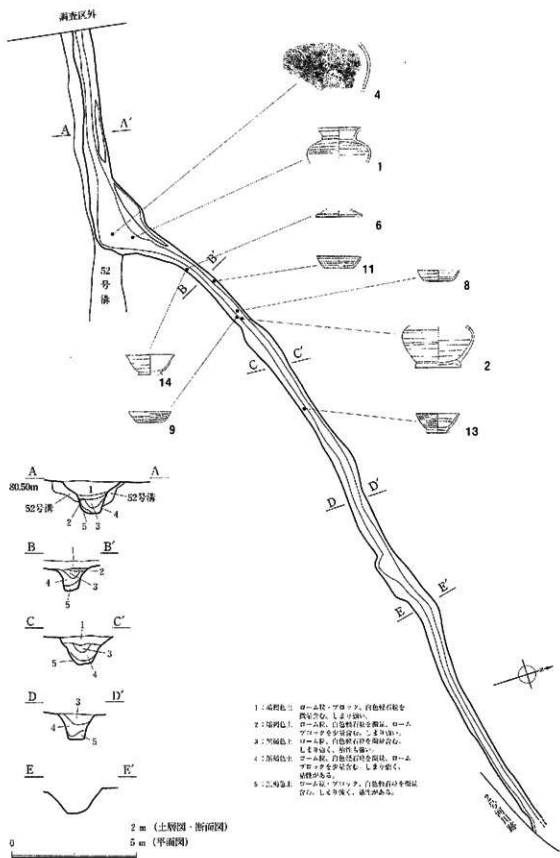
- I: 1層地土 浅層に砂石を多量含む。  
 II: 2層地土 浅層に砂石を多量含む。  
 III: 3層地土 浅層に砂石を多量含む。  
 IV: 4層地土 浅層に砂石を多量含む。  
 V: 5層地土 浅層に砂石を多量含む。  
 VI: 6層地土 浅層に砂石を多量含む。



- 1: 1層地土 砂石を少量含む。  
 2: 2層地土 砂石を少量含む。土層が広い。  
 3: 3層地土 rome土を少量、砂石を少量含む。土層が広い。  
 4: 4層地土 rome土を少量、砂石を少量含む。土層が広い。

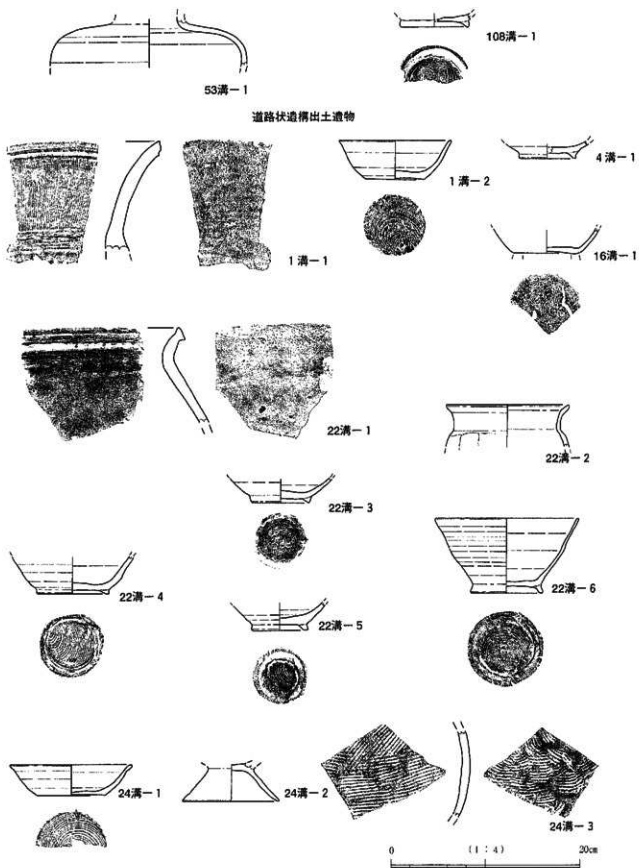


第334図 32号・33号・37号・40号・42号・47号・67号・104号・107号・109号土層断面・断面図

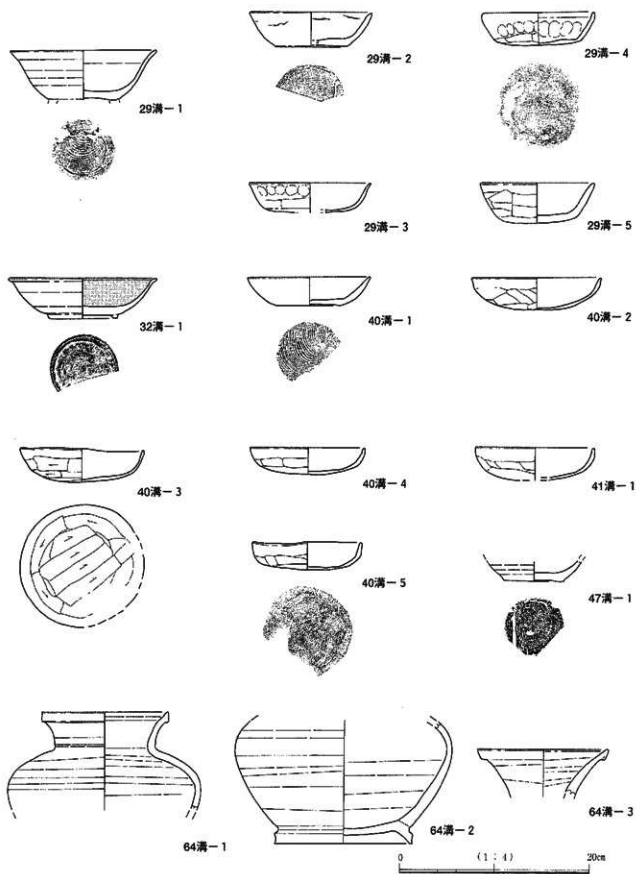


第335図 64号溝

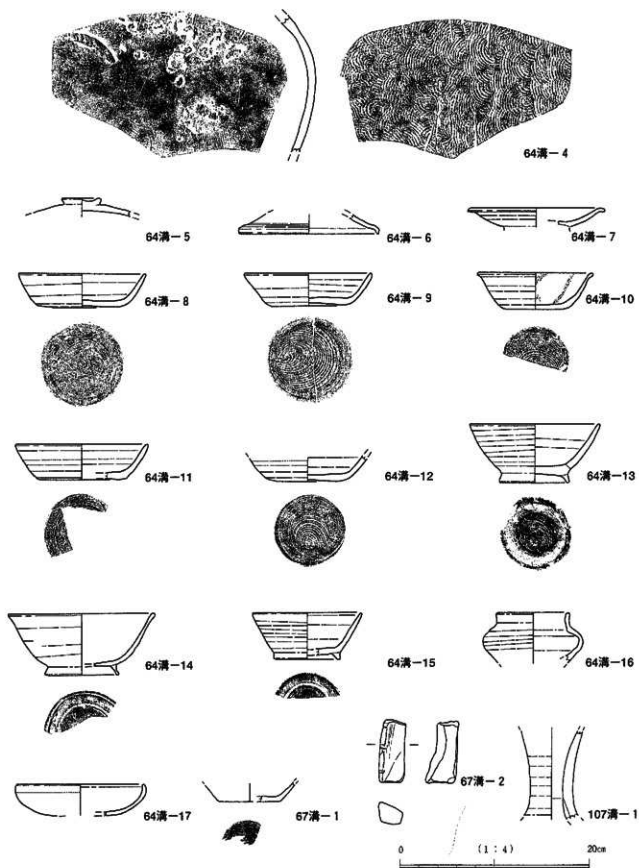




第336図 奈良・平安時代溝出土遺物①



第337図 奈良・平安時代清出土遺物②



第338回 奈良・平安時代溝出土遺物③

## (7) 水田跡

浅間B軽石下水田跡（遺構：第339～342図、P L 203～209）

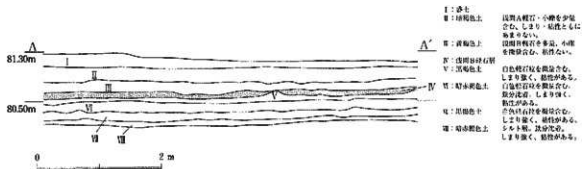
本遺跡では北東から南東方向へ帯状に微高地があり、微高地の南東側及び北西側が低地となっている。浅間B軽石下水田跡はこの低地部分に位置し、古墳群が展開する微高地を境に南側水田跡と北側水田跡の二つの大きな広がりが見られる。南側水田跡では16号古墳周溝も水田に再利用されていた。

浅間B軽石は現地表下40～70cmの位置に層厚5～10cm程度堆積し、水田跡は同層に埋没する状態で検出されている。畦畔は幅30～50cm程度・高さ5cm前後である。いずれも小畦畔で大畦畔はみられなかった。水口は7区などで数か所確認している。足跡は1区・7区・8区などでは比較的良好な状態で検出され、遺構原図（縮尺1/40）には記録してあるが、掲載図には縮尺の関係で図示していない。

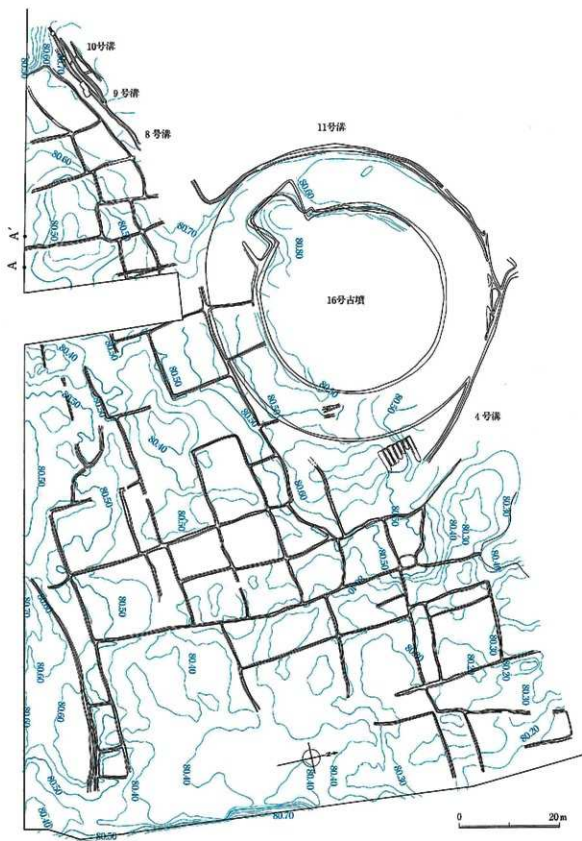
南側水田跡は微高地南東側に広がり、南端は1区東南隅付近の1号配石が位置するラインと考えられる。東端はさらに東方へと延びると思われるが、1区東側の遺存状態はあまり良好ではない。北側は各古墳の南側周溝部にかかる状態にある。面積は調査区内において11,057㎡を確認しており、そのうち16号古墳周溝部は1,449㎡である。水田面の標高は80.20～80.70mで若干の起伏が見られる。畦畔の方向はおおむね南北軸・東西軸方向である。北西端には水路と思われる8号・9号・10号溝があり、16号古墳周溝外側に11号溝などの溝が見られる。

北側水田跡は微高地北西側に広がり、西端は2区及び9区の西側、東端は1号河川跡、北端は7区及び8区の北側まで13区では幅状になりながらもさらに北東方向へと延びている。東端の1号河川跡東方は古墳時代を中心とする集落域となっている。面積は調査区内において11,879㎡を確認している。水田面の標高は80.00m～80.70m程度で、縁辺部（微高地方向）がやや高い状態にある。畦畔の方向は7区及び8区ではおおむね南北軸・東西軸方向であるが、縁辺部は地形に応じるような状態で造られている。9区の西端に沿って水路と思われる溝（幅60cm・深さ10cm前後）が北東方向へと流れている。また、8区から6区にかけても北東方向へ流れる水路がある。なお、6区南側に位置する60号溝は近現代の遺構である。

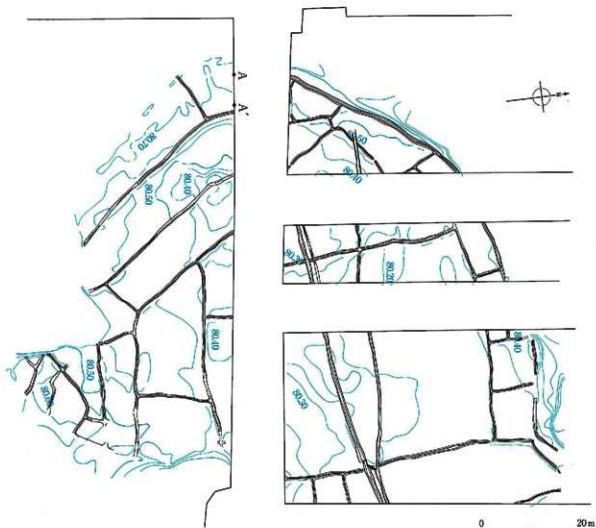
このほかにも当該期の溝（本節6参照）が水田跡に流れ込む状態で多数検出されており、これらは先述したように水田用水路の可能性が高い。溝の埋没土には暗灰褐色粘質土が堆積するものと、黒褐色土が堆積するもの、浅間B軽石が直接埋没しているものなどがある。溝埋没土の差異は時期差によるものと判断されるが、今回の調査で水田面を検出し得たのは浅間B軽石に埋没した水田跡のみである。また、58号溝（第3節5）・2号溝（第4節4）などの状態や、テフラ分析（第5章第1節）において本水田跡下層からF A及び浅間C軽石が確認されていることなどから古墳時代の水田跡が存在していた可能性もあるが、これらの水田面も確認することはできなかった。



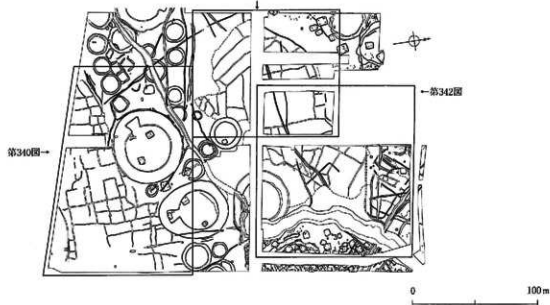
第339図 南側水田跡土層図



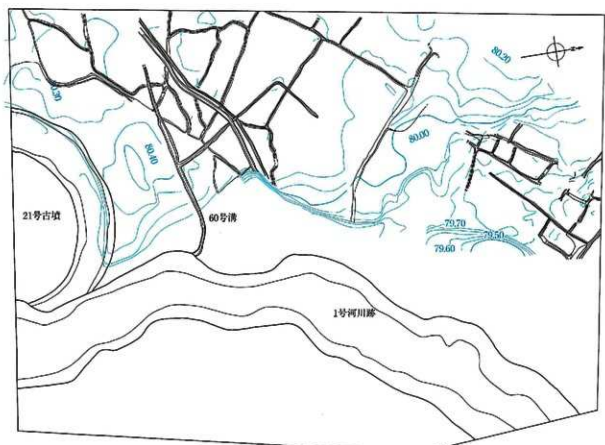
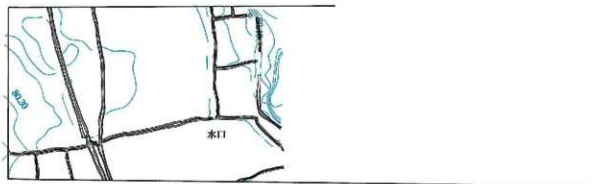
第340図 南側水田跡



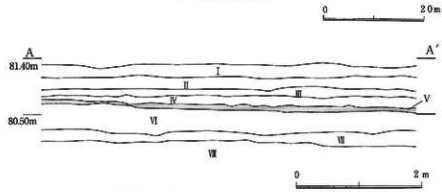
第341図



第341図 北側水田跡①



- I : 砂状礫土 深淵な砂石を少量含む。しまり多い。
- II : 泥礫土 深淵な砂石を少量含む。しまり・粘性あまりない。
- III : 砂状礫土 流砂状砂。しまり・粘性ともあまりない。
- IV : 砂礫土 流砂状砂。深淵な砂石を多量含む。
- V : 流砂状砂礫土 自然砂礫を少量含む。しまり強く、粘性がある。砂礫層の厚さ異なる。
- VI : 泥礫土 しまり強く、粘性がある。シルト層、流砂状砂。しまり強く、粘性がある。

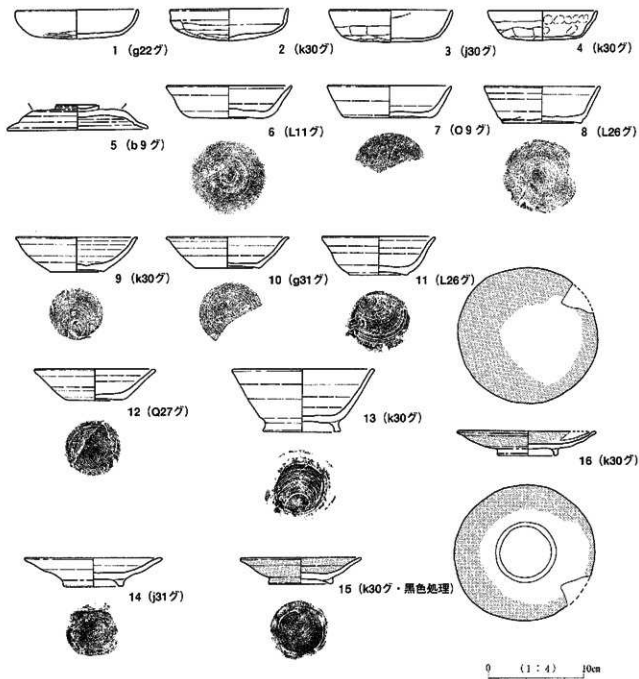


第342図 北側水田跡②・土層図

(8) 遺構外出土遺物 (第343・344図、P L209、観察表P103)

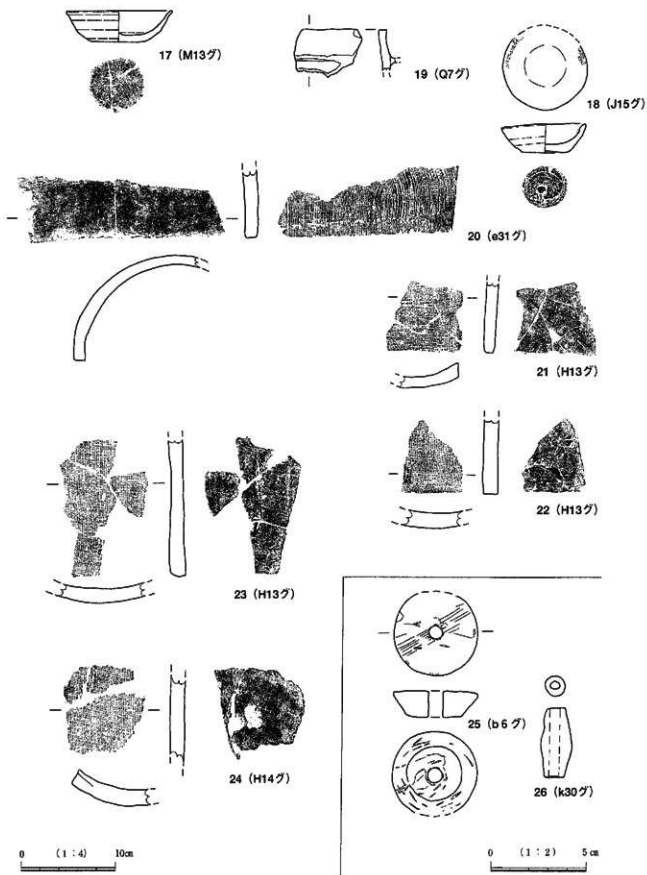
ここでは、奈良・平安時代の遺構外出土遺物26点を掲載した。土師器杯(1~4)、須恵器蓋(5)・坏(6~12)・埴(13)・皿(14・15)・小形坏(17)・羽釜(19)、灰軸陶器皿(16)、灯明坏(18)、瓦(20~24)、紡錘車(25)、土錘(26)などがある。

灰軸陶器皿は光ヶ丘1号窯式期と判断される。調査区北西隅から出土したもので、付近に位置する108号住居跡に伴う可能性もある。灯明坏は16号古墳の北側掘れ部付近から出土している。瓦も浅間B軽石下水口跡に再利用されていた16号古墳南側周溝の水田土壌中から出土したもので、胎土には結晶片岩の含有が認められた。また、土師器杯の1・2、須恵器坏・埴の9・10・12・13にも胎土に結晶片岩の含有が認められる。

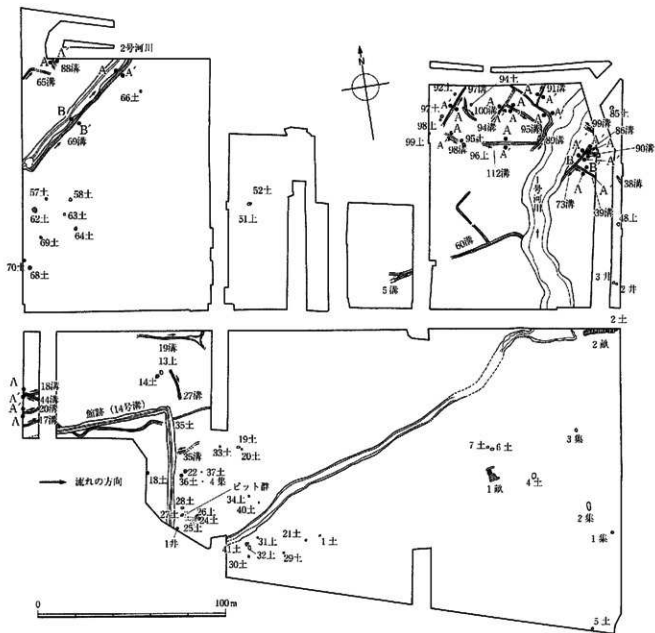


第343図 奈良・平安時代遺構外出土遺物①





第344図 奈良・平安時代遺構外出土遺物②



第345図 中・近世遺構位置図

## 第6節 中・近世

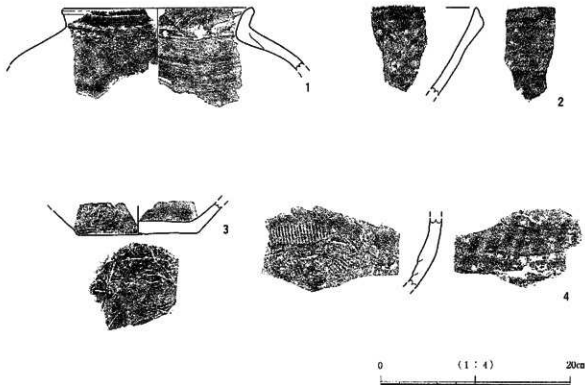
## (1) 館跡 (塚ノ越屋敷)

14号溝 (造構：第348図、P L 210・211 遺物：第346・347図、P L 222、観察表P 106)

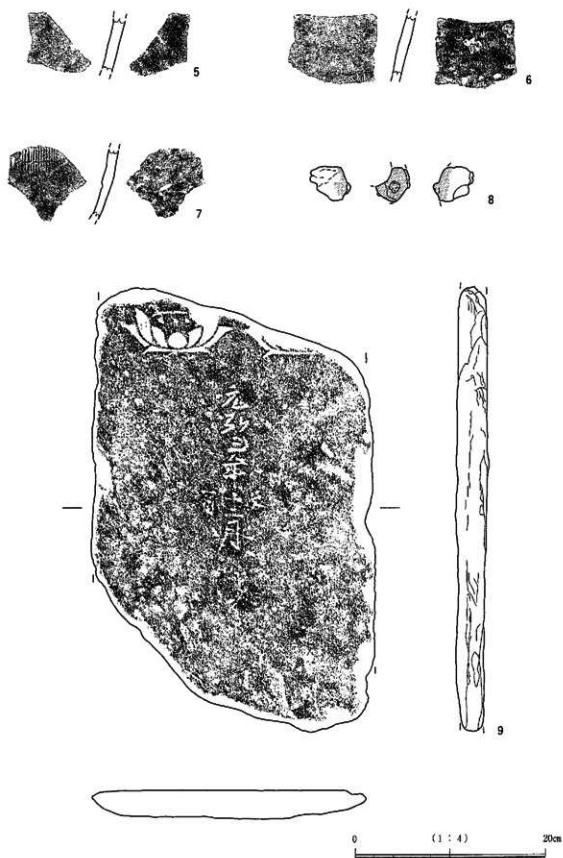
位置：3区南側。堀の内側及び西側・南側は調査区外。南側には一貫堀用水路(岡麻川)が流れている。重複：8号古墳が東側堀に隣接し、22号・23号古墳等を切る。周辺の古墳は館構築時には削平されていたと考えられる。検出状態：調査区の関係で東側及び北側の堀を確認し得たのみで、建物跡等は確認できなかった。断定はできないが単郭の方形館とみられる。堀の状態：断面形態は葉研状。上端最大幅4.70m・最小幅2.70m、下端最大幅0.34m・最小幅0.26m、残存深度1.10m。東側堀は調査区内において64.8mを確認し、走行軸は $N-6^{\circ}-E$ 。北側堀は79.5mを確認し、走行軸は $N-87^{\circ}-E$ 。東側・北側両堀の交差角は $81^{\circ}$ と鋭角である。東側堀の南側底面にはピット2基が4mほどの間隔で位置しており、橋脚が存在していた可能性もある。堀の埋没土はローム粒・ロームブロック・浅間B軽石等を含む暗褐色土を基調とし、内側から自然埋没したと思われる。備考：溝の埋没状態から判断して、堀の内側には土塁が築かれていたと推測される。堀の内部構造物についてはほとんど確認できなかったが、18号土坑(本節3)は井戸と想定される。また、東側堀の南側延長付近から北東へと流れる1号河川跡は本館跡と有機的な関連があった可能性もあり、北東約500mに位置する井野川と本館跡とを結びつける水運の役割を担っていたとも考えられるが、確証はない。造構の時期は14世紀代と想定される。

遺物出土状態：ピットをふさぐように板碑が出土しているほか、埋没土中に少量の陶器片がみられた。

遺物：軟質陶器、常滑系陶器、輪羽口、板碑がある。板碑(9)は緑泥片岩製で、「元弘三年十二月・癸・酉」の刻字がある。掲載遺物9点。



第346図 館跡(14号溝)出土遺物①



第347図 館跡（14号溝）出土遺物②



## (2) 集石

5基検出しており、概要は表6に示した。1号集石は下部に円形土坑があり、4号集石は土坑内に礫を集めたような状態であった。2号集石や5号集石は浅間B軽石層を切る状態で帯状に礫が分布していた。両集石とも馬歯が検出されており、馬の埋葬場所であった可能性もある。

## (3) 井戸・土坑

概要は表7～表9に示した。

当該期の井戸としたものは3基であるが、土坑としたものの内、13号・18号・21号・32号・33号・34号・35号・37号・48号・57号・58号・62号・63号・64号・69号・97号・99号土坑は井戸の可能性はある。

1号井戸は館跡(本節1)の東側部に近接して位置する。2号井戸・3号井戸は5区南側で隣接して位置し、両井戸とも浅間B軽石が厚く二次堆積する。土師器・須恵器や埴輪などが流れ込むような状態で出土しているが、中・近世の遺物はみられなかった。

2号土坑は2号款状遺構の東側に隣接し、上層に浅間A軽石が二次堆積する。下層からは動物の脊椎と思われる骨(P.L.223)が出土している。4号土坑は浅間B軽石下水田跡を切る状態で構築されている。平面長方形の7号土坑は北西隅から馬歯が出土していることから馬の埋葬塚と考えられる。近接して位置する6号土坑も7号土坑と形態・規模・長軸方位が類似しており、同様の遺構と思われる。両土坑には浅間A軽石の堆積が認められた。24号・25号・26号・27号・28号土坑は近接して位置し、8号古墳周溝に堆積した浅間B軽石層を切る状態で構築されている。29号土坑は上面に礫が集中し、埋没土中から陶器・青磁片が出土している。30号土坑は底面付近から被熱痕のある礫が多量に出土している。32号土坑からは滑石製銅片・軟質陶器・砥石等が出土している。滑石製銅片は温石に転用されている可能性もある。41号土坑は平面形態が凸字状で、地下式墓の可能性が高い。張り出し部分は幅0.80m・長さ1.50mで北東方向へ長く延びる。同上土坑からは軟質陶器鉢片が出土している。48号土坑は上層に浅間B軽石が二次堆積し、3層には炭化粒が多量認められた。51号・52号土坑は隣接し、51号土坑が52号土坑を切る。51号土坑には全体に礫が詰まるような状態にあり、52号土坑は中層に礫がみられた。57・58号土坑は浅間B軽石が二次堆積している。62号・69号土坑は井戸と考えられる。埋没上は浅間B軽石を含む暗灰褐色土で上層に多量の礫があり、62号土坑からは礫に混じるように青磁片が、69号土坑からは陶器片が出土している。63号・64号土坑は上層に浅間B軽石が二次堆積し、中層以下に礫がみられる。94号土坑は底面に被熱痕跡がある。97号土坑からは軟質陶器・常滑系陶器のほか、楕形埴輪(第4節5)が出土している。

## (4) 款状遺構

1号款状遺構(遺構:第236図、P.L.88)

位置: J10グリッド。重複: 25号古墳を切る。検出状態: 浅間A軽石に埋没する状態で、南北約7m×東西約6mの範囲に、幅90cm・深さ10cm前後のサクが7本並行して掘り込まれている。備考: 畑跡か。

2号款状遺構(遺構:第350図、P.L.219)

位置: P2～Q4グリッド。北端は調査区外。検出状態: 浅間A軽石に埋没する状態で、東西方向19.4mの範囲に、幅50～60cm・深さ5～20cm程度のサクが25本並行して掘り込まれている。備考: 畑跡か。

表6 中・近世集石一覧

遺構番号	位置	集石の範囲 (m)	F部土坑		おもな出土遺物/備考	遺構			
			長軸×短軸	深さ		挿園	PL	挿園	PL
1号集石	F 4	0.87×0.60	0.81×0.77m	37cm	磨られた煎跡のある礫/上面にのみ礫	349円	212	360円	222
2号集石	G 5	4.05×0.65	なし	-	円板状品	349円	212	360円	222
3号集石	K 5	1.04×0.70	浅い凹み	15cm	染付磁器片/北側から馬歯出土	349円	212	360円	222
4号集石	L 26	0.77×0.58	1.15×1.13m	44cm	/被熱痕跡あり	349円	212	-	-
5号集石	L 13	6.60×2.30	なし	-	/As-B水田跡後の遺構、馬歯出土	-	212	-	-

表7 中・近世井戸一覧

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	遺構			
						挿園	PL	挿園	PL
1号井戸	J 17	楕円形	1.30×1.18	140cm+	円筒地輪片/湧水のため未発掘	350円	212	-	-
2号井戸	S 2	楕円形	0.99×0.86	103cm	土師器、須恵器片/As-B堆積、平安時代か	350円	212	-	-
3号井戸	S 2	円形	1.30×1.25	113cm	須恵器片、馬形地輪/As-B堆積、平安時代か	350円	212	-	-

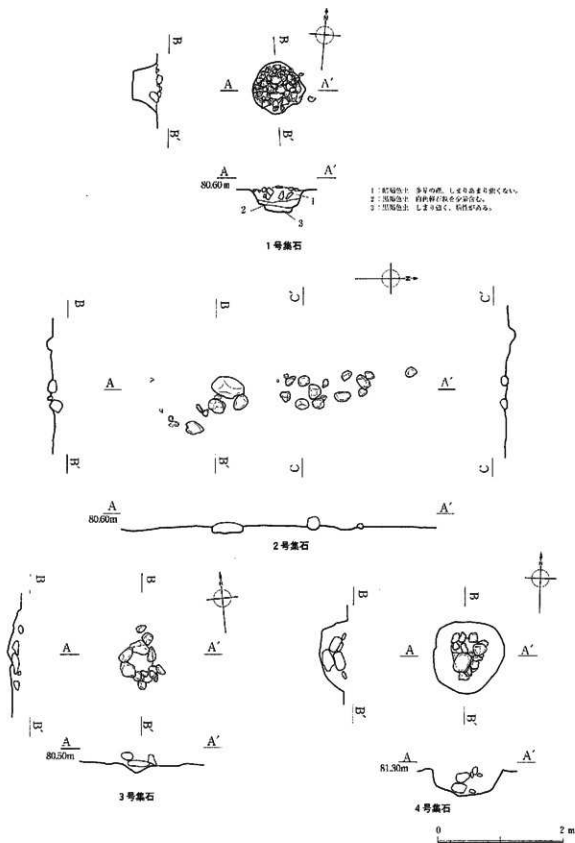
表8 中・近世土坑一覧①

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	遺構			
						挿園	PL	挿園	PL
1号土坑	H 19	円形	0.89×0.89	82cm	/底面より4~23cm上に礫	351円	213	-	-
2号土坑	P 2	円形	1.36×1.34	75cm	/As-A堆積、3・4層より動物の骨骨片出土	351円	213	-	223
4号土坑	I 8	長方形	3.47×2.39	35cm	/長軸方位N-5°-E	351円	-	-	-
5号土坑	A 6	円形	1.03×1.01	31cm	円筒地輪片	351円	213	-	-
6号土坑	K 10	長方形	1.86×0.98	42cm	/長軸方位N-68°-E、7号土坑に隣接	351円	213	-	-
7号土坑	K 10	長方形	1.75×0.93	33cm	/長軸方位N-68°-E、馬歯出土	351円	213	-	-
13号土坑	R 26	円形	1.72×1.66	147cm	/井戸の可能性あり、上半に礫が集中する	351円	213	-	-
14号土坑	R 27	円形	1.23×1.14	34cm	/13号土坑に隣接	352円	-	-	-
18号土坑	K 28	円形	1.61×1.51	92cm	/井戸の可能性あり、As-B二次堆積	352円	-	-	-
19号土坑	N 23	楕円形	2.29×0.96	24cm	/長軸方位N-76°-W、As-B二次堆積	352円	-	-	-
20号土坑	M 23	円形	0.65×0.63	54cm	/As-B二次堆積	352円	-	-	-
21号土坑	H 20	楕円形	1.28×1.05	102cm	/井戸の可能性あり	352円	214	-	-
22号土坑	M 26	楕円形	1.68×1.45	28cm	/断面皿状、As-B二次堆積	352円	214	-	-
24号土坑	J 26	楕円形	1.70×0.85	16cm	/長軸方位N-15°-E、As-B層を切る	352円	214	-	-
25号土坑	J 26	楕円形	1.98×0.93	18cm	/長軸方位N-15°-E、As-B層を切る	352円	214	-	-
26号土坑	J 26	円形	0.74×0.72	12cm	/As-B層を切る	352円	214	-	-
27号土坑	J 26	楕円形	1.94×1.02	26cm	/長軸方位N-76°-E、As-B層を切る	352円	-	-	-
28号土坑	K 26	長方形	1.68×0.76	19cm	/長軸方位N-86°-W、As-B層を切る	352円	214	-	-

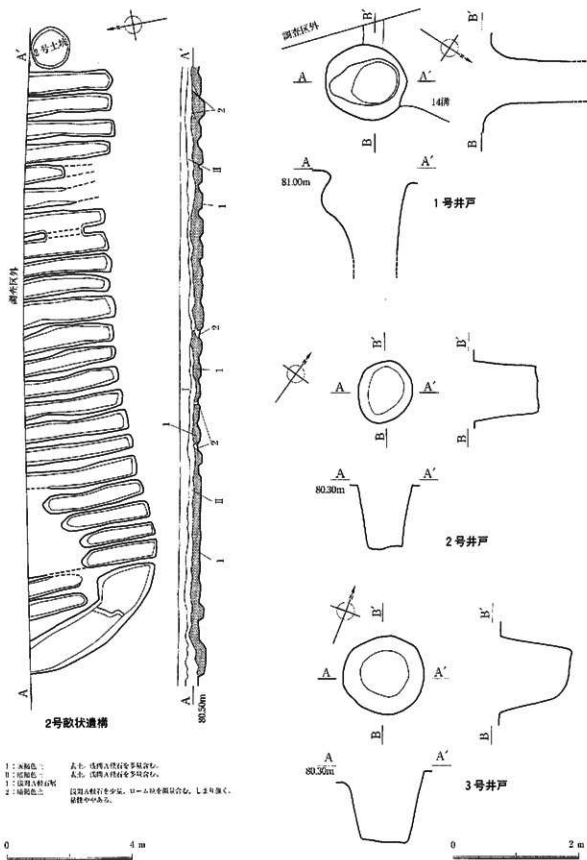
表9 中・近世土坑一覽②

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	残存深度	おもな出土遺物/備考	遺 構		遺 物	
						採 掘	P.L.	採 掘	P.L.
29号土坑	G21	円 形	0.84×0.78	45cm	陶器、青磁片/上面に礫が集中	352回	214	358回	223
30号土坑	H23	円 形	1.13×1.11	40cm	/底面付近に被熱痕のある礫多量	352回	214	-	-
31号土坑	H23	楕 円 形	2.06×1.63	110cm	/南東側上層に礫	353回	214	-	-
32号土坑	H23	楕 円 形	2.86×2.29	150cm+	滑石製網、陶器、砥石/未完掘、井戸か	353回	214	358回	223
33号土坑	N24	円 形	0.73×0.71	94cm	/井戸の可能性あり	353回	215	-	-
34号土坑	K23	隅丸方形	0.84×0.79	134cm	/上面に多量の礫、井戸の可能性あり	353回	215	-	-
35号土坑	O26	円 形	1.00×0.94	130cm	/中層に礫、井戸の可能性あり	353回	215	-	-
36号土坑	L26	楕 円 形	0.98×0.80	53cm	陶器片/下層に礫	353回	215	-	-
37号土坑	M26	円 形	0.91×0.86	85cm	/井戸の可能性あり	353回	215	-	-
40号土坑	J22	円 形	0.91×0.85	73cm	/As-B二次堆積	354回	215	-	-
41号土坑	H23	凸 字 状	3.62×2.44	80cm	軟質陶器/長軸方位N-65°-E、地下式竈	354回	216	358回	223
48号土坑	V 1	円 形	1.58×1.52	116cm	中世陶器片/As-B二次堆積、井戸か	354回	215	-	-
51号土坑	Z20	円 形	1.18×1.09	112cm	/全体に礫が詰められている、	354回	216	-	-
52号土坑	Z20	円 形	0.87×0.79	120cm	/51号土坑に隣接	354回	216	-	-
57号土坑	b31	楕 円 形	1.36×1.13	130cm	/1・7層にAs-B層、井戸の可能性あり	354回	215	-	-
58号土坑	b30	円 形	1.41×1.34	125cm	/As-B二次堆積、井戸の可能性あり	355回	216	-	-
62号土坑	a32	楕 円 形	2.60×2.26	207cm	青磁片/上面に礫多量、井戸	355回	217	358回	223
63号土坑	a30	円 形	1.24×1.15	120cm	/上層にAs-B二次堆積、井戸の可能性あり	355回	217	-	-
64号土坑	Z30	楕 円 形	1.83×1.35	124cm	/上層にAs-B二次堆積、井戸の可能性あり	355回	217	-	-
66号土坑	g25	楕 円 形	1.36×1.15	47cm	/上層にAs-B二次堆積、中層に礫1	355回	217	-	-
68号土坑	Y32	円 形	1.72×1.66	102cm	-北東部に礫集中	356回	217	-	-
69号土坑	Z32	円 形	1.47×1.45	190cm	陶器片/井戸、東側にビット、上層に礫	356回	218	-	-
70号土坑	Y33	楕 円 形	1.18×0.92	124cm	/南西下段壁面決られている	356回	217	-	-
85号土坑	b 1	楕 円 形	1.86×1.02	65cm	染付磁器片/長軸方位N-54°-E	356回	217	-	-
92号土坑	d 9	円 形	1.05×1.01	59cm	流れ込み円筒埴輪	356回	217	-	-
94号土坑	c 8	楕 円 形	1.08×0.97	36cm	/As-B二次堆積、底面に被熱痕あり	357回	218	-	-
95号土坑	b 9	長 方 形	2.71×1.94	26cm	/As-B二次堆積、長軸方位N-43°-E	357回	-	-	-
96号土坑	a 9	長 方 形	1.59×1.08	10cm	/As-B二次堆積、長軸方位N-39°-W	357回	-	-	-
97号土坑	c10	円 形	1.63×1.60	283cm	陶器片、流れ込みの埴輪/井戸	357回	218	358回	223
98号土坑	c10	楕 円 形	0.69×0.59	62cm	/97号土坑に隣接	357回	218	-	-
99号土坑	b11	楕定円形	- × -	142cm	/As-B二次堆積、井戸の可能性あり	357回	218	-	-

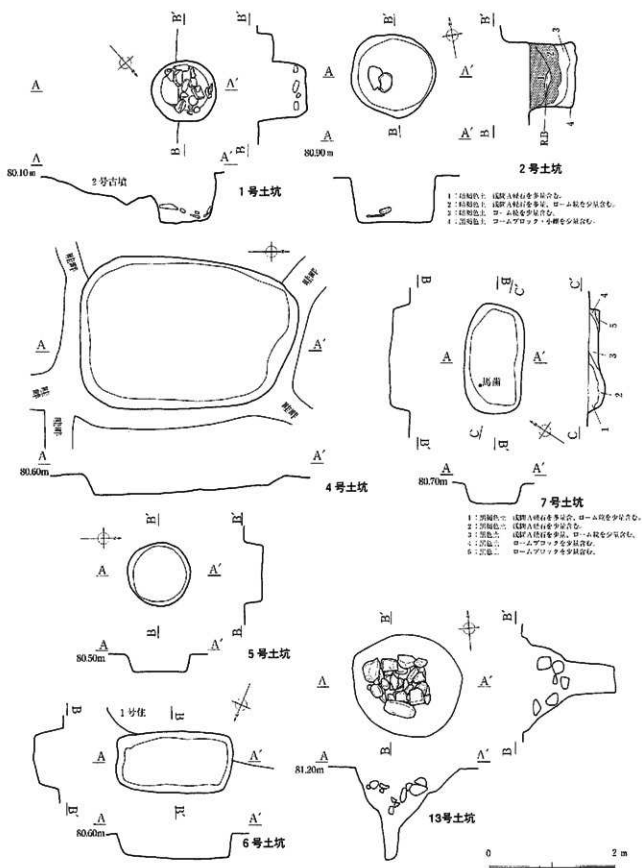




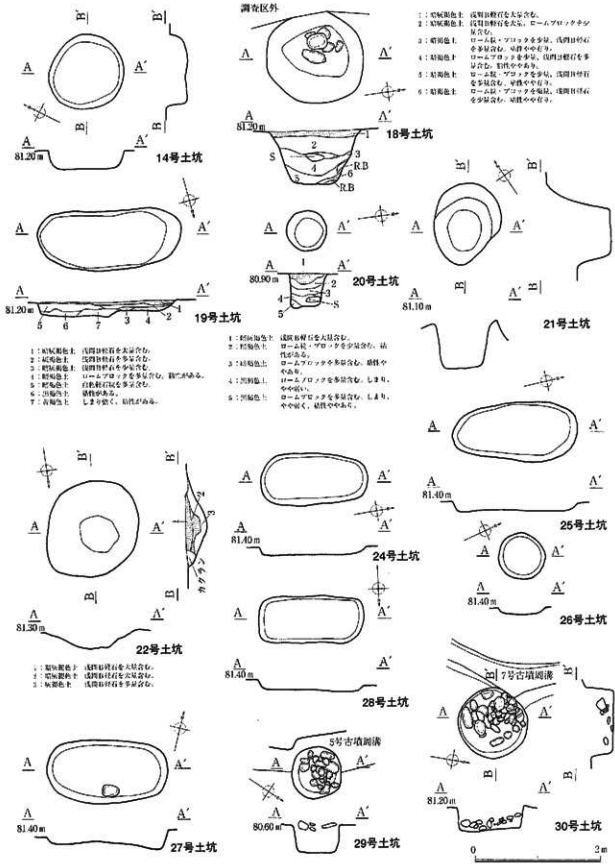
第349図 集石



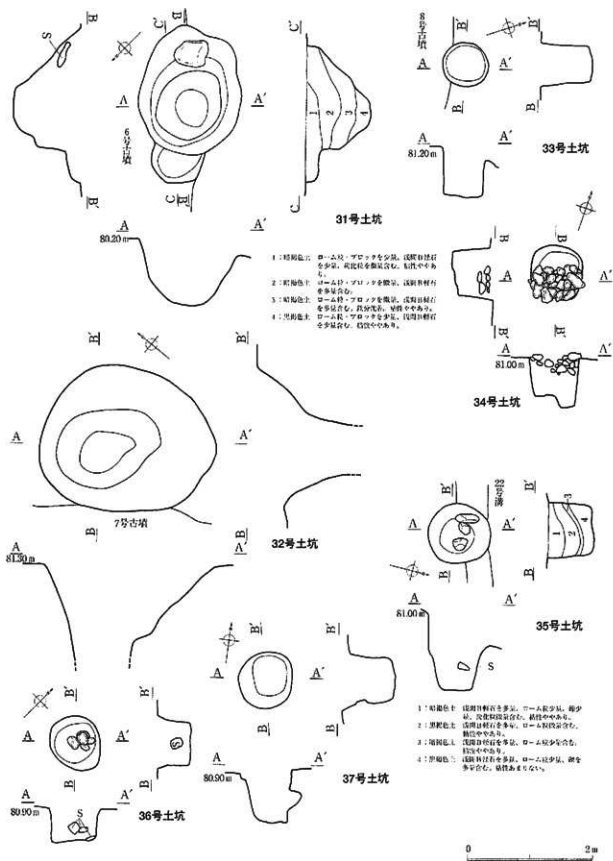
第350図 2号欵状遺構、1号~3号井戸



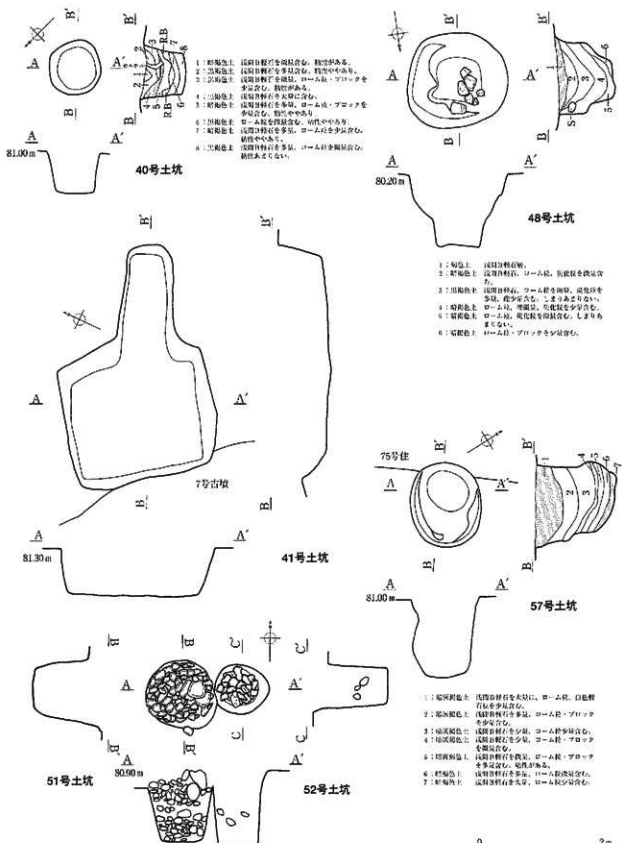
第351図 中・近世土坑①



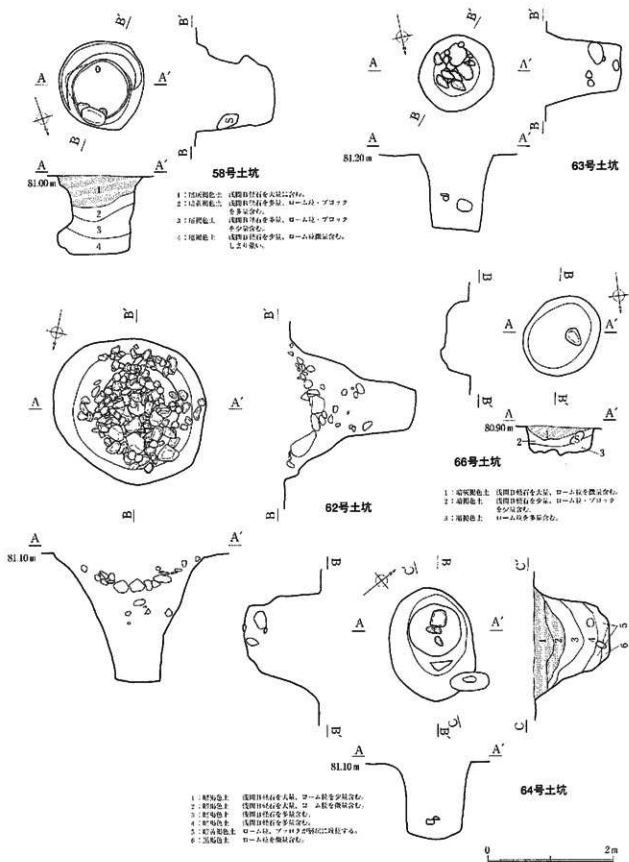
第352図 中・近世土坑②



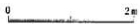
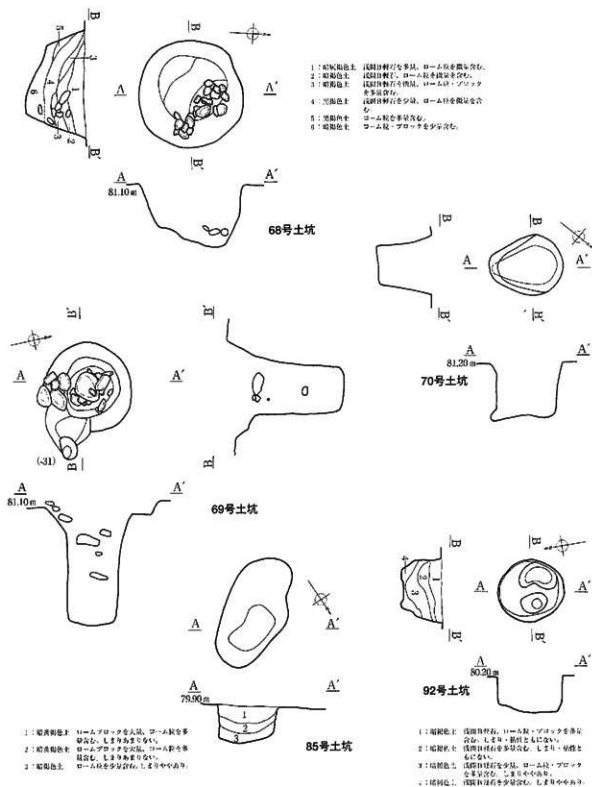
第353図 中・近世土坑③



第354図 中・近世土坑④

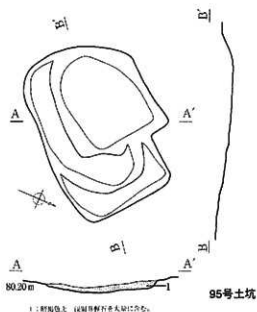


第355図 中・近世土坑⑤

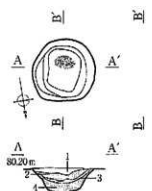


第356図 中・近世土坑⑥





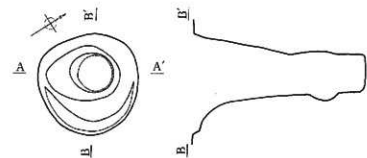
1: 貯蔵施設 炭類貯蔵用を大塚に含む。



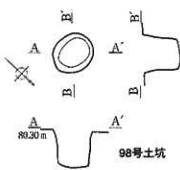
- 94号土坑
- 1: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用、ロームロップ・ブロッコを多量含む。土量も多量あり。
  - 2: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を大塚に含む。
  - 3: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用、ロームロップ・ブロッコを多量含む。土量も多量あり。
  - 4: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を大塚に含む。



1: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を大塚に含む。



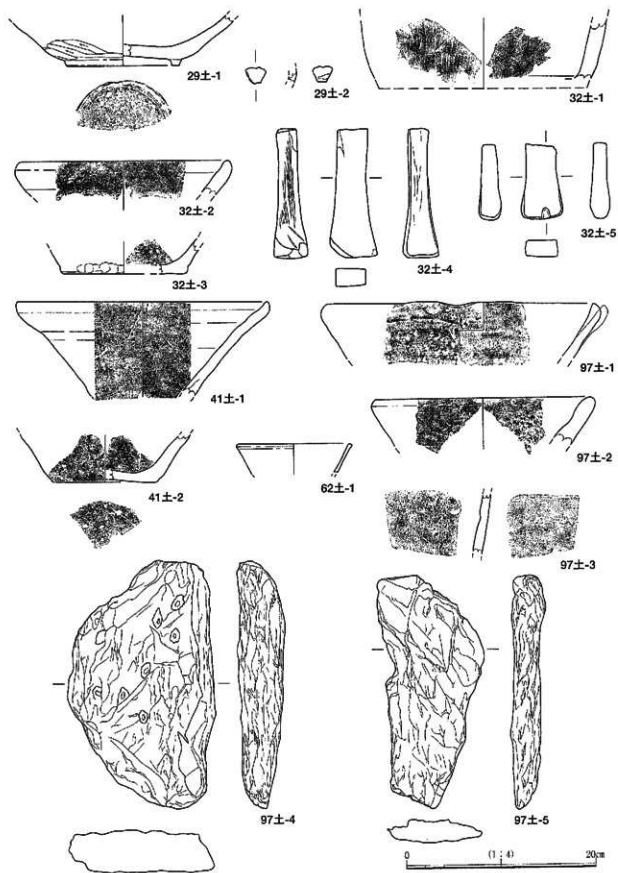
81.10m



- 99号土坑
- 1: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を多量。炭を多量含む。
  - 2: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を多量含む。
  - 3: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を多量。炭を多量含む。
  - 4: 貯蔵施設: 炭類貯蔵用を多量。ロームロップを多量含む。
  - 5: 貯蔵施設: ロームロップを多量。ロームロップを多量含む。炭を多量含む。

0 2m

第357図 中・近世土坑②



第358图 29号・32号・41号・62号・97号土坑出土遗物

(5) ビット群

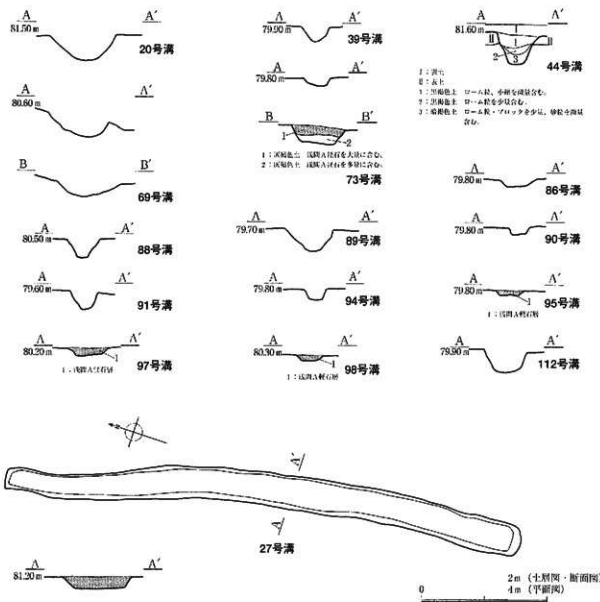
本遺跡ではいくつかのビット群が検出されている。いずれも遺物跡を構成する可能性があるものの、明確に把握できなかったものである。J26グリッドのビット群（P L219）は、8号古墳周溝に堆積した浅間B軽石を切る状態で検出されており、周辺に位置する24号～28号土坑と同時期の遺構と思われる。

(6) 溝

26条を当該期の溝と判断し、表10に概要を示した。なお、便宜上、近・現代の溝も含めてある。

いずれも第2節～第5節で扱った遺構と同一の確認面で検出されたもので、結果として各溝は小規模で残存深度は浅いものが多かった。

17号溝は22号溝に重なるように西～東へ蛇行し、北側水口跡方向へと流れている。浅間B軽石が二次堆積する（第333図）ことで中世と判断したが、中世館跡の堀（14号溝）には切られている。



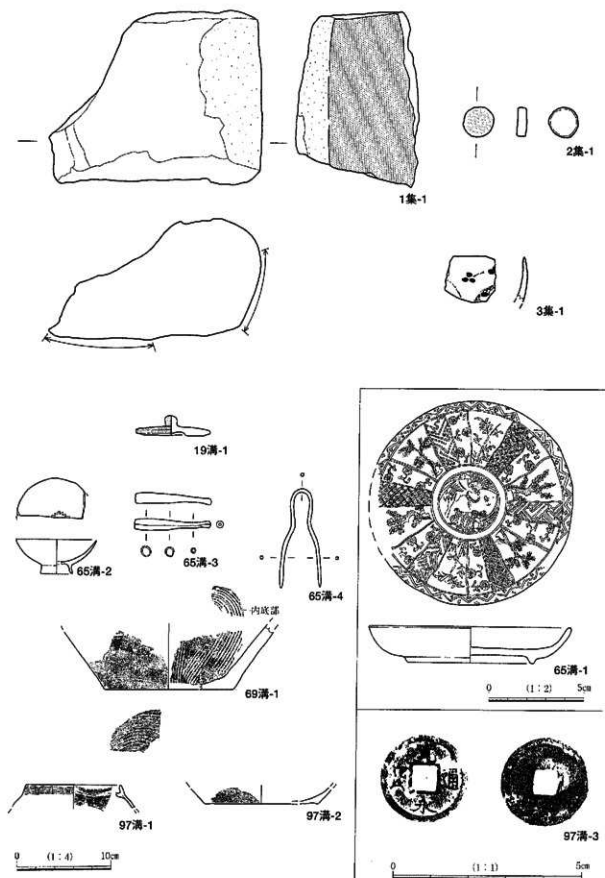
第359図 中・近世溝 断面図・土層図、27号溝

19号・73号・90号・91号・94号・95号・97号・98号・99号・100号・101号溝には浅間A軽石が堆積し、近世末頃の溝と判断される。これら近世の溝は水田用水路としての機能が推測されるが、当該期の水田面は確認されなかった。遺物は19号・97号溝などから少量の陶磁器片や寛永通宝等が出土している程度であった。27号溝は浅間A軽石の処理坑とみられる。

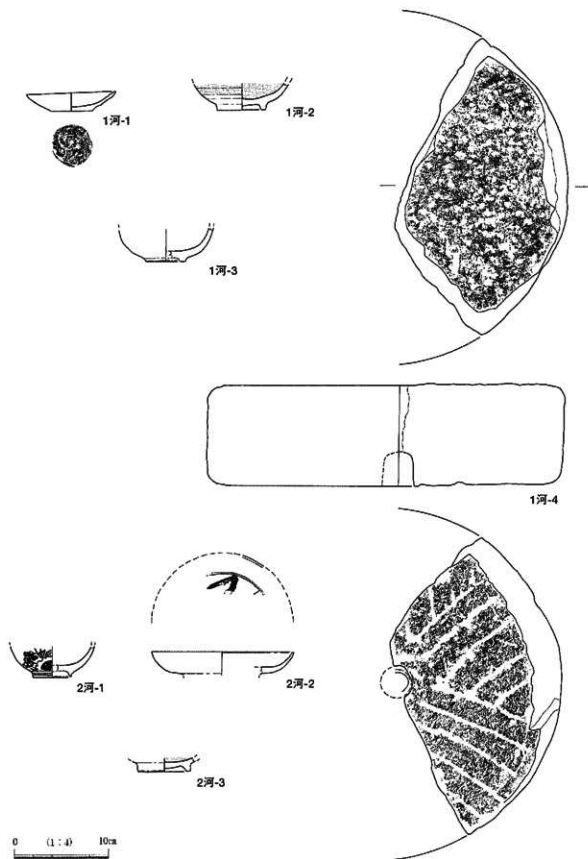
近・現代の溝としては、60号・65号・89号・112号溝などがある。65号溝から出土した染付磁器には中央部に「鶴・亀」が周辺部に「松・竹・梅・菊」が描かれている。

表10 中・近世 溝一覽

遺構番号	検出位置	走行方向	底面の標高(m)	上端最大幅(m)	残存深度(cm)	おもな出土遺物・備考	遺構		遺物	
							挿 西	P.L.	挿 西	P.L.
17号溝	P34～P24	西～東	80.92～80.91	1.24	32	／As-B二次堆積	339回	220	-	-
18号溝	R34～R33	西～東	80.99～80.90	0.71	21	流れ込み縄文土器片	345回	220	-	-
19号溝	T27～S24	西～東	80.75～80.56	1.10	48	陶器／As-A堆積	345回	2	360回	223
20号溝	Q34～Q33	西～東	81.11～80.89	0.72	40	流れ込み土師器片	359回	220	-	-
27号溝	R26～P26	北～南	80.91～80.84	1.14	22	／浅間A軽石の処理坑	359回	220	-	-
35号溝	N26	北東～南西	81.02～80.98	0.44	47		345回	2	-	-
38号溝	X1	不明	～79.91	0.55	12		345回	3	-	-
39号溝	Y2～Y3	南東～北西	79.66～79.43	0.57	29	流れ込みの土師器	359回	220	-	-
44号溝	R33～R34	南東～北西	80.87～80.49	0.60	24	／底面に砂粒	359回	220	-	-
60号溝	V10～V7	西～東	80.20～79.90	1.10	30	ガラス瓶／現代	345回	3	-	-
65号溝	h31～h28	南西～南東	80.29～80.04	0.96	27	染付磁器、煙管、罎	345回	3・4	360回	223
69号溝	d31～h26	南西～北東	80.22～79.92	1.74	58	陶器（すり鉢）	359回	3・4	360回	223
73号溝	Z2～Y4	北東～南西	79.61～79.57	0.86	23	／As-A堆積	359回	220	-	-
86号溝	Z2	西～北東	79.62～79.59	0.66	13	／深い溝	359回	220	-	-
88号溝	i30	北～南	80.13～80.05	0.55	35	流れ込み円筒埴輪片	359回	221	-	-
89号溝	d6～a5	北西～南西	79.45～79.07	1.04	43	陶器／現代の溝	359回	221	-	-
90号溝	Z3～Z2	西～東	79.57～79.52	0.56	17	／As-A堆積	359回	221	-	-
91号溝	c4～d4	南西～北	79.41～79.18	0.68	34	陶器片／As-A堆積	359回	221	-	-
94号溝	b7～d6	南西～北東	79.66～79.54	0.48	20	／As-A堆積	359回	221	-	-
95号溝	c6～a5	北西～南	79.55～79.44	0.64	22	／As-A堆積	359回	221	-	-
97号溝	b10～d8	南西～北東	80.01～79.82	1.01	23	陶器、古銭／As-A堆積	359回	3	360回	223
98号溝	b10～b9	北西～南東	80.09～80.02	0.79	11	／As-A堆積	359回	3	-	-
99号溝	a2	南東～北西	79.15～78.82	1.28	27	／As-A堆積	345回	3	-	-
100号溝	d8	-	-	-	-	／As-A堆積	345回	221	-	-
101号溝	c9～c8	北西～南東	79.92～79.73	0.71	21	陶磁器片／As-A堆積	345回	221	-	-
112号溝	a8～a5	西～東	79.68～79.32	1.02	38	／現代の溝	359回	3	-	-



第360圖 中・近世 集石・溝出土遺物



第361圖 1号・2号河川跡出土遺物

(7) 河川跡 (遺構：第345図、P L 2・3・219 遺物：第361図、P L 224、観察表P 108)

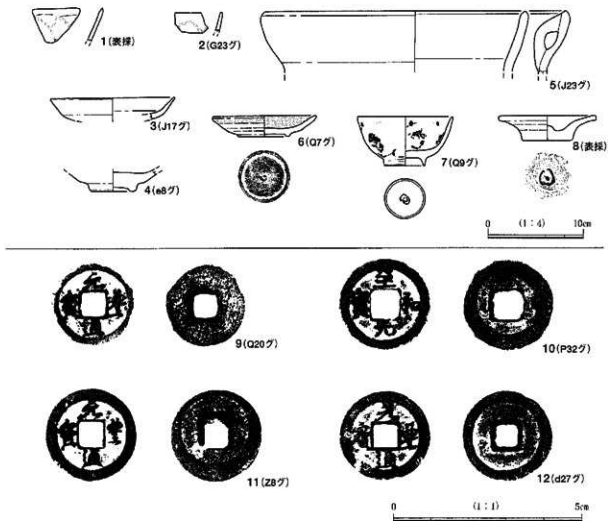
1号河川跡は、I 24～c 2グリッドにかけて位置し、I 24グリッドから21号古墳東側までは確認幅5m前後で北東方向へ、21号古墳東側からは幅12～15mと大規模になり深さも増して北方へ向かい、6区中央部からは再び北東へと流れ、井野川へと至る。2号河川跡は、d 31～i 26グリッドにかけて確認幅7m前後で、1号河川跡は、北東方向へと流れている。

両河川跡とも、岡魔川 (現在は一貫堀放水路とされているが地元の人話によると正式名称は「岡魔川」とのことである) から取水し、井野川へと流れる用水路的な性格を有していたと思われるが、小船での水運も十分可能な規模である。両河川跡の構築時期は岡魔川との関連から中世頃とみられ、1号河川跡は、寛政元年 (1789) の中人類村絵図 (高井和重家文書、第6章参照) にも図示されている。

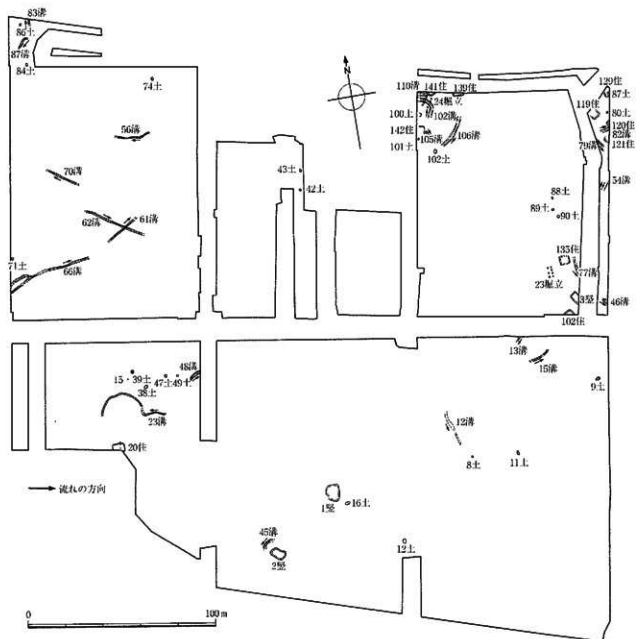
出土遺物には陶磁器・かわらけ・石臼などがみられる。

(8) 遺構外出土遺物 (第362図、P L 224、観察表P 109)

青磁片 (1～4)、内耳箸 (5)、陶器 (6・8)、染付磁器 (7)、古銭 (9～12) の12点を掲載した。青磁には龍泉窯系及び同安窯系と思われるものがみられる。古銭には元豊通宝3点・至和元宝1点がある。



第362図 中・近世遺構外出土遺物



第363図 時期不明の遺構位置図



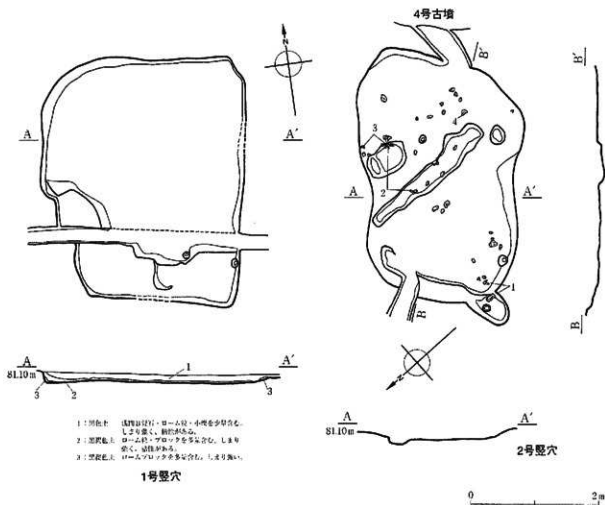
第7節 時期不明

(1) 住居跡・竪穴 (遺構：第363・364図、P L 226・227 遺物：第365図、P L 230、観察表P 110)

住居跡10軒・竪穴3基を時期不明とし、概要は表111に示した。

住居跡は20号住居跡を除き古墳時代の住居跡が密集する5区・6区で検出されたもので、おおむね古墳時代の遺構と推測されるが、ごく一部しか調査し得なかった遺構が多く、また伴出遺物がほとんどないかあるいは小破片で時期の判断ができなかったため時期不明としたものである。20号住居跡は長方形の平面プランを確認したため住居跡と判断したが、柱穴・カマド・炉跡等は確認されず、遺物は打製石斧や円筒埴輪・土師器片等が混在する状態で出土しており、住居跡ではない可能性が高い。

1号竪穴は3号古墳の東側で検出され、古墳時代後期の土師器坏が出土しているが、埋没土には浅間B軽石が観察されている。2号竪穴は、弥生土器・円筒埴輪・須恵器が混在して出土したため時期不明としたものであるが、同竪穴の埋没土には浅間B軽石の二次堆積がみられ、平安末期から中世頃に何らかの目的で掘られ、周辺の方形周溝墓や古墳の遺物が流れ込んだものと推測される。3号竪穴からの出土遺物は皆無であった。3基とも遺構の性格については不明である。



第364図 1号竪穴・2号竪穴

## (2) 独立柱建物跡 (遺構: 第363図、P L 226)

2基を時期不明とし、概要は表12に示した。検出位置から古墳時代の可能性もあるが確証がない。

## (3) 土坑 (遺構: 第363図、P L 228・229)

24基を時期不明とし、概要は表13に示した。

表11 時期不明の住居跡・竪穴一覧

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	深度	備考
20号住	O28	長方形	3.50×3.20	24cm	打鍵石斧
102号住	R 4	不明	- × -	31cm	土師器片
119号住	b 1	不明	- × 3.30	9cm	土師器片
120号住	ㄥ 1	不明	- × -	11cm	土師器片
121号住	a 1	不明	- × -	21cm	土師器片
129号住	ㄥ 0	不明	- × -	10cm	土師器片
135号住	U 4	長方形	5.00×4.30	18cm	古墳前期か

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	深度	備考
139号住	d 8	不明	- × -	23cm	土師器片
141号住	e 9	不明	- × -	9cm	埴周溝あり
142号住	ㄥ 10	不明	- × -	13cm	
1号竪穴	K 18	長方形	7.45×6.26	30cm	土師器坏
2号竪穴	H 21	長方形	6.73×4.17	16cm	弥生・埴輪
3号竪穴	S 3	長方形	- × 3.47	18cm	

表12 時期不明の独立柱建物跡一覧

遺構番号	位置	方位	桁×梁間	桁行	梁行	柱間寸法		柱板径 (cm)	掘り方 形態	挿図	P L
						桁行 (m)	梁行 (m)				
23号竪立	T 5	N - 5° - E	1 × 3 間	3.21 m	1.91 m	1.12~1.75	1.86~1.91	不明	楕円形	363図	226
24号竪立	d 10	N - 33° - E	1 × 3 間	4.52 m	3.16 m	1.35~1.60	3.02~3.16	不明	楕円形	363図	-

表13 時期不明の土坑一覧

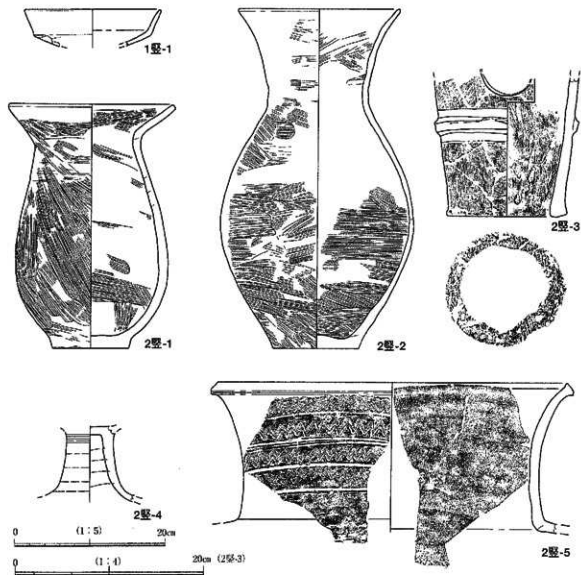
遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	深度	備考
8号土坑	K 10	楕円形	0.66×0.63	34cm	土師器片
9号土坑	N 3	楕円形	2.47×1.36	70cm	N - 55° - E
11号土坑	K 8	楕円形	2.15×0.92	53cm	13号墳内
12号土坑	G 14	長方形	2.18×1.46	27cm	N - 22° - W
15号土坑	S 27	楕円形	1.32×1.09	19cm	N - 70° - W
16号土坑	J 17	長方形	2.43×1.18	20cm	N - 85° - E
38号土坑	R 27	楕円形	1.45×1.18	37cm	N - 84° - W
39号土坑	S 27	楕円形	1.51×1.28	12cm	N - 25° - E
42号土坑	a 17	楕円形	1.13×0.97	20cm	露出土
43号土坑	b 16	長方形	1.09×0.65	16cm	露出土
47号土坑	R 25	楕円形	1.52×1.25	26cm	12号住内
49号土坑	R 25	円形	0.93×0.90	24cm	柱板あり

遺構番号	位置	平面形態	規模 (m)	深度	備考
71号土坑	Y 33	円形	0.73×0.68	27cm	露出土
74号土坑	b 24	楕円形	1.52×1.37	29cm	土師器片
80号土坑	b 0	円形	0.90×0.87	22cm	土師器片
84号土坑	i 30	楕円形	2.01×1.86	50cm	土師器片
86号土坑	i 30	円形	1.16×1.04	52cm	
87号土坑	ㄥ 0	楕円形	0.93×0.64	18cm	
88号土坑	X 4	楕円形	1.44×1.16	58cm	土師器片
89号土坑	X 4	楕円形	1.44×0.88	20cm	N - 80° - E
90号土坑	W 24	楕円形	1.42×1.24	82cm	非戸か
100号土坑	d 10	不明	1.78 × -	58cm	古墳前期か
101号土坑	b 11	円形	0.74×0.69	55cm	
102号土坑	b 10	不整形	1.93×1.50	32cm	雑多致

(4) 溝 (遺構：第363図、P L227)

12号・13号・15号・23号・45号・46号・48号・54号・56号・61号・62号・66号・70号・77号・79号・82号・83号・87号・102号・105号・106号・110号の22条を時期不明とした。

45号溝は検出位置から方形周溝墓の一部である可能性も考えられたが、対応する溝が確認されず、出土遺物も皆無であった。46号溝は幅0.85m・残存深度30cmで、埋没土にF Aブロックが検出されていることから古墳時代後期の遺構とみられるが、出土遺物は弥生時代後期の土器小片であり、全容も把握できなかったことから時期不明遺構に含めた。54号溝は幅1.26m・残存深度23cmで、古墳時代前期住居跡の掘り方である可能性もあるが確証がない。66号溝は幅0.80m・残存深度37cmで下層に粘土層がみられたが出土遺物は皆無であった。58号溝に合流するようであり、同溝と同時期の可能性もある。77号溝は33号古墳墳丘上に位置し、幅1.08m・残存深度29cmである。79号溝からは上層器片・円筒埴輪片が出土しているが、遺構の時期を示す遺物とは考えられない。106号溝は浅間B軽石下木田跡より古い時期の遺構であるが、それ以上のことは把握できなかった。このほか、過半の溝が近世以降の溝と思われたが、明確に判断できなかった。



第365図 1号竪穴・2号竪穴出土遺物

## 第5章 自然科学分析

古環境研究所

### 第1節 高崎情報団地遺跡のテフラ分析

#### 1. はじめに

井野川低地帯（早田，1990）上に位置する高崎情報団地遺跡の発掘調査では古墳など多くの遺構が検出された。遺構の覆土にはテフラ層の堆積が認められたことから、地質調査を行い土層の層序とテフラ層の層相についての記載を行った。さらにテフラ検出分析と屈折率測定を合わせて行い示標テフラとの同定を行って、遺構の構築年代に関する資料を得ることを試みた。

地質調査の対象とした地点は、2区7号墳、3区27号墳、3区23号墳、2区36号溝、2区南試掘トレンチの5地点である。

#### 2. 土層層序（第366図）

##### (1) 2区7号墳

ここでは周溝の基底の上位に、下位より黒色土（層厚3cm）、成層した火山灰層（層厚3.7cm）、黒色土（層厚13cm）、成層した火山灰層（層厚4.3cm）、黒褐色土（層厚0.8cm）、暗灰色砂質土（層厚53cm）の連続が認められた。2層の成層した火山灰層のうち、下位のテフラは、下位より褐色細粒火山灰層（層厚0.7cm）、淘汰の悪い黄白色細粒火山灰層（層厚3cm、試料番号2）から構成される。一方上位のテフラは、下位より暗灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚4cm、試料番号1）から構成される。このテフラは、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、新井、1979）に同定される。

##### (2) 3区27号墳

ここでは周溝の基底の上位に、下位より暗褐色土（層厚6cm）、黒褐色土（層厚13cm）、黄灰色細粒火山灰層（層厚4cm、試料番号1）、黒褐色土（層厚6cm）、暗褐色土（層厚11cm）、暗灰色土（層厚15cm）が認められた。

##### (3) 3区23号墳

ここでは周溝の基底の上位に、下位より黒褐色土（層厚4cm）、黄白色シルト層のブロックに富む暗褐色土（層厚4cm、試料番号1）、黒褐色土（層厚38cm）が認められた。

##### (4) 2区36号溝

ここでは溝基底の上位に、下位より黒褐色土（層厚3cm）、黄褐色軽石層（層厚3cm、軽石の最大径5mm、試料番号3）、砂層（層厚1cm）、黒褐色土（層厚22cm、試料番号2）、白色軽石（最大径3mm、試料番号1）混じり黒褐色土（層厚26cm）、灰色砂質土（層厚43cm）、暗灰色作土（層厚7cm）が認められた。

##### (5) 2区南試掘トレンチ

ここでは、暗灰色土（層厚20cm以上）の上位に、下位より黒褐色土（層厚13cm）、灰色軽石（最大径6mm）に富む黒色土（層厚8cm、試料番号1）、暗灰色土（層厚13cm）、黒灰色土（層厚7cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）、暗褐色砂質土（層厚19cm）、盛土（層厚41cm）の連続が認められる。これらのうち黄灰色粗粒火山灰層は、層相から1108年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、新井、1979）に同定される。



### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

上述5地点において採取されたテフラおよび土壌試料7点についてテフラ検出分析を行い、テフラの特徴などから示標テフラとの同定を行った。テフラ検出分析の手順は次の通りである。

1) 試料15gを秤量。2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。3) 80℃で恒温乾燥。4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表14に示す。2区7号墳周溝試料番号1のテフラにはスポンジ状に比較的良好に発泡した淡褐色軽石がとくに多く含まれている。軽石の最大径は3.3mmで斑晶に斜方輝石が含まれている。また試料番号2には最大径3.7mmの白色軽石が多く含まれている。軽石は比較的良好に発泡しており、斑晶に角閃石が認められる。

3区27号墳周溝試料番号1には、最大径2.1mmの白色軽石が多く含まれている。軽石は比較的良好に発泡しており、斑晶には角閃石が認められる。3区23号墳周溝試料番号1には、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石が少量含まれている。軽石の最大径は1.4mmで、斑晶に斜方輝石が認められる。

2区36号溝試料番号1にはスポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径3.0mm）や、スポンジ状に比較的良好に発泡した白色軽石（最大径1.1mm）が比較的多く含まれている。前者の軽石の斑晶には斜方輝石、後者の斑晶には角閃石が認められる。試料番号2にはスポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径8.2mm）が比較的多く含まれている。斑晶には斜方輝石が認められる。試料番号3にはスポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径7.3mm）がとくに多く含まれている。斑晶には斜方輝石が認められる。

2区南試掘トレンチ試料番号2には、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径4.9mm）が多く含まれている。斑晶には斜方輝石が認められる。

### 4. 屈折率測定

#### (1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析を行った試料のうち、特に重要と考えられる2区7号墳試料番号2、3区27号墳試料番号1、3区23号墳試料番号1の3点の試料について、示標テフラとの同定の精度を向上させることを目的として位相差法（新井、1972）により屈折率の測定を行った。

#### (2) 測定結果

屈折率の測定結果を表15に示す。2区7号墳試料番号2の重鉱物には、量の多い順に角閃石、斜方輝石、単斜輝石、磁鉄鉱などが含まれている。火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は1.500-1.503、角閃石の屈折率（ $n_2$ ）は1.672-1.680であった。3区27号墳試料番号1には、量の多い順に角閃石、斜方輝石、単斜輝石、磁鉄鉱などの重鉱物が含まれている。火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は1.501前後、角閃石の屈折率（ $n_2$ ）は1.672-1.680であった。また3区23号墳試料番号1には、量の多い順に斜方輝石、単斜輝石、磁鉄鉱など浅間火山に由来すると思われる重鉱物が含まれている。ほかに角閃石もごく少量認められる。発掘調査の土層観察時の所見では標名火山起源のテフラの可能性が推定されていたが、その可能性は小さいと考えられる。

#### 5. 考察—示標テフラとの同定と遺構の構築年代について

地質調査およびテフラ検出分析を行った結果、3層準にテフラ層またはテフラの降灰層準が認められた。

表14 高崎情報団地遺跡のテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			テフラ
		量	色調	最大径	
2区7号墳周溝	1	++++	淡褐	3.3	As-B
	2	+++	白	3.7	Hr-FA
3区27号墳周溝	1	+++	白	2.1	Hr-FA
3区23号墳周溝	1	+	灰白	1.4	
2区36号溝	1	++	灰白>白	3.0, 1.1	
	2	++	灰白	8.2	
	3	++++	灰白	7.3	As-C
2区南試掘トレンチ	1	+++	灰白	4.9	As-C

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない,  
 -: 認められない。最大径の単位は, mm。

表15 高崎情報団地遺跡の屈折率測定結果

地点	試料	重鉱物	火山ガラス (n)	角閃石 (n2)
2区7号墳	2	ho, opx, cpx, mt	1.500-1.503	1.672-1.680
3区27号墳	1	ho, opx, cpx, mt	1.501±	1.672-1.680
3区23号墳	1	opx, cpx, mt, (ho)	-	-

位相差法による。opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石, mt: 磁鉄鉱。

3層のテフラは、下位よりスポンジ状によく発泡し斑晶に斜方輝石が認められる灰白色軽石に富むテフラ、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に角閃石が認められる白色軽石で特徴づけられるテフラ、そしてスポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石が認められる淡褐色軽石に富むテフラである。

最下位のテフラは、層位や層相さらに軽石の岩相などから4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C、新井、1979)に同定される。中位のテフラは、層位や層相さらに軽石の岩相や屈折率測定結果などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA、新井、1979、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、1992)に同定される。さらに最上位のテフラは、層位や層相さらに軽石の岩相などから、As-Bに同定される。

なお発掘時に榛名火山起源のテフラの可能性が考えられていた3区23号墳試料番号1の黄白色シルト層については、As-Cに含まれている軽石や浅間火山起源の鉱物が含まれている。この試料はテフラとは考えにくい。

以上の示標テフラとの層位関係から、周溝覆土中にHr-FAの降灰層相が認められる2区7号墳周溝と3区27号墳の構築年代は、6世紀初頭を遡ると推定される。3区23号墳については周溝覆土中に示標テフラが認められなかったことから、火山灰編年学的な立場から構築年代を推定することは難しい。2区36号溝の覆土中にはAs-Cが認められたことから、その構築年代は4世紀中葉を遡ると推定される。なお2区南試掘トレンチではAs-CとAs-Bとの間に洪水堆積物に由来する可能性のある色調の明るい土壌が認められた。この土層の起源について今後の調査においても留意しておく必要がある。

## 6. まとめ

高崎情報閉地遺跡において地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行い、示標テフラの層位の把握を行った。そしてそれらとの層位関係から遺構の構築年代に関する資料の収集を試みた。その結果、下位より浅間C軽石(As-C)、榛名二ツ岳浅川テフラ(Hr-FA)、浅間Bテフラ(As-B)の3層のテフラが検出された。これらとの層位関係から、2区7号墳と3区27号墳の構築年代は6世紀初頭を遡ると推定された。また2区36号溝の構築年代は4世紀中葉を遡ると推定された。

## 文献

- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究—、第四紀研究、11、p.254-269。
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層、考古学ジャーナル、no.157、p.41-52。
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス、東京大学出版会、276p。
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須臾器、群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」、p.103-119。
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害、第四紀研究、27、p.297-312。
- 早田 勉(1990)群馬県の自然と風土、群馬県史通史編、1、p.35-129。



## 第2節 高崎情報団地遺跡の種実同定

## 1. 試料と方法

試料は、以下に記載した2点である。

試料1 3号掘立 pit 2出土炭化種実 試料2 3号掘立 pit 3出土炭化種実

いずれも完全に炭化した塊であった。まず、試料塊を割り内部の新鮮な部分を双眼実体顕微鏡（ビノキュラー）で観察した。次に、試料から個体をいくつかとりだし、双眼実体顕微鏡で観察して同定を行った。

## 2. 結果と所見

観察の結果、試料1、2とも、炭化初めの塊であった。塊の剖面でみるとすべて穎がついており、初であることがわかる。枝梗のついたものもみられ、穂刈りの状態であったとみなされる。個体を取り出すとほとんどが穎が剥落し炭化米の状態となる。

以下に同定結果と秤量から算定した個体数を示す。秤量に際しては乾燥すると変化するため、取り出した後ただちに行った。試料塊の状態と個体の写真を示した。

表16 同定結果

分類群（和名/学名）	部位	試料1 (pit2)	試料2 (pit3)
イネ（短粒）	初	17.4 g	165.0 g
<i>Oryza sativa</i> L.		2175個	20625個

コメの形態に関する研究は佐藤（1988）によって行われており、米粒の長さ×幅を計り、粒形（粒長/粒幅）と粒大（粒長×粒幅）を求めることによって形態の考察を行っている。以下の表に佐藤の方法に基づいて、本試料から任意に50粒を計った粒長と粒幅の最大・最小および粒形と粒大をまとめる。

表17 3号掘立出土炭化米（初）の形態

粒長 (mm)			粒幅 (mm)			粒形	粒大
最大	最小	平均	最大	最小	平均	平均	平均
5.3	4.6	4.9	3.4	2.7	3.0	1.63	14.7

以上の数値から、本遺跡出土の炭化米は、粒形は短粒（S）の中（Sm）にあたり、粒大は小（S）にあたる。佐藤の統計では弥生期には短粒（S）の中（Sm）で極小（Vs）のものも多く、古墳期以降では短粒（S）の中（Sm）で小（S）のものが多し。本遺跡の炭化米（初）は古墳期以降の形態としては最も多い形態のものである。

## 参考文献

佐藤敏也（1988）食用植物—弥生のイネ、弥生文化の研究 第2巻 生業、雄山閣出版

高崎情報団地遺跡の種実遺体 I (3号掘立Pit-2)



1 イネ 炭化胚乳 (米)



2 イネ 炭化胚乳 (米)



3 イネ 炭化胚乳 (米)

3mm



4 イネ 炭化胚乳 (米)



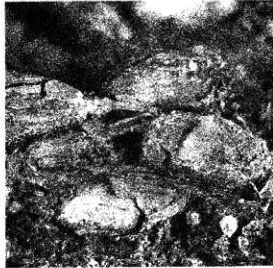
5 イネ 炭化胚乳 (米)



6 イネ 炭化胚乳 (米)



7 イネ 炭化粉 塊



8 イネ 炭化粉 塊

5mm

高崎情報団地遺跡の種実遺体Ⅱ (3号掘立Pit-3)



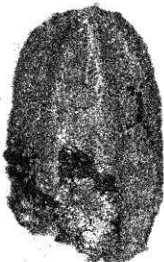
1 イネ 炭化胚乳 (米)



2 イネ 炭化胚乳 (米)



3 イネ 炭化胚乳 (米)



4 イネ 炭化胚乳 (米)



5 イネ 炭化胚乳 (米)



6 イネ 炭化胚乳 (米)



7 イネ 炭化胚乳 (米)



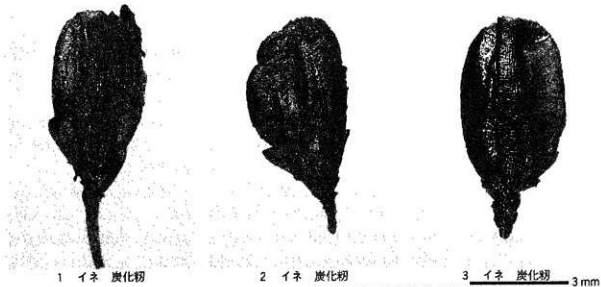
8 イネ 炭化胚乳 (米)



9 イネ 炭化胚乳 (米)

3mm

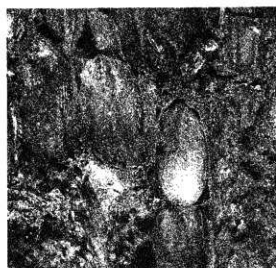
高崎情報団地遺跡の種実遺体Ⅲ（3号掘立 Pit-3）



4 イネ 炭化籽 塊



5 イネ 炭化籽 塊



6 イネ 炭化籽 塊



7 イネ 炭化籽 塊 5mm

## 第6章 まとめ

## 第1節 古墳時代前期の遺構と遺物

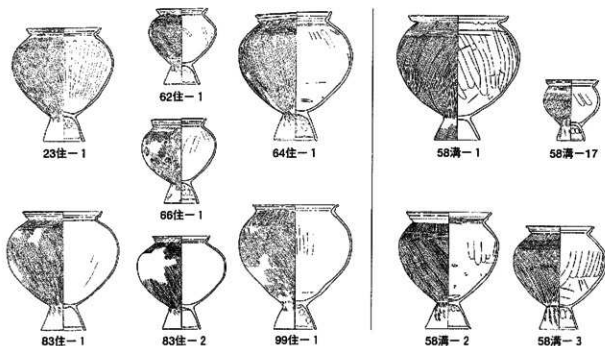
今回の調査で古墳時代前期と判断した遺構は、住居跡60約軒・掘立柱建物跡13棟・土坑8基・溝9条にのぼる。住居跡は北側水田跡を取り巻くように環状に分布し、掘立柱建物跡も同様の分布をみせている。単純に計算すれば住居跡5軒前後に1棟の割合で掘立柱建物跡が存在することになる。

住居跡は全容が把握できるものを表18にまとめた。床面積は45号住居跡の55.5㎡が最大で、最小は21号住居跡の10.3㎡、平均値は28.0㎡である。主柱穴は4本で、炉跡は中央北寄りに、貯蔵穴は南壁際に位置するものが多い。掘り方は縁辺部を幅広く「回」字状に掘り込んでいるものが最も多かった。

これら住居跡の大半には灰白色～白色軽石粒を含んだ黒褐色上～暗褐色上が埋没する。この軽石粒は自然科学分析を行っていないため即断はできないが、浅間C軽石である可能性が高い。また、9区・10区の住居跡にはこの軽石粒を含んだ土層中に遺構を掘り込むものがみられた。45号住居跡のように掘り方後の床面構築に灰白色軽石粒を含んだ黒褐色上を充填するものも認められる。以上のことから本遺跡における当該期集落は浅間C軽石降下後に形成されたものと推測され、軽石降下の年代観・井野川流域におけるS字状口縁台付甕の年代観<sup>1)</sup>から4世紀中葉～後半代を集落形成時期と考えておきたい。

36号・58号溝は灌漑用水路と判断したものであるが、溝内に堆積した浅間C軽石との関係から前述の集落形成以前(4世紀中葉以前)に構築されたものと考えられる。同溝には浅間C軽石降下後に大量の遺物が放棄されているが、このような放棄行為がどのような目的でなされたのか判然としない。

出土遺物の内、S字状口縁台付甕はおおむね赤塚編年<sup>2)</sup>のB類段階に相当する。S字状口縁台付甕の大半には胎土に結晶片岩の含有<sup>3)</sup>が認められている。このほか、76号住居跡から口縁端部に刻み目のある単口縁の台付甕と蓋、64号住居跡出土の玉砥石、85号住居跡出土の管玉、58号溝出土の片口などの遺物もある。



第367図 住居跡・溝出土のS字状口縁台付甕 (S=1/8)

表18 古墳時代前期住居跡一覧

遺構番号	平面形態	長軸方位	規模 (m)	面積	材跡	貯蔵穴	土柱穴	壁周溝	掘り方	備考	掲載頁
1号住	隅丸長方形	N-83°-E	7.08×6.15	43.6㎡	-	-	4	ほぼ全周	凹字状		35
4号住	長方形	N-83°-W	5.55×4.95	26.9㎡	-	-	4	一部確認	-		35
8号住	隅丸長方形	N-23°-W	5.45×4.95	25.8㎡	中央北	南壁際	4	ほぼ全周	全体	火災住居	36
17号住	方形	N-10°-E	4.30×4.05	17.1㎡	-	-	4	-	凹字状		38
21号住	隅丸長方形	N-20°-W	3.40×3.20	10.3㎡	-	-	-	-	-		38
23号住	長方形	N-8°-E	6.15×5.50	32.2㎡	-	南壁際	4	全周	凹字状		39
45号住	隅丸長方形	N-15°-W	8.20×6.95	55.5㎡	中央北	南東隅	(4)	(1)(2)全周	凹字状		41
51号住	隅丸長方形	N-9°-W	7.90×6.32	47.6㎡	-	南壁際	4	北側なし	凹字状	火災住居か	41
53号住	台形状	N-8°-W	5.80×4.20	23.0㎡	-	-	-	-	-		42
54号住	隅丸長方形	N-22°-W	4.65×3.50	15.9㎡	-	-	-	(1)(2)全周	南縁辺		42
55号住	方形	N-21°-W	3.30×4.95	25.3㎡	北側	-	4	(1)(2)全周	凹字状		42
58号住	隅丸長方形	N-3°-E	6.45×5.20	32.0㎡	北側	南東隅	4	全周	凹字状		42
61号住	隅丸長方形	N-5°-W	4.65×3.90	17.3㎡	-	-	-	一部確認	-		43
62号住	隅丸長方形	N-57°-E	5.90×5.65	31.2㎡	-	西隅	4	-	(掘)		44
63号住	隅丸長方形	N-48°-W	3.77×5.25	29.5㎡	-	-	4	全周	凹字状		44
64号住	隅丸長方形	N-11°-E	6.70×6.65	42.2㎡	中央北	-	4	全周	凹字状	瓦磁石出土	44
65号住	隅丸長方形	N-7°-W	6.90×6.75	45.9㎡	中央北	北西側	4	ほぼ全周	凹字状		45
66号住	隅丸長方形	N-22°-W	5.90×3.45	30.3㎡	北側	南壁際	4	全周	凹字状	掘り切り溝	45
67号住	隅丸長方形	N-80°-E	5.95×4.85	28.0㎡	中央北	南壁際	4	全周	-	火災住居か	45
68号住	不整長方形	N-3°-E	5.50×4.75	24.9㎡	中央北	南東隅	4	-	-	北東部を除く範囲	46
69号住	隅丸長方形	N-27°-E	5.30×4.85	24.7㎡	-	南西隅	4	部分確認	凹字状	火災住居	46
75号住	隅丸長方形	N-43°-E	5.55×5.05	26.2㎡	-	南隅	4	一部確認	全体	掘り切り溝	47
76号住	隅丸長方形	N-30°-E	5.85×4.95	27.1㎡	中央北	南壁際	4	-	凹字状		47
78号住	隅丸長方形	N-2°-E	6.65×5.65	35.9㎡	中央北	南壁際	4	-	凹字状		48
79号住	長方形	N-23°-E	6.25×4.70	28.3㎡	-	南壁際	4	-	凹字状		48
82号住	隅丸長方形	N-13°-E	5.93×5.30	30.3㎡	中央北	-	4	ほぼ全周	凹字状	礎は、新旧2	49
83号住	長方形	N-71°-E	5.35×4.45	23.0㎡	中央東	-	4	全周	L字状		49
84号住	不整形	N-8°-E	5.00×4.63	22.3㎡	-	南東隅	4	ほぼ全周	凹字状		49
87号住	方形	N-15°-W	5.85×5.60	31.9㎡	-	-	4	(1)(2)全周	凹字状		50
99号住	方形	N-35°-E	3.50×3.05	10.5㎡	-	南隅	-	-	凸字状		51
106号住	方形	N-71°-E	4.55×4.30	19.2㎡	-	-	-	-	-		52
125号住	隅丸長方形	N-49°-E	4.90×4.85	22.5㎡	-	北隅	-	-	凹字状		52
130号住	方形	N-6°-W	5.40×5.25	27.7㎡	-	-	-	-	-		52
140号住	方形	N-5°-E	4.50×4.10	18.2㎡	-	-	-	-	凹字状		53

表19 調査古墳一覧

※FA堆積は、周溝埋没土中の有無。時期は、おおよその目安。

遺構番号	墳形	規模	円筒埴輪			形象埴輪等	その他の遺構	FA堆積	時期	備考	掲載頁
			朝顔	まこと	アサギ						
1号墳	円墳	10.5m			○			不明	周溝腐か	148	
2号墳	円墳	13.3m	○	○	○	男子人物(冠)	土師器埴	○	5C後	埴輪赤彩比率高い	149
3号墳	円墳	14.8m	○		○		須恵器	○	5C後		152
4号墳	円墳	12.8m		○	○		土師器壺	○	5C後	埴輪赤彩比率高い	155
5号墳	円墳	12.8m	○		○		土師器環	○	5C末～6C初	土師器埴7点集中	160
6号墳	円墳	16.9m	○		○	家	土師器、須恵器	○	5C末～6C初		168
7号墳	円墳	不明	○		○		土師器、埴輪車	○	5C後～末		169
8号墳	帆立貝	32.9m	○		○	馬、家	土師器、須恵器	○	5C末～6C初	北側に方形部	174
9号墳	円墳	(9m)	○		○		須恵器		5C末頃		180
10号墳	円墳	10.8m			○			○	5C末頃		181
11号墳	円墳	13.9m			○		土師器、須恵器		6C前頃		182
12号墳	円墳	11.4m	○		○	形象埴輪片	土師器環、高環	○	5C末頃		184
13号墳	帆立貝	40.0m	○	○	○	竈、鳥付円筒	土馬、木鳥小像	○	5C後	南側に方形部	189
14号墳	円墳	16.0m	○	○	○	馬			5C後頃		211
15号墳	円墳	13.0m	○		○		土師器、須恵器	○	5C後	二重周溝	213
16号墳	帆立貝	44.9m	○	○	○	竈、樹形、他	土馬、須恵器	○	5C後～末	西南西に方形部	215
17号墳	円墳	12.2m			○		土師器環		5C末～6C初		235
18号墳	円墳	不明	○		○	人物(力士)	土師器		6C中葉		236
19号墳	円墳	10.4m		○	○		土師器		5C末～6C初	埴輪片	240
20号墳	円墳	18.1m			○	形象埴輪片	土師器、須恵器	○	5C後		242
21号墳	帆立貝	不明	○	○	○	馬、竈、人付円筒	土師器、須恵器	○	5C末頃	東側に方形部か	248
22号墳	円墳	13.5m	○		○	馬	土師器壺	○	5C後～末		262
23号墳	円墳	21.4m	○		○	人物、馬、家	須恵器高環		6C中葉		264
24号墳	円墳	18.0m	○	○	○		土師器、須恵器	○	5C後		274
25号墳	円墳	7.8m			○		土師器環		5C末頃		277
26号墳	円墳	6.4m					土師器	○	5C末頃	埴輪なし	277
27号墳	円墳	9.2m						○	5C末頃	遺物なし	278
28号墳	円墳	12.0m	○		○	人物、他			6C中葉		279
29号墳	円墳	4.6m							不明	遺物なし	281
30号墳	円墳	23.7m					土師器、須恵器		7C代		281
31号墳	円墳	23.1m					須恵器		7C代		281
32号墳	円墳	(27m)					土師器、須恵器		7C代	須恵器壺に埴輪片	285
33号墳	円墳	(35m)					土師器、須恵器		7C代		286

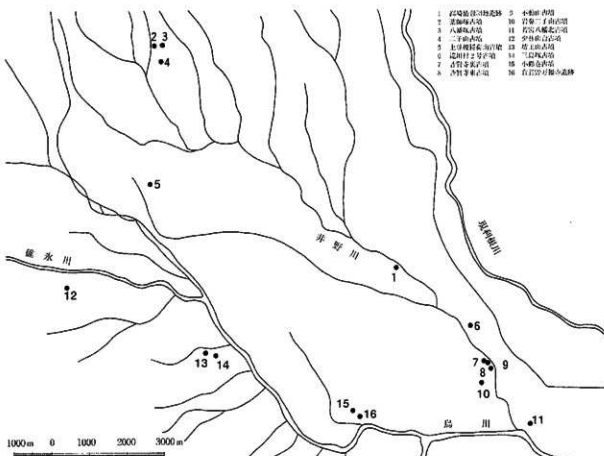
## 第2節 古墳と出土遺物

## (1) 高崎情報団地遺跡の古墳群と井野川流域の古墳

高崎情報団地遺跡の古墳群は40m規模の帆立貝形古墳4基を中核とし、5世紀後半～6世紀初頭頃（陶器編年TK208～TK47段階）にかけて形成された<sup>11</sup>「初期群集墳」である。表19に調査古墳一覧を示した。出土遺物などの状況から、4号古墳が最も早く造られたと推測される。帆立貝形古墳は、まず13号古墳が造られた後に16号・21号古墳、続いて8号古墳が構築されたものと思われる。

高崎市内で初期群集墳は平地部に多い傾向が指摘されている<sup>12</sup>が、岩野谷丘陵に位置する少林山台遺跡<sup>13</sup>でも確認されており、平地部・丘陵地での状況が明らかになりつつある。井野川流域の5世紀後半～6世紀前半代の前方後円墳は、上流域に群馬町保波田三古墳（薬師塚古墳・八幡塚古墳・二子山古墳）<sup>14</sup>、下流域に滝川村2号墳<sup>15</sup>・善賢寺裏古墳<sup>16</sup>・不動山古墳<sup>17</sup>・岩鼻二子山古墳<sup>18</sup>があるが、中流域には当該期の首長墓系列の古墳はほとんどみられない状態にある。

井野川下流域の鳥川合流点付近には全長46.3mの帆立貝形古墳である若宮八幡北古墳<sup>19</sup>があり、周囲には同古墳を中核とした古墳群が形成されている。帆立貝形古墳を中核としている点で、本遺跡古墳群と類似性が認められるが、本遺跡の方が時期的にはやや先行するようである。なお、若宮八幡北古墳は南側の方形部を有する帆立貝形古墳は、三重県・神前山1号古墳など数例が知られており、二つの方形部は機能の差異によるものと考えられている<sup>19</sup>。



第368図 井野川流域の5世紀後半～6世紀初頭の主要古墳分布図



## (2) 円筒埴輪・形象埴輪・埴輪棺

本遺跡出土の円筒埴輪はほとんど例外なく凸帯2条3段構成のものであるが、各古墳ごとについての特微が認められ、表20にその概要をまとめた。また、おもな円筒埴輪を第370・371図に示した。

5号古墳(5I a・5I b類)・8号古墳(8I b類)・12号古墳(12I b類)・18号古墳・19号古墳(19I類)・23号古墳・28号古墳出土の円筒埴輪には胎土に結晶片岩の含有が認められた。これらは、藤岡地域(本郡埴輪窯・猿田埴輪窯)で生産され河川水運等で搬入されてきたものと判断される<sup>36)</sup>。なお、各古墳出土円筒埴輪のハケ目は第390～402図に集成した。

## 小穿孔のある円筒埴輪

2号古墳・3号古墳では第3段下縁に三角形透し孔1を、8号古墳・16号古墳では同じく第3段下縁に小円形孔を穿つものがある。同様の穿孔例は県内及び埼玉県・長野県などでも散見されており、その性格については①円筒埴輪をさらに仮器化する祭祀的色彩②初期円筒埴輪の透孔配列の流れ③ヘラ記号と同様の性格④門縁部装飾、などの可能性が指摘されている<sup>37)</sup>。

## 小像付き円筒埴輪

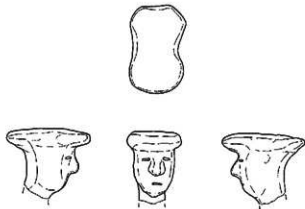
13号古墳からは第3段に鳥が付けられた円筒埴輪(13I a類)が、21号古墳からは円唇部に男子人物が付けられた円筒埴輪(21I b類)が出土している。また、13号古墳では円筒埴輪に取り付けられていたと思われる水鳥、21号古墳では女子人物小像がみられる。13号古墳の13I a類・同b類や21号古墳の円筒埴輪にはこのほかに小像が剥離した痕跡が認められ、両古墳には複数の小像付き円筒埴輪が存在していたものと想定される。

こうした主要小像は須藤宏氏が集成しており<sup>38)</sup>、群馬県内では、赤堀茶臼山古墳(鳥・人?/赤堀町)・上繩引4号墳(四足動物/前橋市)・舞台1号墳(人・鳥/猪/前橋市)・後二子古墳(犬・猿/前橋市)・井出二子山古墳(短甲着用武人/群馬町)・白石稲荷山古墳(猪?/藤岡市)・坊主山古墳(女子人物/高崎市)・若宮八幡北古墳(人/高崎市)・綿貫観音山古墳(人/高崎市)などの古墳にみられる。主要小像は装飾須臾器にも同様の意匠が認められ<sup>39)</sup>、須藤氏がその関連性等について論じている<sup>40)</sup>。

上記の上装小像の内、確実に円筒埴輪と接合した例は上繩引4号墳・後二子古墳など数例があるが、本遺跡例が現在までのところ時期的に最も先行するようである。坊主山古墳の女子人物(第369図、P L 230)<sup>41)</sup>を参考資料として示した。鳥田罫の長さ4.7cm・顔幅2.1cmと本遺跡21号古墳例よりも大振りである。鳥田罫は板状で、目・口はヘラ先状工具による刺突で表現され、鼻は高く大きい。色調は浅黄橙(10YR8/3)で、胎土には長石・角閃石を含む。

## 土馬

13号古墳及び16号古墳から馬形土製品(土馬)が出土している。関東地方以北における古墳時代の上馬は、これまで福島県・天王墳古墳<sup>42)</sup>、長野県・大室古墳群168号墳<sup>43)</sup>、埼玉県・西宮田新田遺跡・生出塚埴輪遺跡<sup>44)</sup>・洞山遺跡<sup>45)</sup>など数例が知られているにすぎない。天王墳古墳からは上馬2点が方形部付近から

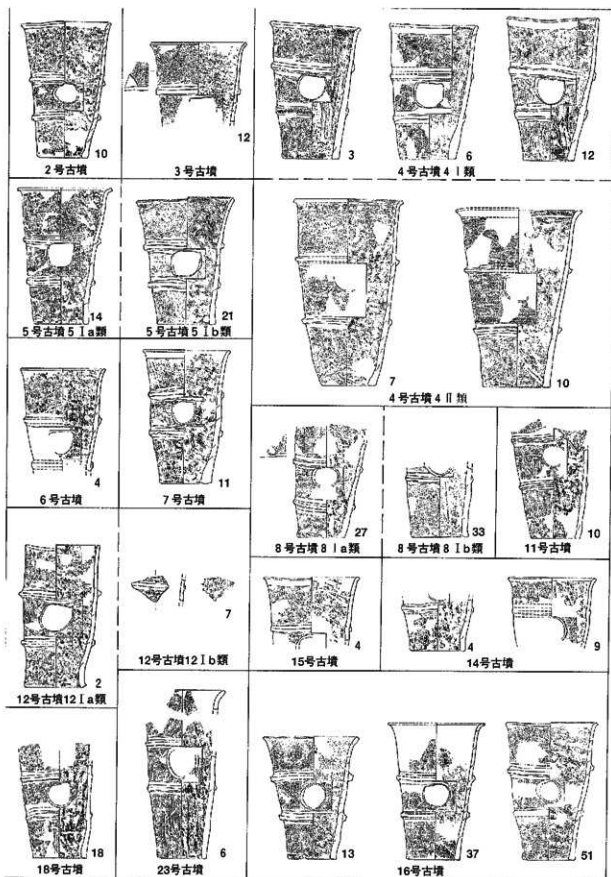


第369図 坊主山古墳・女子人物像小像(S=1/2)

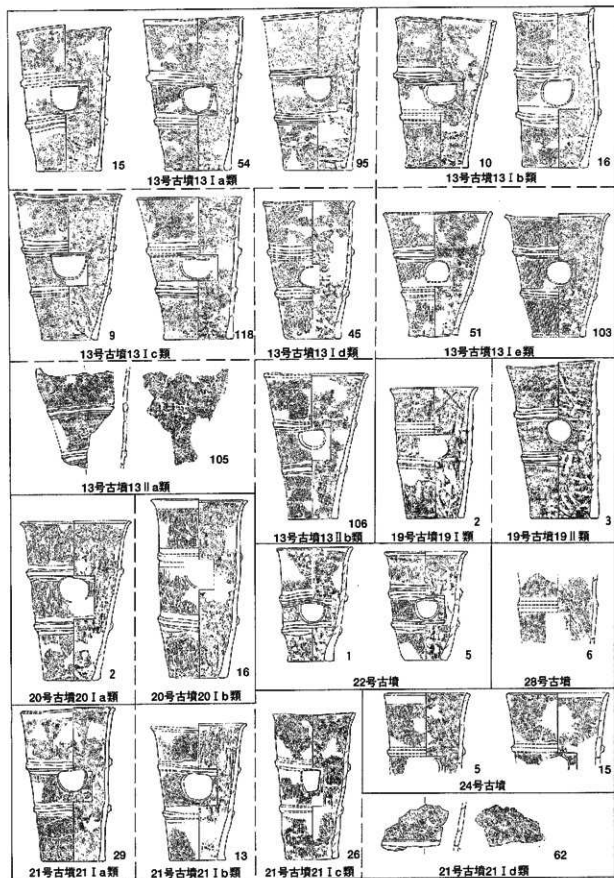
表20 各古墳出土円筒埴輪の特徴

遺物番号	分類	特征	備付
2号古墳		器高35.5cm前後。一次縦ハケ整形のみが大平。凸帯台形状。透孔は円・半円・楕円形がある。第3段下端に三角形透孔1を穿つものあり。赤彩比率高い(73%)。ヘラ記号は条線、他。	
3号古墳		一次縦・斜めハケ。透孔は半円形。第3段下端に三角形透孔1を穿つものあり。ヘラ記号「×」「○」。	
4号古墳	4I	器高31.8~37.4cm。一次縦ハケ。凸帯狭く幅広い台形~M字状。胎土に砂塵を含む。ヘラ記号「八」。	
	4II	器高46.8~48.3cm。第2・3段に二次B種横ハケ。凸帯台形。胎土に砂塵を含む。	
5号古墳	5I a	器高33.2~37.5cm。一次縦ハケ。色調は明赤褐~橙色。口縁端部は外折。内面に条線ヘラ記号。	○
	5I b	器高33.2~35.9cm。一次縦ハケ。色調は明赤褐~橙色。口縁端部は外折しない。内面に条線ヘラ記号。	○
6号古墳		一次縦ハケ。凸帯弱いM字状。透孔は半円形。赤彩は施されない。ヘラ記号「<」。	
7号古墳		器高33.1~34.9cm。一次縦ハケのみでハケ目太い。凸帯台形。透孔は半円形。赤彩・ヘラ記号なし。	
8号古墳	8I a	第1段高8.2~10cm前後。一次縦ハケ。凸帯M字状~台形。第3段下端に小円形孔を穿つものあり。	
	8I b	第1段高15.2cmで8I a類よりも長い。一次縦ハケ。凸帯三角形。	○
11号古墳		一次縦ハケ。凸帯は三角形。透孔は半円形が主体。胎土に砂塵を含む。ヘラ記号は内面に条線。	
12号古墳	12I a	器高37.6cm前後。一次縦ハケ。凸帯は台形・弱いM字状。透孔は半円形。ヘラ記号は弧状の条線。	
	12I b	凸帯は三角形。ナデ整形。小破片のため詳細不明。	○
13号古墳	13I a	器高37.4~42.1cm。一次縦ハケ。口縁端部外折する。ヘラ記号「▽」。小像(鳥)の付くものあり。	
	13I b	器高38.6~42.1cm。一次縦ハケ。口縁端部外折しない。ヘラ記号「▽」。小像(鳥)の付くものあり。	
	13I c	器高37.5~38.0cm。一次縦ハケ。底径：口径比大きく口縁部に向かって因く。還元焼成。	
	13I d	器高36.2cm。一次縦ハケ。外面のハケ目やや太い。ヘラ記号は内面に条線。還元焼成。	
	13I e	器高32.0~32.2cm。一次縦ハケ。外面のハケ目やや太い。底径：口径比は1:2。還元焼成あり。	
	13II a	第2・3段に二次B種横ハケ。小破片のため詳細不明。	
13II b	器高38.7cm。第3段にのみ二次B種横ハケ。		
14号古墳		一次縦ハケ整形のみが大平。凸帯はM字状~台形で、三角形のものもある。	
15号古墳		一次縦ハケ。斜めハケあり。凸帯はM字状~台形。透孔は円形。赤彩・ヘラ記号なし。	
16号古墳		一次縦ハケ整形のみが大平。斜めハケ・二次B種横ハケがわずかに存在。凸帯はM字状~台形。透孔は円形を基調。ヘラ記号は内面に条線を施すものが多い。異質な円筒埴輪あり(本文参照)。	
18号古墳		一次縦ハケ。凸帯三角形。透孔円形。ヘラ記号「△」「×」等。	○
19号古墳	19I	器高34.7cm。一次縦ハケ後丁寧なナデ。凸帯三角形。透孔は円形。内面第3段にヘラ記号「×」。	○
	19II	器高41.6cm。部分的に二次横ハケまたは横位のナデ。凸帯M字状。透孔は円形。埴輪帽。	
20号古墳	20I a	器高42.1~44.8cm。一次縦ハケ。底径：口径比が1:1.9~2.1。胎土に白色針状粒を含むものあり。	
	20I b	器高46.7cm。一次縦ハケ。底径：口径比が1:1.6で筒形状。胎土に白色針状粒を含む。	
21号古墳	21I a	器高37.0~40.2cm。一次縦ハケ目12~20本/2cm。透孔は半円形を基調。	
	21I b	器高36.2cm。一次縦ハケ目7~10本/2cm。透孔は円形・楕円形。ヘラ記号「×」。小像の付くものあり。	
	21I c	器高36.7~39.0cm。一次縦ハケ目4~7本/2cm。透孔は長方形・逆台形・半円形。ヘラ記号は条線。	
	21I d	22~24本/2cmと細い斜めハケ。外面第3段に鐘形状のヘラ記号。	
22号古墳		器高28.2~29.8cm。一次縦ハケ。凸帯台形。透孔は半円形。	
23号古墳		平均値は第1段16.1cm・第2段10.9cm・第3段9.4cm。凸帯三角形。透孔は円形を基調。	○
24号古墳		一次縦ハケ整形のみが大平で一部に二次横ハケあり。凸帯台形~M字状。透孔は半円形を基調。	
28号古墳		一次縦ハケ。凸帯三角形。	○

※破片は胎土中の結晶片岩の有無。1号・9号・10号・17号・25号古墳出土の円筒埴輪は小破片のみのため省略した。



第370図 各古墳出土の円筒埴輪① (S=1/10)



第371図 各古墳出土の円筒埴輪② (S=1/10)

出土しており、本遺跡と類似した出土状態にある。天王塚古墳例は2点とも4脚が残存しており円筒埴輪等に付随するものとは考えられない。本遺跡例は、いずれも脚部を欠損しており、円筒埴輪に取り付けられていた可能性を否定できないが、他の小像と比べると重量があり、天王塚古墳例のように土馬として単独で製作されたものと推測される。また、13号古墳・16号古墳・天王塚古墳とも形象埴輪の中に馬形埴輪がみられないことから、土馬が馬形埴輪の代用であったことも可能性の一つとして考えておきたい。

ヘラ記号(表21・22、第372～389図)

ヘラ記号は各古墳出土円筒埴輪総計で149点を確認している。4号古墳4I類に「A」、5号古墳に条線、13号古墳13I a・13I b類に「V」、16号古墳に条線など、各古墳・円筒埴輪各類型ごとに特徴的なヘラ記号が施されている傾向がうかがえる。

#### 形象埴輪

人物・馬・鶏・家・構形埴輪などが、2号・6号・8号・12号・13号・14号・16号・18号・20号・21号・22号・23号・28号古墳にみられる。(表19)。

2号古墳の人物埴輪(男子冠部分)はTK208段階のものと考えられ、人物埴輪としては県内最古期に属するものとみられる。8号・14号・21号・22号古墳の馬形埴輪<sup>26)</sup>はいずれも破片であるが、これらも馬形埴輪の初現期に属するものである。また、18号古墳の31・32は力士の脚部分と判断したものであるが、これは古葉が剥落した馬形埴輪の脚部分の可能性もある<sup>27)</sup>。

16号古墳88・127は、凸帯のある三角形の破片で東京都・野毛大塚古墳等に類似のあることから<sup>28)</sup>、構形埴輪と判断したものである。野毛大塚古墳の構形埴輪は円筒部の上に構を歯状に巡らせるものである。本遺跡例は三角形の1辺が4.1cm及び3.3cmで野毛大塚例よりもかなり小振りである。

このほか、中世の井戸と考えられる遺構から構形埴輪(第4節5)が出土している。胎土に結晶片岩を含んでおり、羅南地域で生産されたものとみられる。周囲に古墳がない区域からの出土であるが、本遺跡北側に隣接する方相寺遺跡<sup>29)</sup>1号古墳からは形象埴輪が出土しており、同古墳に関連する可能性もある。

表21 ヘラ記号一覧①

遺構番号	遺物No	ヘラ記号	部位	遺構番号	遺物No	ヘラ記号	部位	遺構番号	遺物No	ヘラ記号	部位		
1号古墳	1	条線2以上	内3段	4号古墳	11	(A)	外3段	8号古墳	1	条線5以上	外2段		
	2号古墳	5	交差条線		内3段	12	Λ		外3段	9	○	外2段	
		6			外3段	15	条線3以上		内3段	17		外3段	
		7	交差条線	内3段	5号古墳	5	条線4		内3段	39	弧状、○か	外3段	
		14		内3段		13	条線4	内3段	10号古墳	3	条線2以上	内3段	
		18	横線1	外面		14	条線1	内3段		11号古墳	6	条線2以上	内3段
		19	交差条線	内面		15	条線5	内3段			10	条線2以上	内3段
		20	左上り斜線+	外3段		20	条線3以上	内3段			11	条線1以上	内3段
		3号古墳	6	X		外面	21	条線5	内3段	12号古墳	2	弧状条線3	内3段
13	○		外3段	22		条線5	内3段	8	十字+斜線		外面		
18	○		外3段	23		条線5	内3段	13号古墳	15		V	外3段	
4号古墳	3	Λ	外3段	25	条線3以上	内3段	16		V	外3段			
	6	Λ	外3段	29	条線5	内3段	23		V	外3段			
	8	Λ	外3段	6号古墳	4	<	外3段		28	V	外3段		

表21 ヘラ記号一覧②

遺構番号	遺物No.	ヘラ記号	部位	遺構番号	遺物No.	ヘラ記号	部位	遺構番号	遺物	ヘラ記号	部位	
13号古墳	30	∨	外3段	16号古墳	37	弧状条線3	外3段	19号古墳	1	×	内3段	
	31	∨	外3段		40	条線10	内3段		2	×	内3段	
	36	∨	外3段		41	条線5以上	内3段		21号古墳	18	条線2以上	内3段
	37	∨	外3段		43	交差線	外2段			19	条線3以上	内3段
	41	∨	外3段		46	左上り線	内3段		26	縦条線3	内2-3	
	42	条線	内3段		48	条線4以上	内3段		28	条線3以上	内3段	
	43	∨	外3段		49	細線	外3段		34	条線7以上	内3段	
	45	条線4	内3段		51	条線3	内3段		40	条線3以上	内3段	
	48	∨	外3段		52	条線3以上	内3段		50	条線4以上	内3段	
	51	条線3	内2-3		54		外2段		52	条線4以上	内3段	
	53	条線3	内3段		57	条線3以上	内3段		55	条線3以上	内3段	
	54	∨	外3段		60	条線3以上	内3段		56	条線3以上	内3段	
	63	∨	外3段		69	条線2以上	外3段		57	×	外2段	
	70	∨	外3段		70	条線2以上	内3段		60	条線1以上	内3段	
	73	(∨)	外3段		75	条線2以上	外3段		61	条線4以上	内3段	
	74	∨	外3段		82	条線2以上	内3段		62		外3段	
	79	∨	外3段		86	条線2以上	内3段		22号古墳	1	∨	内3段
	81	∨	外3段		87	条線1以上	内3段			23号古墳	4	右上り線1
88	∨	外3段	89	条線5以上	内3段	7	弧状線1	外面				
94	∨	外3段	92	条線5	内3段	11	右上り線1	外2段				
130	条線3	内2-3	93	条線1以上	内3段	12	右上り線1	外3段				
118	∨か	外3段	94	条線1以上	内3段	14	右上り線1	外2段				
14号古墳	5	交差線	内3段	96	条線1以上	内3段	18	右上り線1	外3段			
16号古墳	2		外4段	98	条線2以上	内3段	22	条線2以上	外3段			
	8	条線4	外4段	100	条線1以上	内3段	25	右上り線1	外2段			
	11	条線2以上	内3段	101	条線7以上	内3段	26	弧状+斜線	外3段			
	13	条線7	内3段	102	条線2以上	内3段	28	弧状+斜線	外3段			
	14	条線2以上	内3段	103	条線4以上	内3段	24号古墳	4	条線5	外3段		
	15	弧状条線3	外3段	106	条線3以上	外3段		6	太い条線3	内3段		
	17	条線6以上	内3段	112	条線2以上	内3段		14	弧状線3	外面		
	19	条線4以上	内3段	18号古墳	2	△		外3段	15	左上り線1	内3段	
	20	左上り線1	内3段		4	左上り線1		外3段	18	条線2以上	外面	
	22	弧状条線3	外3段		6	×		内3段	19	条線2以上	外面	
	23	条線3以上	内3段		9	×	外3段	25	×	内3段		
	27	条線6	内3段		17	条線2	外3段	28号古墳	3	右上り線1	外面	
	32	条線1以上	内3段		22	×	内3段					



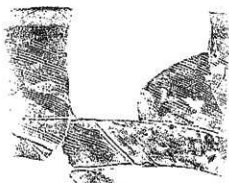
1号古墳-1 (3段内)



2号古墳-5 (3段内)



2号古墳-6 (3段外)



2号古墳-7 (3段内)



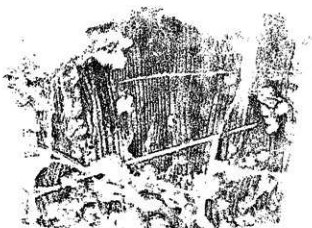
2号古墳-14 (3段内)



2号古墳-18 (外)



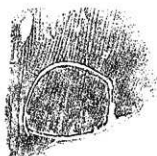
2号古墳-19 (内)



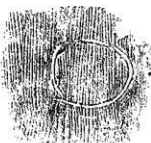
2号古墳-20 (3段外)



3号古墳-6 (外)

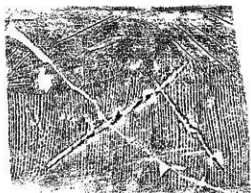


3号古墳-13 (3段外)

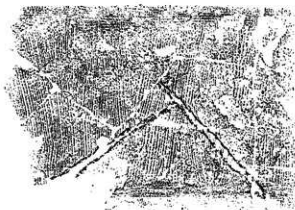


3号古墳-18 (3段外)

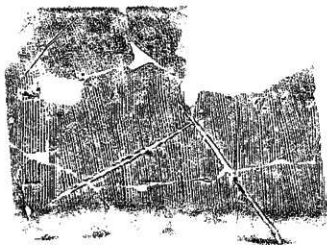
第372図 ヘラ記号集成① (S=1/2)



4号古墳-3 (3段外)



4号古墳-6 (3段外)



4号古墳-8 (3段外)



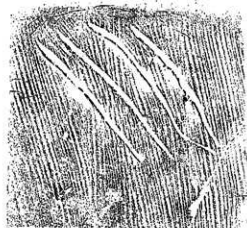
4号古墳-11 (3段外)



4号古墳-16 (3段内)



4号古墳-12 (3段外)



5号古墳-3 (3段内)

第373図 ヘラ記号集成② (S=1/2)





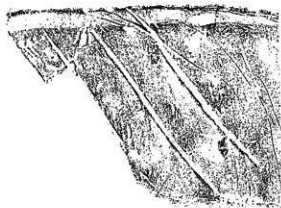
5号古墳-13 (3段内)



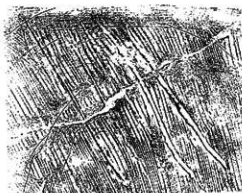
5号古墳-14 (3段内)



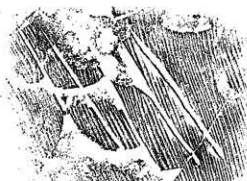
5号古墳-15 (3段内)



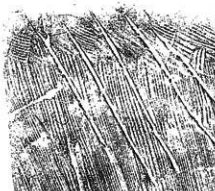
5号古墳-20 (3段内)



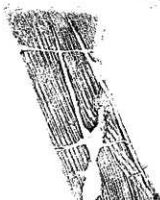
5号古墳-21 (3段内)



5号古墳-22 (3段内)



5号古墳-23 (3段内)

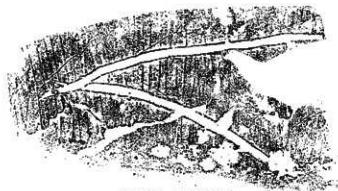


5号古墳-25 (3段内)



5号古墳-29 (3段内)

第374図 ヘラ記号集成③ (S=1/2)



6号古墳-4 (3段外)



8号古墳-1 (2段外)



8号古墳-9 (2段外)



8号古墳-17 (3段外)



10号古墳-3 (3段内)



8号古墳-39 (3段外)



11号古墳-6 (3段内)



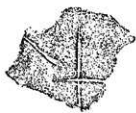
11号古墳-10 (3段内)



11号古墳-11 (3段内)



12号古墳-2 (3段内)

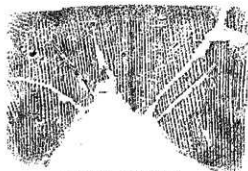


12号古墳-8 (外)



13号古墳-15 (3段外)

第375図 ヘラ記号集成① (S=1/2)



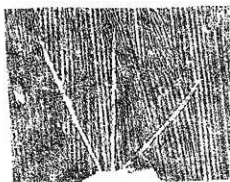
13号古墳-16 (3段外)



13号古墳-23 (3段外)



13号古墳-28 (3段外)



13号古墳-30 (3段外)



13号古墳-31 (3段外)



13号古墳-36 (3段外)



13号古墳-37 (3段外)



13号古墳-41 (3段外)



13号古墳-43 (3段外)

第376図 ヘラ記号集成① (S=1/2)



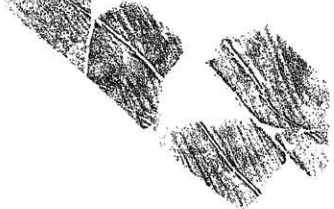
13号古墳-42 (3段内)



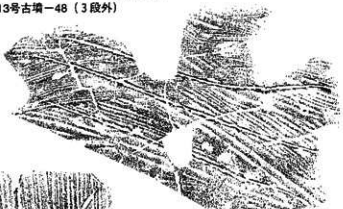
13号古墳-45 (3段内)



13号古墳-48 (3段外)



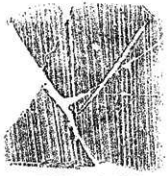
13号古墳-5 (2.3段内)



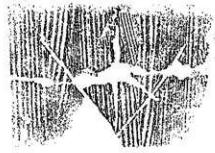
13号古墳-53 (3段内)



13号古墳-54 (3段外)

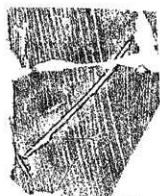


13号古墳-63 (3段外)



13号古墳-70 (3段外)

第377図 ヘラ記号集成⑩ (S=1/2)



13号古墳-73 (3段外)



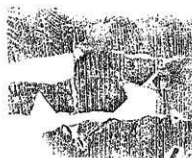
13号古墳-74 (3段外)



13号古墳-79 (3段外)



13号古墳-81 (3段外)



13号古墳-88 (3段外)



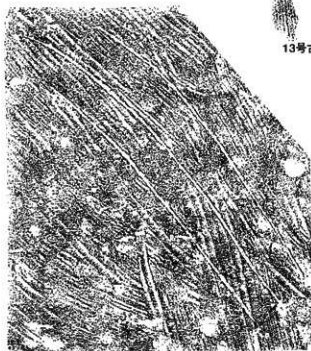
13号古墳-94 (3段外)



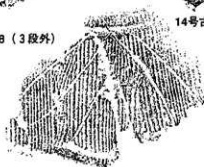
13号古墳-118 (3段外)



14号古墳-5 (3段内)



13号古墳-103 (2,3段内)



16号古墳-2 (4段外)



16号古墳-8 (4段外)

第378図 ヘラ記号集成⑦ (S=1/2)



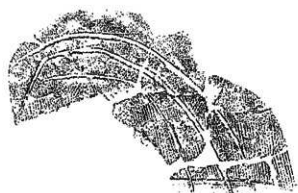
16号古墳-11 (3段内)



16号古墳-13 (3段内)



16号古墳-14 (3段内)



16号古墳-15 (3段外)

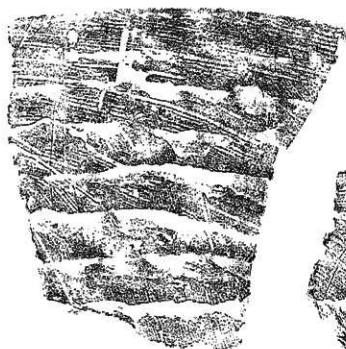


16号古墳-19 (3段内)

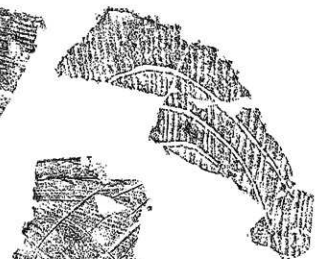


16号古墳-17 (3段内)

第379図 ヘラ記号集成⑧ (S=1/2)



16号古墳-20 (3段内)



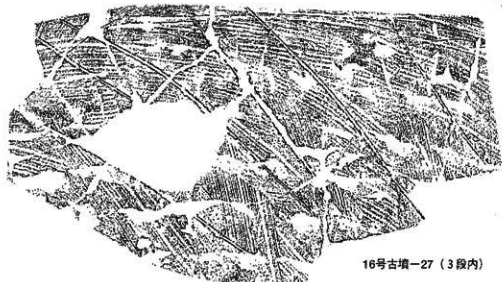
16号古墳-22 (3段外)



16号古墳-37 (3段外)



16号古墳-23 (3段内)

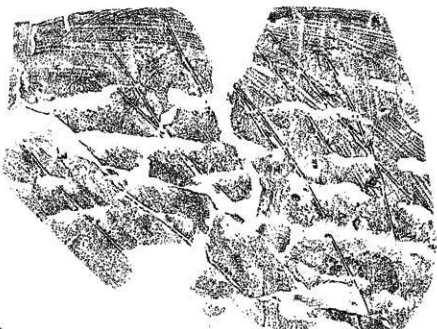


16号古墳-27 (3段内)

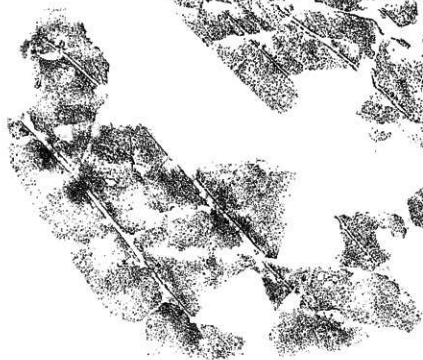
第380図 ヘラ記号集成⑧ (S=1/2)



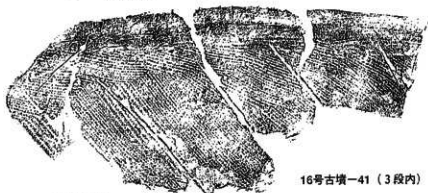
16号古墳-46 (3段内)



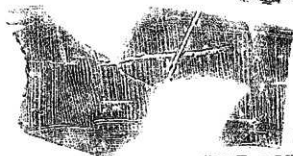
16号古墳-40 (3段内)



16号古墳-32 (3段内)



16号古墳-41 (3段内)



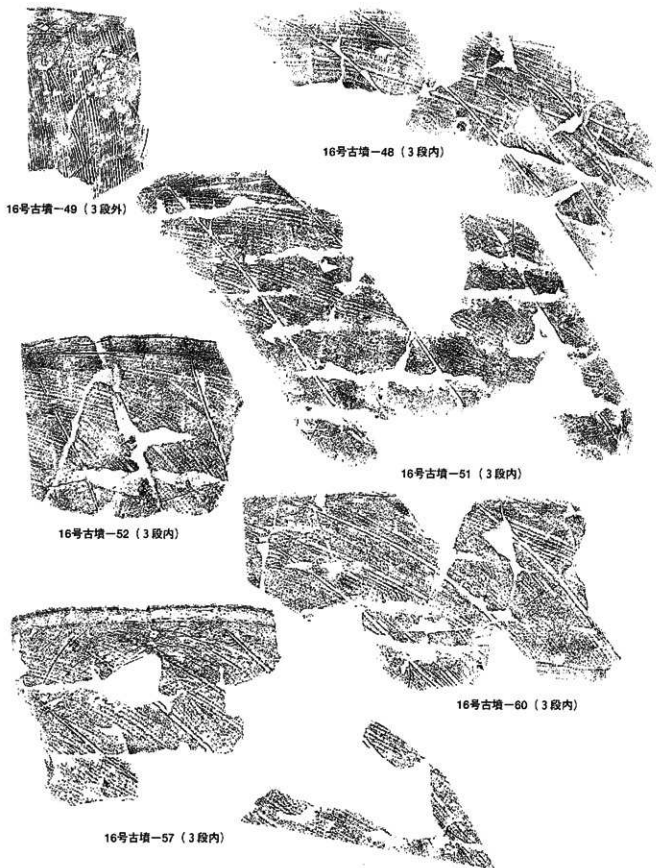
16号古墳-43 (2段外)



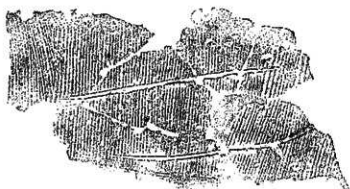
16号古墳-54 (2段外)

第381図 ヘラ記号集成⑩ (S=1/2)





第382図 へら記号集成① (S=1/2)



16号古墳-69 (3段外)



16号古墳-70 (3段内)



16号古墳-75 (3段外)

16号古墳-82 (3段内)



16号古墳-86 (3段内)



16号古墳-87 (3段内)

第383図 ヘラ記号集成表 (S=1/2)



16号古墳-89 (3段内)



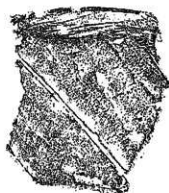
16号古墳-92 (3段内)



16号古墳-93 (3段内)



16号古墳-94 (3段内)



16号古墳-96 (3段内)

第384図 ヘラ記号集成③ (S=1/2)



16号古墳-98 (3段外)



16号古墳-100 (3段内)



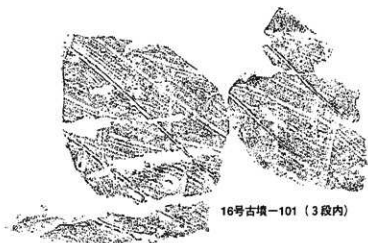
16号古墳-102 (3段内)



16号古墳-103 (3段内)



16号古墳-106 (3段外)



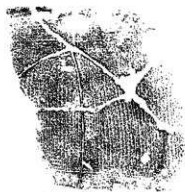
16号古墳-101 (3段内)



16号古墳-106 (3段外)



16号古墳-112 (3段内)



18号古墳-2 (3段外)

第385図 ヘラ記号集成① (S=1/2)



18号古墳-4 (3段外)



18号古墳-6 (3段内)



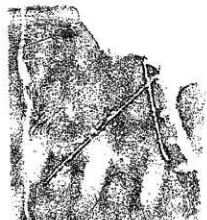
18号古墳-9 (3段外)



18号古墳-17 (3段外)



18号古墳-22 (3段内)



19号古墳-1 (3段内)



19号古墳-2 (3段内)



21号古墳-18 (3段内)



21号古墳-26 (2.3段内)



21号古墳-19 (3段内)



21号古墳-28 (3段内)



21号古墳-34 (3段内)



21号古墳-40 (3段内)



21号古墳-50 (3段内)



21号古墳-52 (3段内)

第387図 ヘラ記号集成(S=1/2)



21号古墳-55 (3段内)



21号古墳-56 (3段内)



21号古墳-57 (2段内)



21号古墳-60 (3段内)



21号古墳-61 (3段内)



21号古墳-62 (3段外)



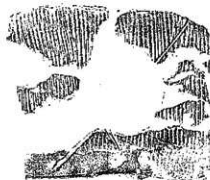
22号古墳-1 (3段内)



23号古墳-11 (2段外)



23号古墳-12 (3段外)



23号古墳-4 (2段外)



23号古墳-7 (外)



23号古墳-14 (2段外)

第388図 ヘラ記号集成⑩ (S=1/2)



23号古墳-18 (3段外)



23号古墳-22 (3段外)



23号古墳-25 (2段外)



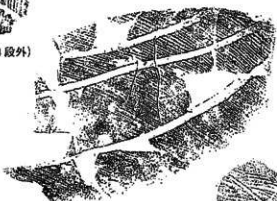
23号古墳-26 (3段外)



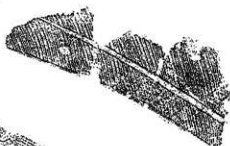
24号古墳-4 (3段外)



23号古墳-28 (3段外)



24号古墳-6 (3段内)



24号古墳-18 (外)



24号古墳-15 (3段内)



24号古墳-14 (外)



24号古墳-19 (外)



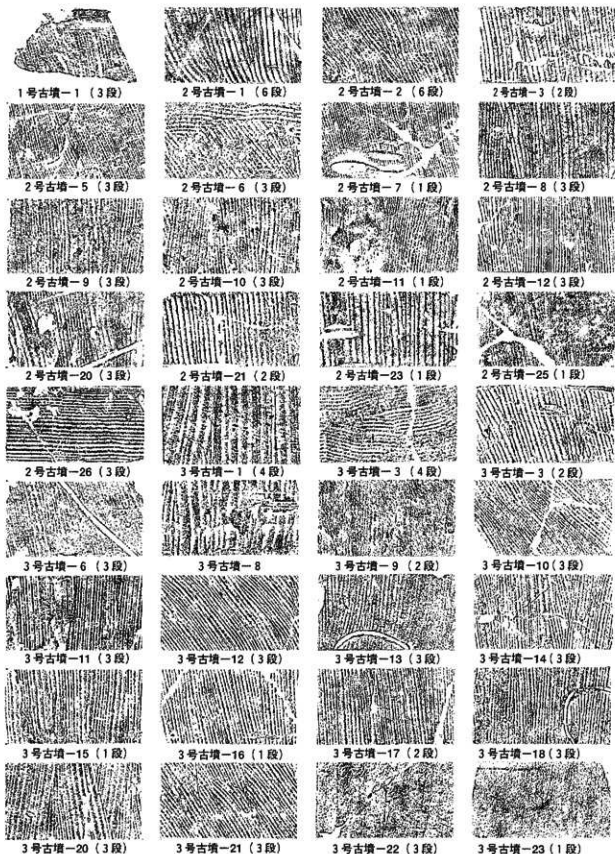
24号古墳-25 (3段内)



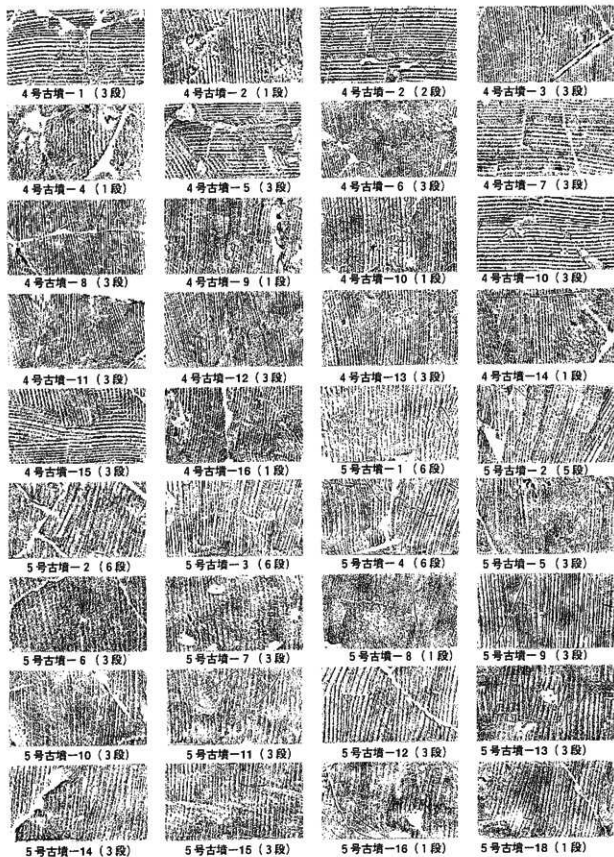
28号古墳-3 (外)

第389図 ヘラ記号集成⑬ (S=1/2)

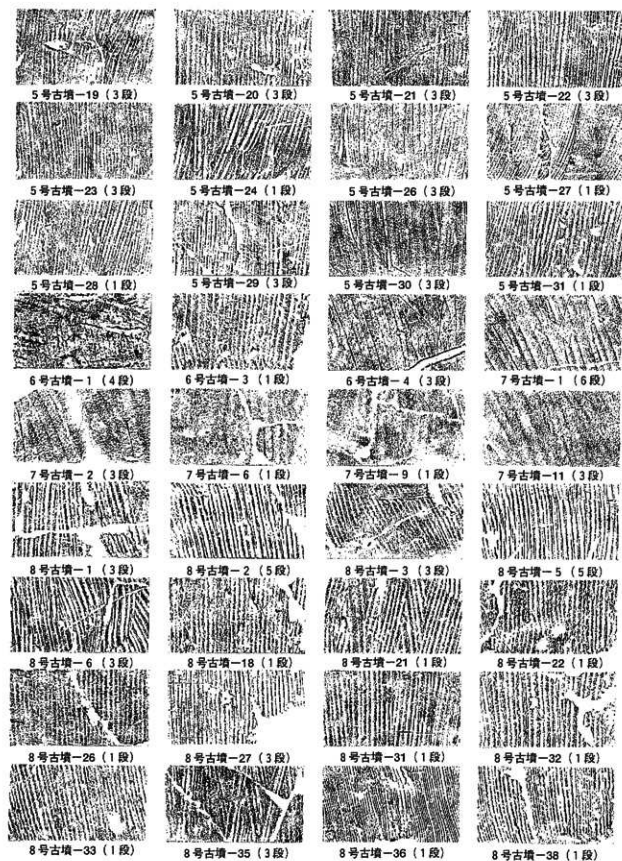




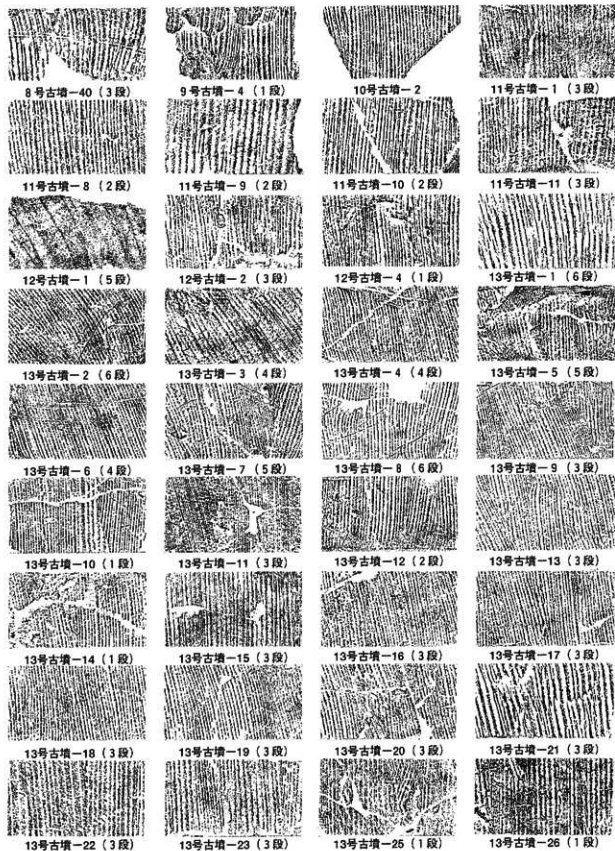
第390図 円筒埴輪ハケ目集成① (S=1/2)



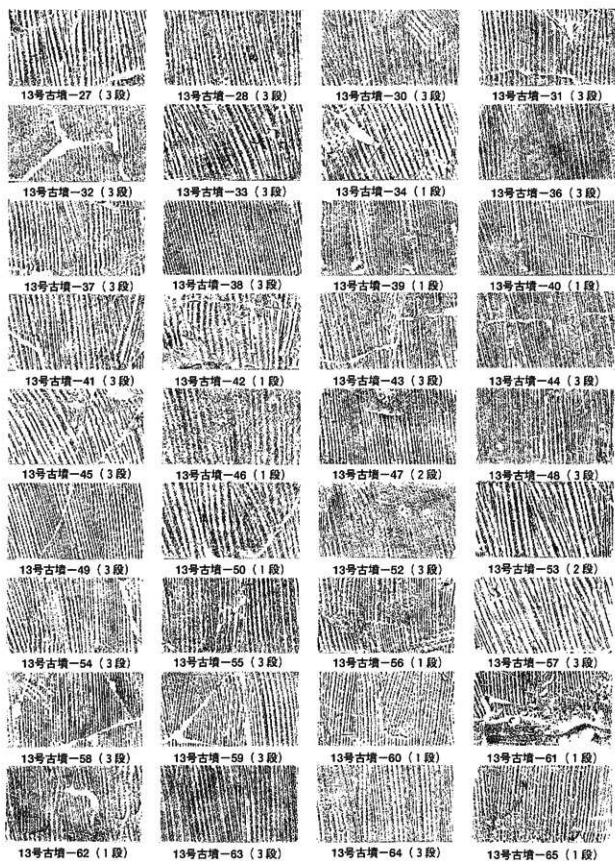
第391図 円筒埴輪ハケ目集成㊸ (S=1/2)



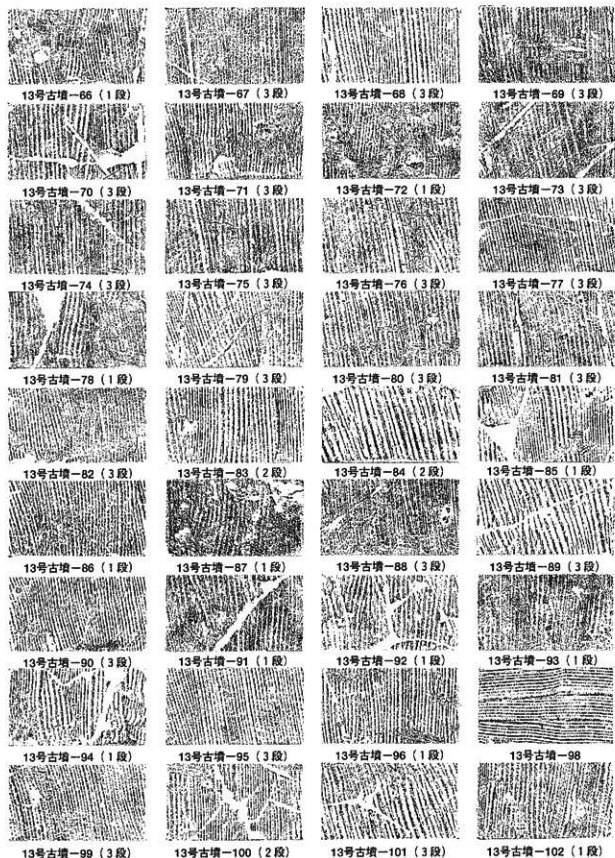
第392図 円筒地輪ハケ目集成③ (S=1/2)



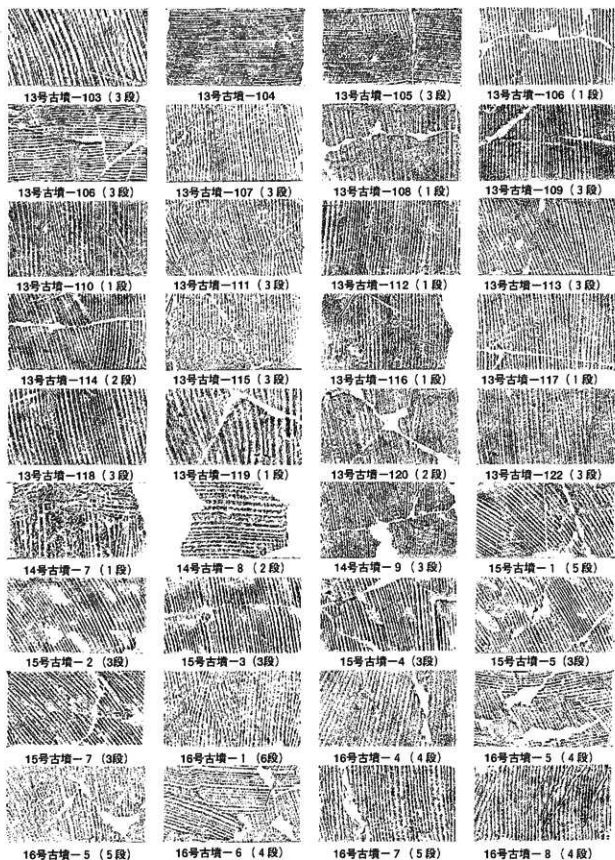
第393図 円筒埴輪ハケ目集成① (S=1/2)



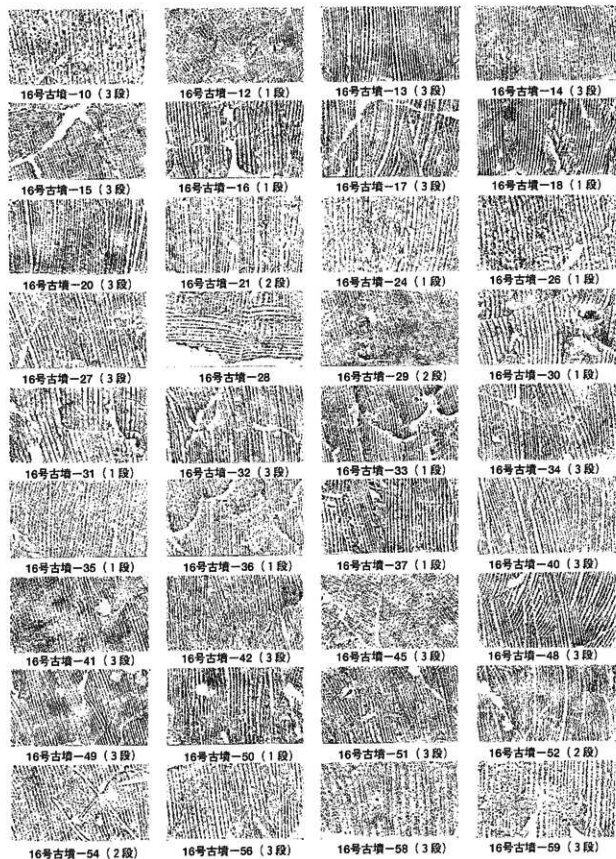
第394図 円筒増輪ハケ目集成⑤ (S=1/2)



第395図 円筒埴輪ハケ目集成⑤ (S=1/2)

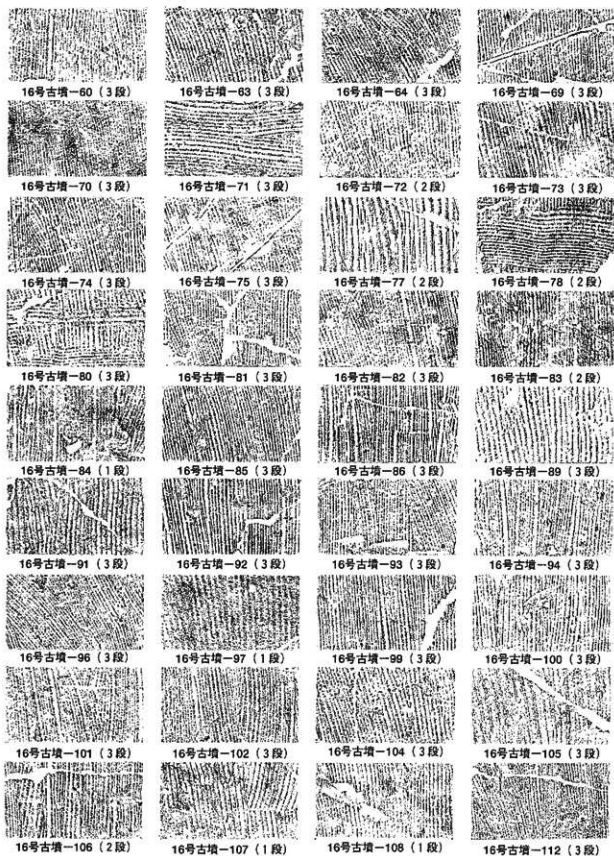


第396図 円筒罐輪ハケ目集成⑦ (S=1/2)

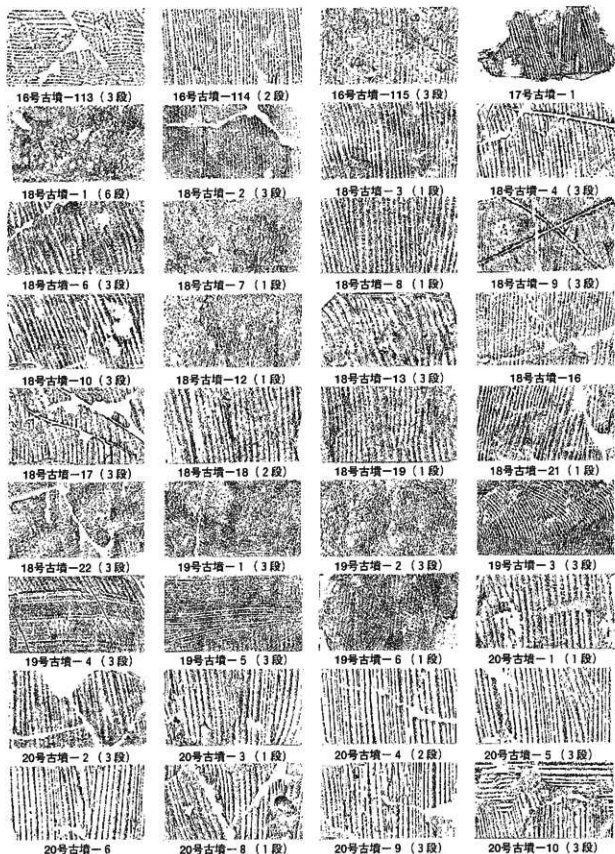


第397図 円筒埴輪ハケ目集成③ (S=1/2)

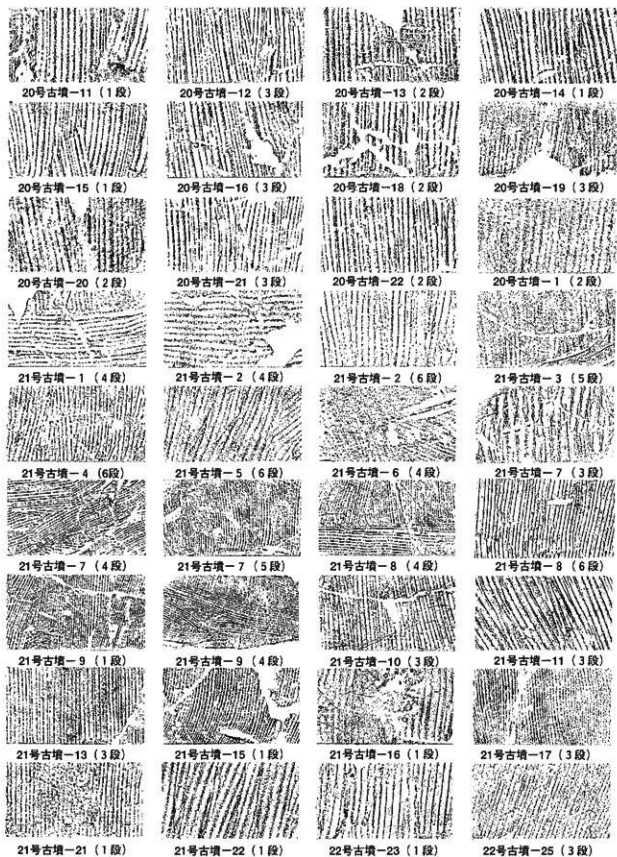




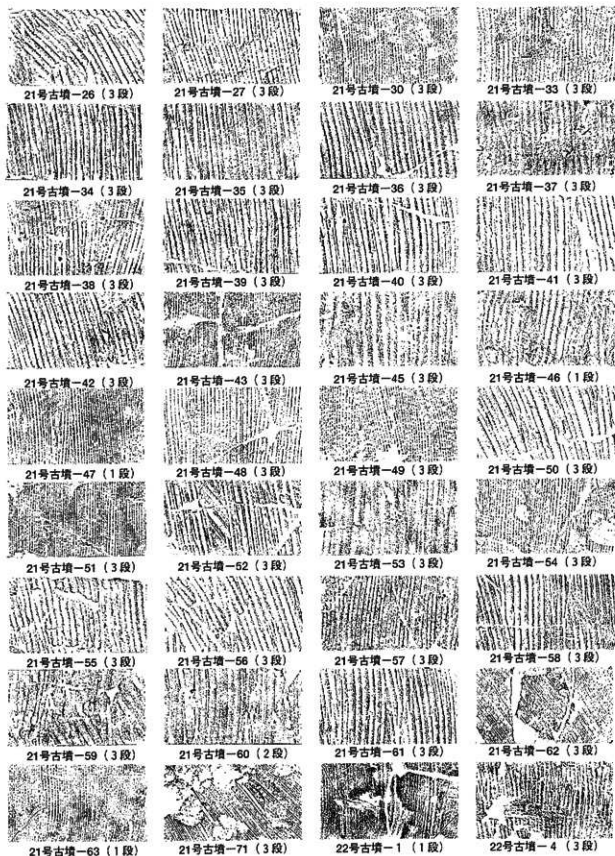
第398図 円筒壇輪ハケ目集成⑨ (S=1/2)



第399図 円筒埴輪ハケ目集成⑩ (S=1/2)



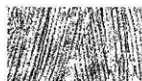
第400図 円筒織輪ハケ目集成① (S=1/2)



第401図 円筒埴輪ハケ目集成② (S=1/2)



22号古墳-5 (3段)



23号古墳-3 (4段)



23号古墳-4 (3段)



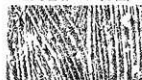
23号古墳-5 (1段)



23号古墳-6 (2段)



23号古墳-14 (3段)



23号古墳-15 (3段)



23号古墳-16 (1段)



23号古墳-17 (1段)



23号古墳-20 (1段)



23号古墳-21 (1段)



23号古墳-22 (3段)



23号古墳-23 (3段)



23号古墳-24 (1段)



23号古墳-25 (2段)



23号古墳-26 (3段)



23号古墳-27 (1段)



23号古墳-29 (1段)



23号古墳-30 (3段)



24号古墳-3 (5段)



24号古墳-5 (3段)



24号古墳-6 (3段)



24号古墳-8 (3段)



24号古墳-9 (3段)



24号古墳-10 (1段)



24号古墳-12 (1段)



24号古墳-13



24号古墳-15 (3段)



24号古墳-17 (3段)



24号古墳-21 (3段)



24号古墳-22



24号古墳-23 (1段)



24号古墳-25 (3段)



25号古墳-1



28号古墳-4



28号古墳-6 (3段)

第402図 円筒織輪ハケ目集成③ (S=1/2)

### 埴輪棺<sup>29)</sup>

19号古墳の南西墳丘裾部から埴輪棺が検出されている。この埴輪棺は長方形土坑内に3個体の円筒埴輪をつなぎ合わせたもので、同古墳周溝から出土した円筒埴輪(19Ⅰ類)とは明らかに異質のもの(19Ⅱ類)を使用している。小口の蓋・透し孔被覆の状態は不明であった。

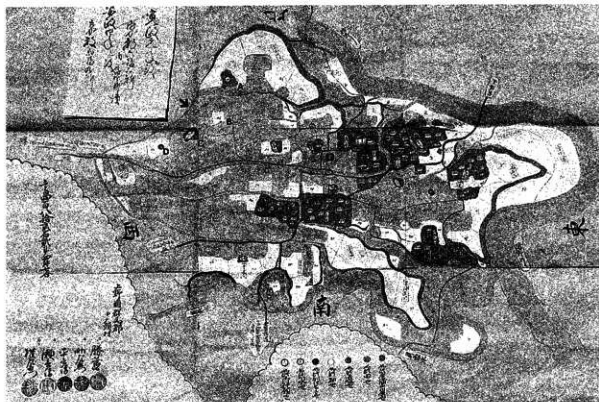
高崎市市内では倉賀野万福寺Ⅱ遺跡<sup>30)</sup>において、SK47・SK53・SK61・SK62の4基が調査されている。この内、埴輪棺SK47は楕円形土坑内に二次B種横ハケを施した凸帯3条4段構成の円筒埴輪を棺身としたもので、小口の鏝を配し、方形透し孔を持つ円筒埴輪片で被覆していた。なお、同埴輪棺は15号円形副溝溝の南東に隣接し、埴輪棺に近接して竈穴式小石塚も検出されている。

### (3) 古地図にみる高崎情報団地遺跡の古墳

上毛古墳総覧<sup>31)</sup>には中大類に2基・宿大類に2基の古墳が記載されているが、残念ながら高崎情報団地遺跡各古墳との対応関係を検討することができなかった。

ここでは、寛政元年(1789)の中大類絵図<sup>32)</sup>により若干の推察をしてみた。

絵図北西端の河川(矢印)が、中大類村と宿大類村との境界にあたり、高崎情報団地遺跡1号河川跡に相当すると思われる。同河川沿いには北東から山(A)・畑(B)・稲荷山(C)・山(D)が示されている。位置関係からみて、Bが帆立貝形の13号古墳、Cが同じく16号古墳と思われる。Aは33号古墳の可能性が高い。Dは2号古墳もしくは4号古墳とみられ、南西に続く畑には5号・7号古墳等が残骸をとどめていたと考えられる。また、他の古墳は18世紀後半には既に削平され、水田下に没していた状態にあったと判断される。



第403図 中大類村絵図(1789年作成、一部加筆)

### 第3節 道路状遺構について

#### 高崎情報団地遺跡の道路状遺構

本遺跡の道路状遺構（第4章第5節2）は、道幅9m前後・走行方向N-100°-E前後で、7世紀後半以降以降に構築され、8世紀末葉頃までに廃絶（機能低下）していたと判断される。道路の直線性・規模・時期から東山道駅路である可能性が高い。

#### 群馬県内の道路遺構

群馬県内における古代東山道については、昭和53年度からの歴史の道調査で推定路線が示された<sup>36)</sup>が、その後の発掘調査等により新発見が加わってきている<sup>37)</sup>。高崎情報団地遺跡の発掘調査以前には、県中央部・西部の高崎市・群馬町・前橋市・藤岡市や東部の境町・新田町などで古代道路遺構が調査されており、国府ルート、牛堀・矢ノ原ルート、日高ルート、下新田ルート<sup>38)</sup>などが明らかにされていた。

国府ルートは、野後駅-国府（群馬駅）間の「延喜式」<sup>39)</sup>東山道駅路と想定され、道幅平均6m程度・走行方向N-64°-65°-Eで、9世紀後半以降の開通と考えられる。

一方、牛堀・矢ノ原ルートは1983年の境町・牛堀遺跡の発掘調査以来、境町・新田町で明らかにされてきたルートで、「延喜式」駅路に先行する東山道駅路と考えられる。制溝心々距離12.6-13.7m・道幅約12m・走行方向N-83°-Eで、前者より規模が大きい。牛堀・矢ノ原ルートは、他の遺構との切り合い関係から8世紀第3四半世紀には廃絶あるいは道としての機能が低下していたものとみられる。

#### 高崎情報団地遺跡と牛堀・矢ノ原ルート

本遺跡の道路状遺構の廃絶時期は牛堀・矢ノ原ルートとはほぼ同時期であり、また、走行方向を東方に延長すると、広瀬川（旧利根川）渡河点の現伊勢崎市役所付近で牛堀・矢ノ原ルートの西方延長線と交わる状態にある。これらのことから本遺跡は牛堀・矢ノ原ルートと同ルートにあるものと判断される。道幅が本遺跡約9m、牛堀・矢ノ原ルート約12mという相違は、広瀬川渡河点を境にしている可能性が高い。

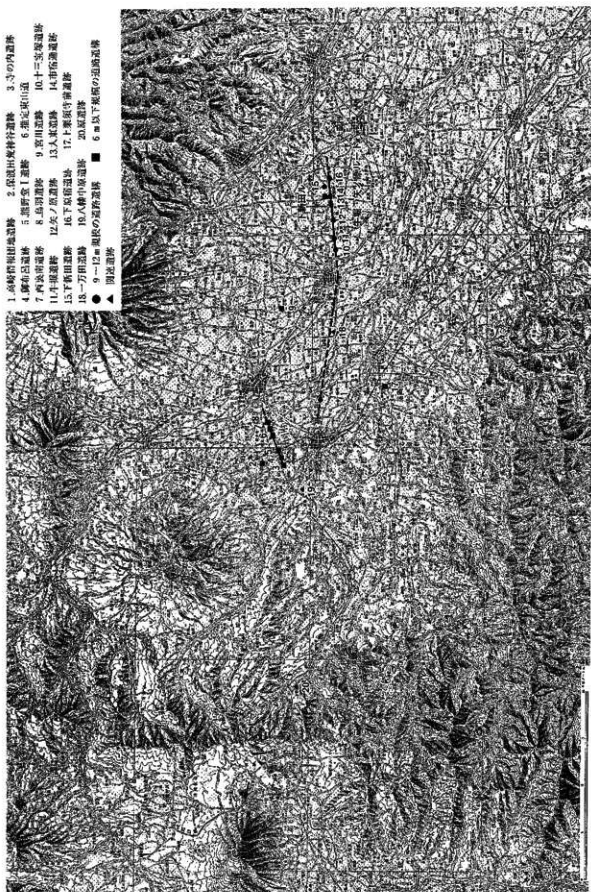
本遺跡-牛堀・矢ノ原ルートは、野後-新田駅間ひいては下野国以北への最短ルートといえる<sup>40)</sup>。東山道駅路の改築は、宝龜2年（771）に武蔵国が東山道から東海道へ所屬替えになったことに関連するとの見方もあるが、「初期の軍事的目的から、政策的な地域支配への変質によるもの」との見解も示されている<sup>41)</sup>。

また、同ルートに近接して一万田遺跡<sup>42)</sup>・八幡中原遺跡<sup>43)</sup>などがある。一万田遺跡は9世紀代まで下るようであるが、東西・南北100m以上の構列が確認され、「舎」の墨書土器も出土しており、官衙的色彩の濃い遺跡である。八幡中原遺跡では奈良時代の住居跡数十軒と多数の掘立柱建物跡が調査されている。今後、古代東山道の問題にからめて、こうした既調査遺跡の再評価をも考えていく必要があるように思われる。

### 第4節 補足

11区において地震に伴う液状化現象を確認している（P L 226）が、時期については断定できなかった。なお、『類聚国史』に弘仁9年（818）の大地震の記載があり、群馬県内では赤城山南麓を中心に大きな被害を受けている<sup>44)</sup>。本遺跡では洪水泥流と思われる暗灰褐色粘質土で埋没した9世紀代の溝が多数検出されている（第4章第5節6）が、この洪水が弘仁9年の大地震にともなって発生した可能性も考えられる。

第4章第4節遺構外出土遺物に掲載した土製の陶輪（18）は、埼玉県行田市・鴻池遺跡<sup>45)</sup>に類似がみられた。同遺跡では土製銅3点が五領期末の方形溝溝から出土しており、本遺跡の土製品も古墳時代前期の遺物と考えた方が妥当なようである。



第404図 遺跡の位置と周辺の道路遺構(国土院縮尺20万分の1「長野」「宇都宮」を縮小)



## 註・文献

- 1) 出口一郎 1981 「S字状口縁古付壺の分類と編年」『元島名塚塚古墳』高崎市教育委員会
- 2) 赤塚次郎 1990 「瀬田遺跡」伊賀知原埋蔵文化財センター
- 3) S字状口縁古付壺が藤岡地域でつくられたものなのか、あるいは混和村として精品片断のみが運ばれてきたものなのか二通りの可能性があるが、いずれにしても藤岡地域との関わりがあったことは確実である。
- 4) 高峰情報地誌藤岡古墳群の縁部には6世紀中葉の古墳もみられるが、6世紀前半に属するが、6世紀中葉の古墳は異系列のものだと判断される。
- 5) 右島和夫 1994 「上野における群集墳の成立」『東国古墳時代の研究』学生社  
同論文において右島氏は、5世紀後半から末葉（一部6世紀初頭から前半に及ぶものもある）にかけて形成された小塚円墳を中心とする古墳群を「初期群集墳」と定義しており、本報告書でもそれに準じた。
- 6) 註5) 文献
- 7) 飯塚 誠 1993 『少神山古遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 8) 群馬県史編さん委員会『群馬県史』資料編3 原始古代3
- 9) 尾崎喜左衛門 1971 「群馬県高崎市上毛古墳線竪穴式土器二号古墳」『年報』19、日本考古学協会
- 10) 註8) 文献
- 11) 梅沢重昭 1970 「群馬県群馬郡総貫不動山古墳」『年報』18、日本考古学協会
- 12) 註8) 文献
- 13) 原始・古代部会 1995 「岩宮八幡北古墳の地輪」『高崎史研究』4、高崎市史編さん専門委員会
- 14) 櫻本誠一 1984 「帆立貝形古墳について」『考古学雑誌』69巻第3号、日本考古学会
- 15) 志村 哲一 1995 「本郷地輪形古墳とその周辺」『関東における地輪の生産と供給』日本考古学協会茨城大会実行委員会
- 16) 南雲芳昭 1987 「A区2号墳・3号墳出土の地輪について」『行幸田山遺跡』渋川市教育委員会
- 17) 須藤 宏 1992 「古墳出土の土製品と土製小道具」『後二子古墳・小二子古墳』前橋市教育委員会  
上記論文によるほか、須藤氏からご教示をいただいた。
- 18) 山田邦和 1992 「装飾付須恵器総覧」『古代学研究所研究紀要』第2輯、助古代学協会  
柴垣勇夫・野末浩之 1995 「装飾須恵器総覧」愛知県埋蔵文化財部
- 19) 註17) 文献
- 20) 高崎市観音塚考古資料館蔵。同館並びに高崎市教育委員会のご厚意により本報告書に掲載させていただいた。
- 21) 山崎丈夫 1984 「天王山古墳」本町町教育委員会
- 22) 1994年9月12日付け読売新聞の報道による。
- 23) 東日本埋蔵文化財研究会 1993 「古墳時代の祭祀」
- 24) 今泉泰之、他 1981 「御山遺跡」御山遺跡調査会
- 25) 馬形地輪については井上裕一氏に種々ご教示をいただいた。
- 26) 日高 慎氏ご教示。
- 27) 大田区立博物館 1995 「武蔵国道の風」東京美術
- 28) 神戸聖語、他 1985 「万相寺遺跡」高崎市教育委員会
- 29) 橋本博文 1980 「円筒埴輪と地輪」『古代探査-滝口宏先生古物記念考古学論叢』早稲田大学出版部
- 30) 関口 修、他 1994 「含賀野万福寺遺跡」高崎市遺跡調査会
- 31) 群馬県 1938 「上毛古墳総覧」群馬県史跡名勝天然記念物調査報告 第5輯
- 32) 高井和重家文書 No.21。平成6年1月17日付け、高崎市史編さん室より掲載許可。
- 33) 群馬県教育委員会 1983 『歴史の道調査報告書 東山道』群馬県歴史の道調査報告書第16集
- 34) 木下 良 1990 「日本古代律令期に敷設された直線的計画道の復元的研究」麗学院大学  
坂爪久純・小宮俊久 1992 「古代上野国における道路遺構について」『古代交通研究』創刊号、古代交通研究会  
長井正秋 1995 「高峰情報地誌藤岡の古代道路遺構」『古代交通研究』第4号、古代交通研究会  
坂爪久純 1996 a 「上野国の古代道路」『古代文化』VOL.47、(附) 古代学協会  
坂爪久純 1996 b 「東山道遺跡と牛堀」『地町史』第3巻歴史編上、地町  
木本雅雄 1996 「東山道」『古代を考える-古代道路』吉川弘文館  
森田 伸 1996 「上野国内の東山道」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』第45巻、群馬大学
- 35) 各ルートの名称は註34) 坂爪1996 a 文献等による。
- 36) 延長5年(927)完成の『延喜式』兵部省諸国駅伝馬桑では上野国の駅として坂本・野後・群馬・佐位・新田の5駅が記載されている。『新訂増補 國史大系 延喜式』後編、吉川弘文館
- 37) 註34) 木下1990文献において、碓氷川河口部の高崎付近から伊勢崎市南部を経て牛堀・矢ノ原ルートに至る延喜式以前の駅路の存在が予測されている。
- 38) 註34) 坂爪1996 a 文献
- 39) 玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 1992 「一万田遺跡」現地説明会資料
- 40) 神戸聖語、他 1982 「八幡中原遺跡」高崎市教育委員会
- 41) 新里村教育委員会 1991 『資料集 赤城山麓の歴史地質』
- 42) 山川守男 1993 『滝田遺跡』『古墳時代の祭祀』東日本埋蔵文化財研究会

## 抄 録

フリガナ	タカサキジョウホウダナンチ イセキ
書名	高崎情報団地遺跡
シリーズ名	高崎市遺跡調査会文化財調査報告書
シリーズ番号	第55集
編著者名	長井正欣、神戸聖語、古環境研究所
編集機関	山武考古学研究所 / 〒286 千葉県成田市並木町221
発行機関	高崎市遺跡調査会 / 〒370 群馬県高崎市高松町1番地
発行年月日	西暦1997年3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
高崎情報 団地	群馬県高崎市 中大須町、宿 大須町	102024	217	36° 19' 17" 36° 19' 27"	139° 03' 22" 139° 03' 28"	19921207 19940615	78,468 m <sup>2</sup>	高崎情報 団地建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高崎情報 団地	墳墓 集落跡	弥生時代 古墳時代前期	方形周溝墓7基、 住居跡64軒、掘立 柱建物跡13棟、土 坑11基、溝10条	弥生土器、 S字台付壺、土師器、 手捏、磨製石斧、管玉、 砥石	83号土坑から大形壺(棺 か)・58号溝から遺物大 量に出土・3号掘立柱建 物跡から炭化稲
	墳墓 集落跡	古墳時代 中・後期	古墳33基、住居跡 40軒、土坑10基、 溝11条	形象埴輪、朝顔形円筒埴 輪、円筒埴輪、鳥付円筒 埴輪、人物付円筒埴輪、 土馬、土師器、須恵器、 紡錘車、勾玉、管玉、砥 石、土製品、石製模造品	帆立貝形古墳4基を中核 とする古墳群 19号古墳に埴輪棺 北東部に集落が展開
	集落跡 道路跡 墳墓 水田跡	奈良・平安 時代	住居跡27軒、掘立 柱建物跡7棟、道 路状遺構、土坑7 基、配石墓1基、 溝33条、水田跡	土師器、須恵器、灰甕陶 器、灯明坏、紡錘車、刀 子、磨石、砥石、土鏝、 瓦	東山道駅路 浅間B軽石下水田跡
	館跡等	中・近世	館跡1、集石5基、 井戸3基、土坑49 基、ピット群、畝 状遺構2基、溝26 条、河川跡2条	陶磁器、青磁、煙管、占 錢、石臼、砥石、板碑、 滑石製鍋	館跡の堀から元弘三年の 板碑 32号土坑から滑石製鍋片 出土
		不明	住居跡10軒、土坑24 基、掘立柱建物跡2 棟、溝25条、塚穴3 基		

## ABSTRACT

Title of this book	Takasaki-johodanchi (Takasaki Information Area) site
Editor and Writer	Masayoshi Nagai, Seigo Kanbe, Paleoenvironment Reserch Institute
Editorial office	Sanbu Archaeological Reserch Institute / 221.Namiki-cho,Narita city,Chiba
Publishing office	Takasaki City Investigating Association / 1.Takamatu-cho Takasaki city,Gunma
Date of publication	March 25, 1997

Site's Name	Location	Municipality Code	North Latitude	Duration	Investigation area	Cause of Investigation
			East Longitude			
Takasaki-johodanchi site	Nakaorui machi and Syukuorui machi, Takasaki city, Gunma Prefecture	102024 Site's No.217	36° 19' 17"	19921207 19940615	78,468 m <sup>2</sup>	construction of Takasaki Information Area
			36° 19' 27"			
			139° 03' 22"			
			139° 03' 28"			

Site's Name	Sort	Chief Period	Structural Remains	Chief Artifacts
Takasaki-johodanchi site		Jomon period		jomon pottery, stone tools
	tomb settlement	Yayoi period Kofun period Early phase	square-shaped moated burial precinct ..... 7 pit dwelling ..... 64 building with pillars embedded directly in the ground ..... 13 earthen pit ..... 11 ditch ..... 10	yayoi pottery, pedestaled pot with character S-shaped rim, haji ware, hand modelling ware, polished stone axe, cylindrical bead, whetstone
	tomb settlement	Kofun period Middle phase Late phase	mounded tomb ..... 33 pit dwelling ..... 40 earthen pit ..... 10 ditch ..... 11	representational haniwa, cylindrical haniwa with flaring mouth, cylindrical haniwa, cylindrical haniwa with a bird figure, cylindrical haniwa with a man figure, horse-shaped terracotta figure, haji ware, sue ware, spindle whorl, curved bead, cylindrical bead, whetstone, clay objects, stone replicas of various objects
	settlement road tomb paddy rice fields	Nara period Heian period	pit dwelling ..... 27 building with pillars embedded directly in the ground ..... 7 road earthen pit ..... 7 burial which is enclosed by stone alignments ..... 1 ditch ..... 33 paddy rice fields	haji ware, sue ware, ash glazed ceramics, light bowl, spindle whorl, knife, stone for straw mat, whetstone, clay weight, roof-tile
	manor house, etc.	Medieval period Pre-modern period	manor house ..... 1 stone gathering ..... 5 well ..... 3 earthen pit ..... 49 crowd of pits furrows ..... 2 ditch ..... 26 brook ..... 2	collective term for high-fired and glazed ware, celadon, pipe, old coin, stone mortar, whetstone, stele, steatite cooking vessel
		Not clear	pit dwelling ..... 10 earthen pit ..... 24 building with pillars embedded directly in the ground ..... 2 ditch ..... 25 pit ..... 3	